大東市埋蔵文化財調査報告第24集

中垣内遺跡

－大阪産業大学教員研究棟（14号館）建設に伴う発掘調査報告書－

２００６年３月

大東市教育委員会

大東市埋蔵文化財調査報告第24集

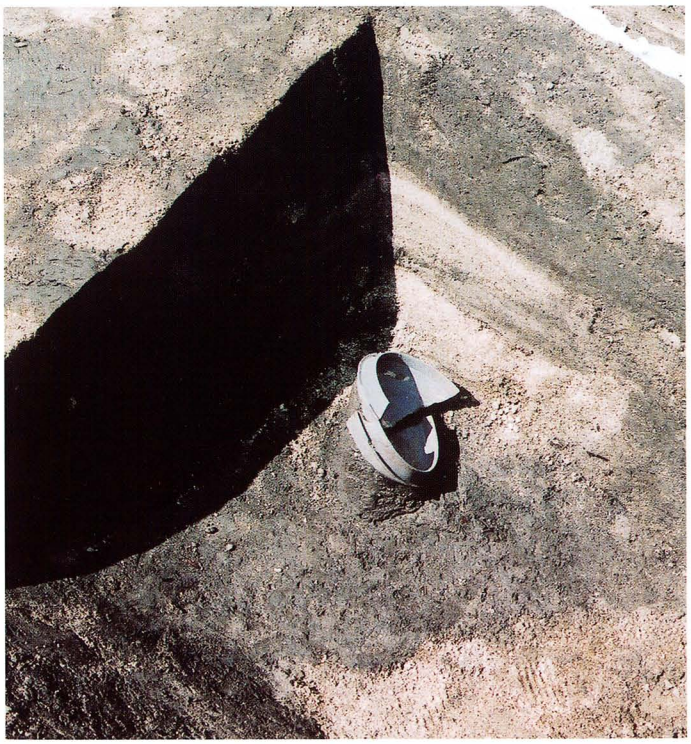
中　垣　内　遺　跡

－大阪産業大学教員研究棟（14号館）建設に伴う発掘調査報告書－

２００６年３月

大東市教育委員会

1．第２遺構面全景（西より）



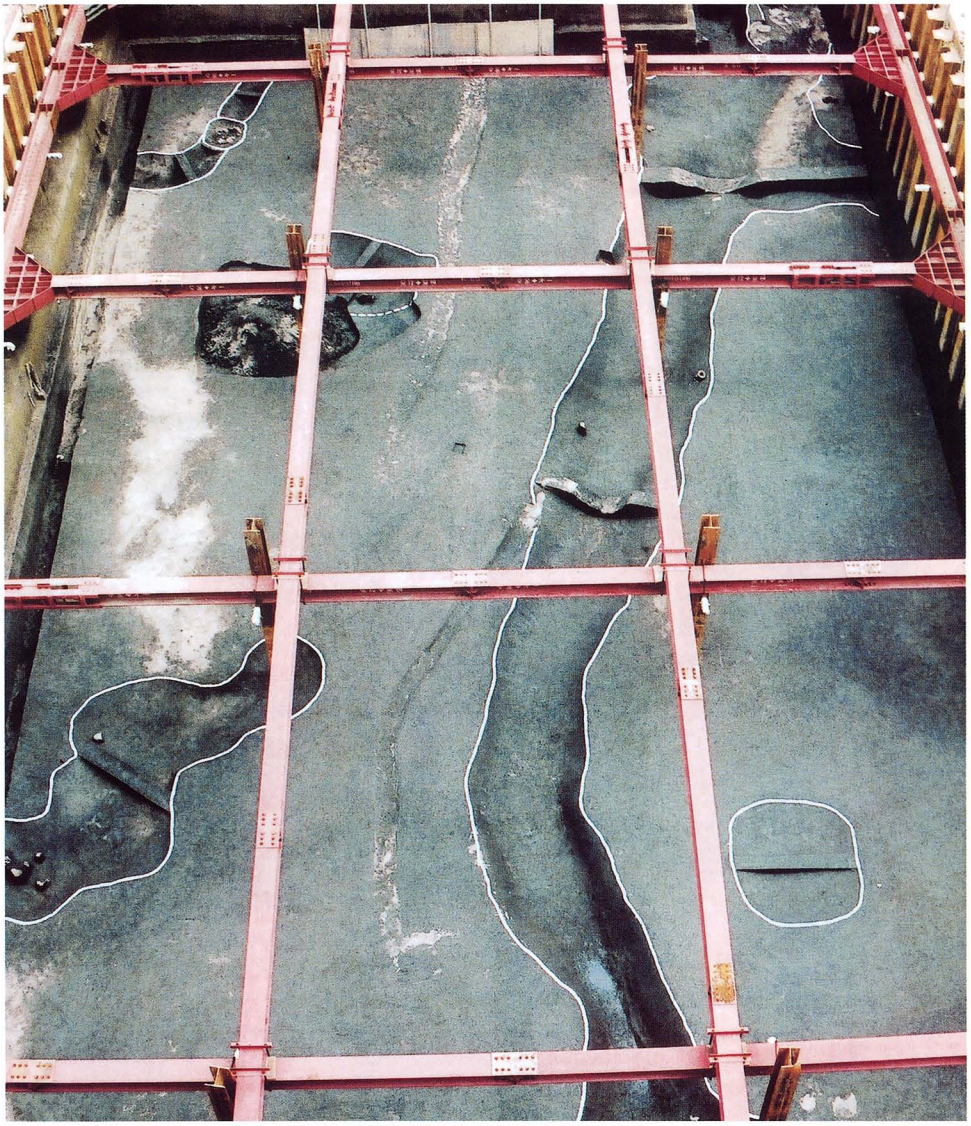
2．ＳＤ−206出土土器（南東より）

3．ＳＤ−207出土土器（南より）

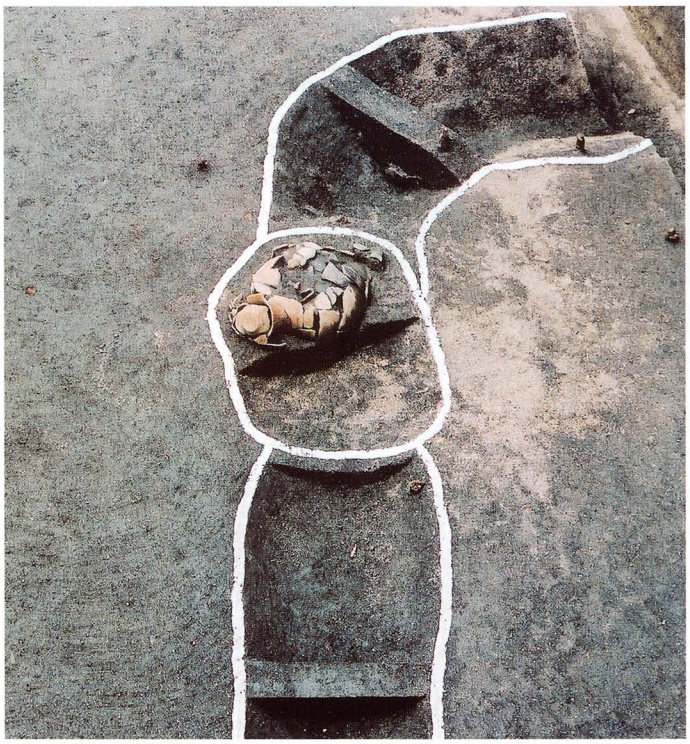
1．第３遺構面全景（西より）

2．ＳＤ−309遺物出土状況

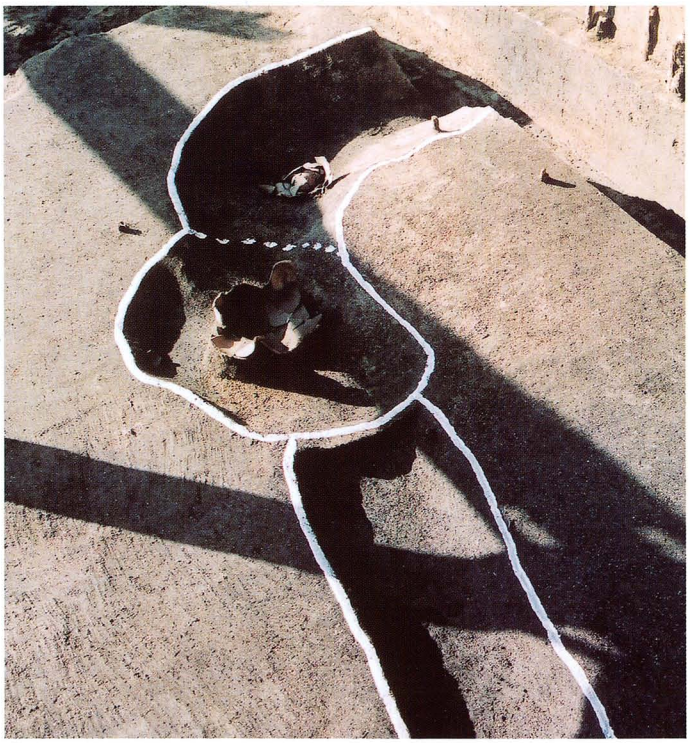
3．同左　拡大



1．第４遺構面全景（西より）



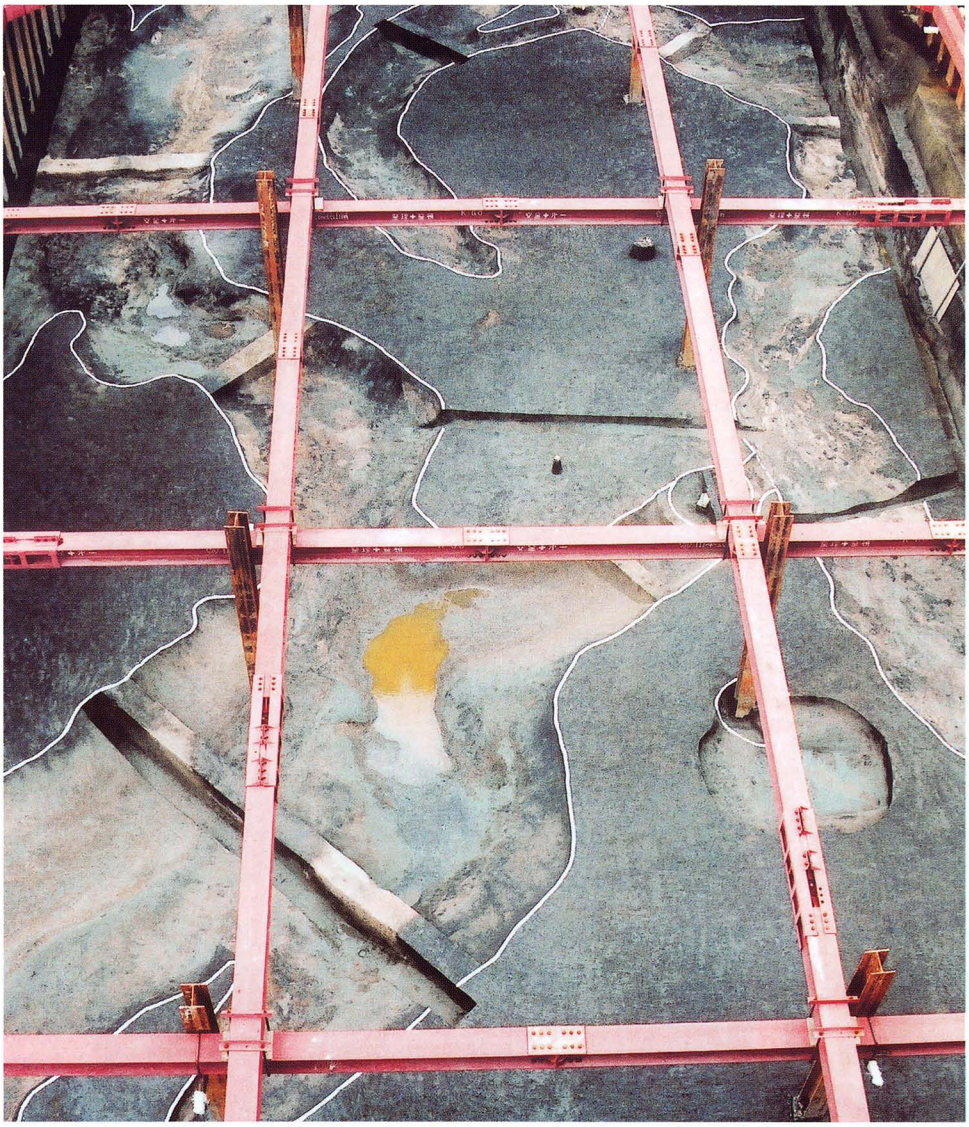
2．ＳＤ−407・ＳＫ−402（東より）



3．ＳＤ−407・ＳＫ−402完掘状況（南東より）

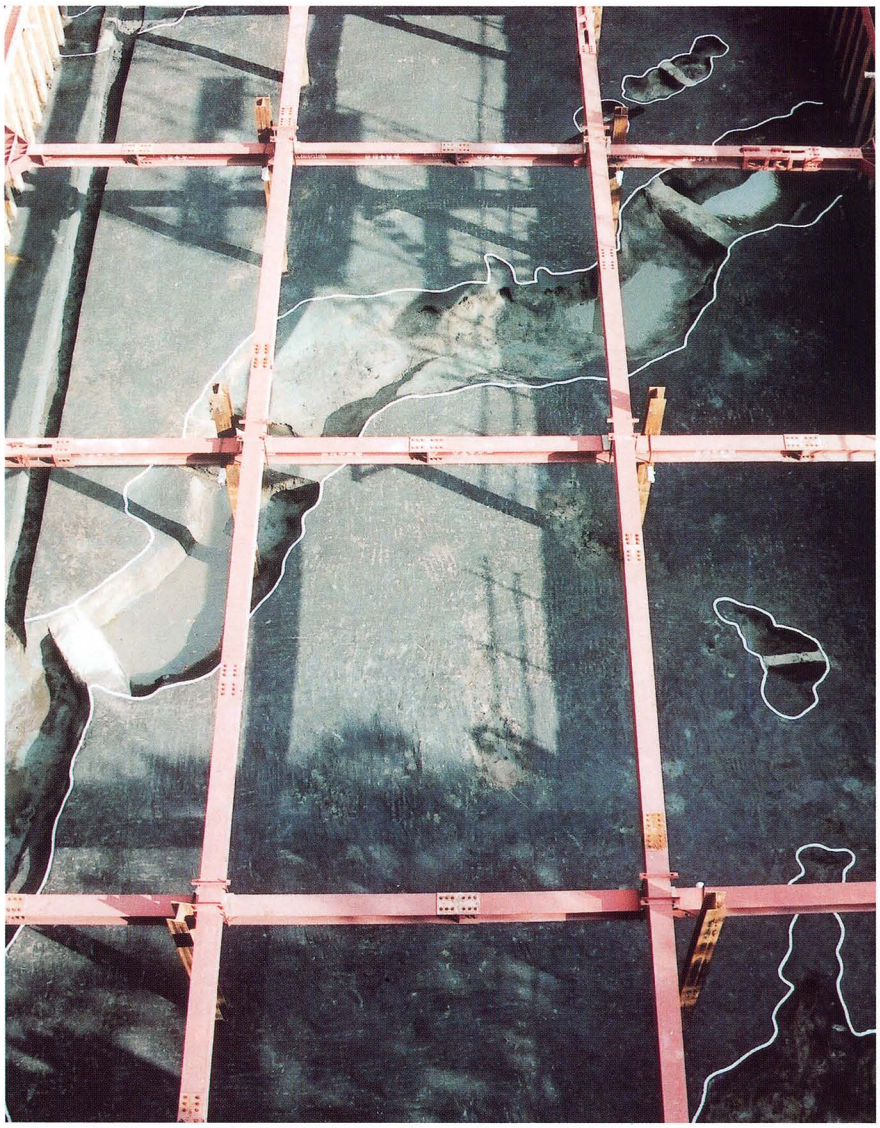
1．ＳＫ−402遺物出土状況（西より）

2．ＳＫ−404遺物出土状況（西より）（東壁②）

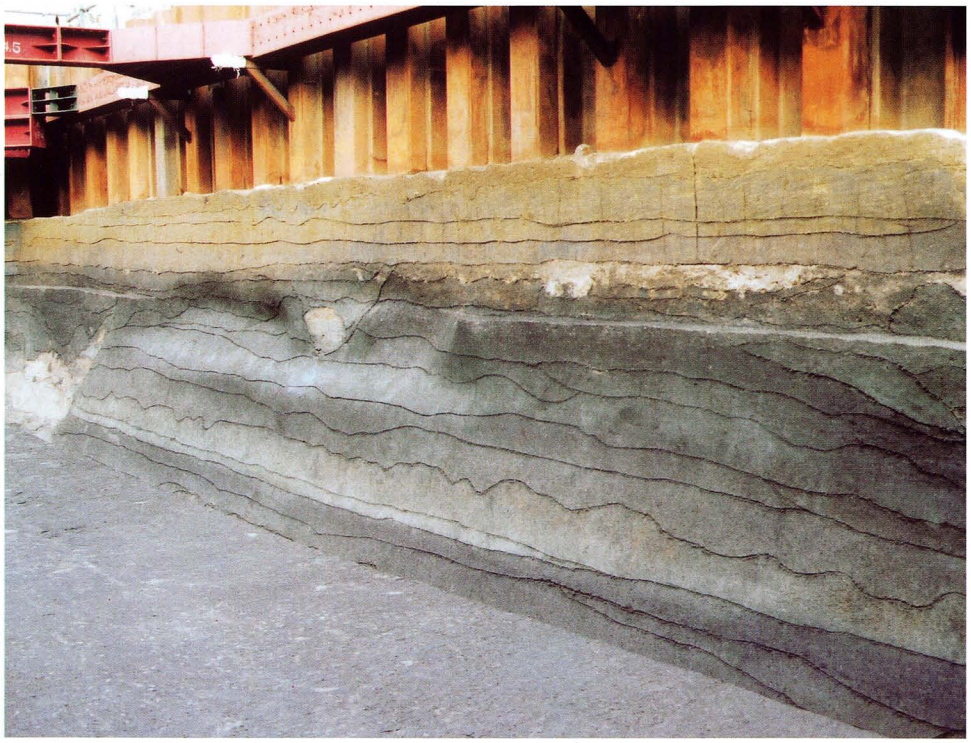


1．第５遺構面全景（東より）

2．ＳＤ-501遺物出土状況



1．第6遺構面全景（西より）



2．東壁土層断面（南西より）

1．人形状木製品

2．壺棺蓋

3．壺棺

序　　文

大阪府の北東部に位置する大東市は、東部に飯盛山を含む生駒山系が南北に連なり、西部では古くは河内湾、河内湖、また江戸時代の中頃までは深野池という大きな池があり、山と海に彩られた多様で豊かな自然を古来より有していました。

そのような環境のなか、大東市域の多くの先人達は個性豊かな歴史、文化を育んできました。そして、その遺産である遺跡、美術工芸品、伝統行事など、いわゆる文化財も数多く残されています。

この度、報告することになりました中垣内遺跡は昭和34年以来、数十回にわたって調査が実施され、遺跡の様相については多くのことが明らかにされてきました。

今回の発掘調査につきましても縄文～近世に至る実態を明らかにすることができましたが、特に弥生時代の墓を発見するなど、弥生集落として知られてきた中垣内遺跡の更なる解明につながる大きな成果を得ることができました。このことは大東市域に限らず周辺地域も含めての歴史・文化を考えるうえでも、たいへん貴重な成果であると思われます。

今後、これらの成果を市民共有の財産として活用していくと共に、本報告書が本市の歴史や文化を知る基礎資料として活用され、歴史や文化財に対する理解を深めるための契機となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査および整理作業の費用負担をはじめ多大なご協力を賜りました学校法人大阪産業大学をはじめ、お世話になりました関係機関・各位に厚くお礼申し上げます。

また教育委員会では、今後とも先人より受け継いできました貴重な文化財を大切に保存し、未来を担う次世代に託したく努力する所存でありますので、市民の皆様方におかれましては今後とも本市の文化財保護行政にご理解、ご協力賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成18年3月

大東市教育委員会
教育長　中　口　　馨

例　　言

1．本書は、大阪府大東市中垣内４丁目における中垣内遺跡発掘調査（ＮＧＴ94-１）の報告書である。

2．調査は校舎建設に伴うもので、学校法人大阪産業大学より依頼を受け、大東市教育委員会が実施した。

3．発掘調査および整理作業は大東市立歴史民俗資料館、中逵健一が担当した。

4．本調査に係る費用については学校法人大阪産業大学がこれを負担した。記して感謝の意を表する。

5．調査面積は575.12㎡。調査期間は平成６年７月26日～平成６年11月22日である。

6．現地調査、整理作業にあたっては下記の諸氏の協力を得た。（敬称略、五十音順）

［現地調査］

大谷聡、甲斐範浩、萩野登、吉野正泰

［整理作業］

大谷聡、甲斐範浩、川崎昌美、谷崎光子、萩野登、樋口里美、宮澤淳也、宮田八重子、村尾奈津子森石千枝子、吉野正泰

7．本調査における基準点、水準点の設置は、ワールド航測コンサルタント株式会社（現、株式会社ワールド）に委託した。

8．本調査で使用した座標は国土座標第Ⅵ系であり、方位は座標北を使用している。また、標高は東京湾標準潮位である。尚、国土座標の数値については日本測地系での表示である。

9．報告書作成に係る一部図面作成、遺物観察表、遺物写真撮影については、大東市教育委員会の指導のもと、財団法人元興寺文化財研究所に委託した。

また、一部出土木製品の保存処理についても、財団法人元興寺文化財研究所に委託した。

10．本書の執筆、編集は中逵が行った。

11．本調査に関わる出土遺物、実測図、写真、カラースライド等の各資料は大東市立歴史民俗資料館において保管している。広く利用されることを希望する。

本　文　目　次

序文
例言
第１章　調査に至る経緯 …… 1
第２章　遺跡の位置と環境 …… 3
第３章　調査の方法 …… 6
第４章　調査成果 …… 7
　第１節　基本層序 …… 7
　第２節　第１遺構面 …… 14
　第３節　第２遺構面 …… 19
　第４節　第３遺構面 …… 29
　第５節　第４遺構面 …… 37
　第６節　第５遺構面 …… 53
　第７節　第６遺構面 …… 59
第５章　まとめ …… 65

挿　図　目　次

第１図　調査地位置図 …… 2
第２図　大東市位置図 …… 3
第３図　周辺遺跡分布図 …… 5
第４図　調査区区割図 …… 6
第５図　調査区北壁断面図 …… 9～10
第６図　調査区東壁断面図 …… 11～12
第７図　包含層等出土遺物(1) …… 13
第８図　包含層等出土遺物(2) …… 14
第９図　第１遺構面　各溝（ＳＤ）断面図 …… 15
第10図　第１遺構面全体図 …… 17～18
第11図　第２遺構面　各溝（ＳＤ）断面図 …… 19
第12図　第２遺構面全体図 …… 21～22
第13図　ＳＤ-201遺物出土状況図 …… 23
第14図　ＳＤ-202遺物出土状況図 …… 23
第15図　ＳＤ-206遺物出土状況図 …… 24
第16図　ＳＤ-207遺物出土状況図(1) …… 24
第17図　ＳＤ-207遺物出土状況図(2) …… 24
第18図　第２遺構面　各土坑（ＳＫ）平・断面図 …… 27
第19図　第２遺構面出土遺物 …… 28

第20図　第３遺構面　各溝（ＳＤ）断面図 …… 29
第21図　第３遺構面全体図 …… 31～32
第22図　ＳＤ-309遺物出土状況図(1) …… 34
第23図　ＳＤ-309遺物出土状況図(2) …… 34
第24図　第３遺構面　各土坑（ＳＫ）平・断面図 …… 35
第25図　第３遺構面出土遺物 …… 36
第26図　第４遺構面　各溝（ＳＤ）断面図 …… 37
第27図　第４遺構面全体図 …… 39～40
第28図　ＳＤ-401遺物出土状況図 …… 42
第29図　ＳＤ-403遺物出土状況図(1) …… 42
第30図　ＳＤ-403遺物出土状況図(2) …… 42
第31図　ＳＤ-403遺物出土状況図(3) …… 42
第32図　ＳＤ-404遺物出土状況図(1) …… 43
第33図　ＳＤ-404遺物出土状況図(2) …… 43
第34図　ＳＤ-405遺物出土状況図 …… 43
第35図　ＳＤ-407・ＳＫ-402（方形周溝墓）平・断・遺物出土状況図 …… 44
第36図　ＳＤ-408遺物出土状況図 …… 45
第37図　第４遺構面　各土坑（ＳＫ）平・断面図 …… 46
第38図　ＳＫ-403遺物出土状況図 …… 46
第39図　ＳＤ-401・403出土遺物 …… 47
第40図　ＳＤ-405出土遺物 …… 47
第41図　ＳＤ-404出土遺物(1) …… 48
第42図　ＳＤ-404出土遺物(2) …… 49
第43図　ＳＤ-407（方形周溝墓）出土遺物 …… 50
第44図　ＳＫ-402出土遺物（壺棺） …… 51
第45図　ＳＤ-408・ＳＫ-403出土遺物 …… 52
第46図　第５遺構面　各溝（ＳＤ）・自然流路（ＮＲ）断面図 …… 53
第47図　第５遺構面全体図 …… 55～56
第48図　ＳＤ-501遺物出土状況図 …… 57
第49図　第５遺構面　各土坑（ＳＫ）平・断面図 …… 58
第50図　ＳＤ-501・ＮＲ-501出土遺物 …… 58
第51図　第６遺構面　各自然流路（ＮＲ）断面図 …… 59
第52図　第６遺構面全体図 …… 61～62
第53図　第６遺構面　各土坑（ＳＫ）平・断面図 …… 63
第54図　ＮＲ-601・603出土遺物 …… 64

表　目　次

第１表　出土遺物一覧表 …… 66

写真図版目次

巻頭カラー図版１
１．第２遺構面全景（西より）　２．ＳＤ-206出土土器（南東より）
３．ＳＤ-207出土土器（南より）
巻頭カラー図版２
１．第３遺構面全景（西より）　２．ＳＤ-309遺物出土状況
３．同左　拡大
巻頭カラー図版３
１．第４遺構面全景（西より）　２．ＳＤ-407・ＳＫ-402（東より）
３．ＳＤ-407・ＳＫ-402完掘状況（南東より）
巻頭カラー図版４
１．ＳＫ-402遺物出土状況（西より）　２．ＳＫ-404遺物出土状況（西より）（東壁②）
巻頭カラー図版５
１．第５遺構面全景（東より）　2．ＳＤ-501遺物出土状況
巻頭カラー図版６
１．第６遺構面全景（西より）　２．東壁土層断面（南西より）
巻頭カラー図版７
１．人形状木製品　２．壺棺蓋
３．壺棺
図版１　遺構(1)
１．第１遺構面全景（西より）　２．第１遺構面西半部（南東より）
図版２　遺構(2)
１．第２遺構面全景（西より）　２．第２遺構面全景（東より）
図版３　遺構(3)
１．ＳＤ-201・202（西より）　２．ＳＤ-201遺物出土状況①
図版４　遺構(4)
１．ＳＤ-201遺物出土状況②　２．ＳＤ-202遺物出土状況
図版５　遺構(5)
１．ＳＤ-205・206（西より）　２．ＳＤ―206遺物出土状況
図版６　遺構(6)
１．ＳＤ-207（北西より）　２．ＳＤ-207遺物出土状況
図版７　遺構(7)
１．第２遺構面水田　２．第２遺構面畦畔

図版８　遺構(8)

１．第３遺構面全景（西より）　２．第３遺構面西半部（北東より）

図版９　遺構(9)

１．ＳＤ−306（南東より）　２．ＳＤ−306石鏃出土状況

図版10　遺構(10)

１．ＳＤ−308（西より）　２．ＳＤ−309遺物出土状況①

図版11　遺構(11)

１．ＳＤ−309遺物出土状況②　２．ＳＤ−309遺物出土状況③

図版12　遺構(12)

１．ＳＤ−309遺物出土状況④　２．ＳＫ−303（西より）

図版13　遺構(13)

１．第４遺構面全景（西より）　２．第３遺構面東半部（北西より）

図版14　遺構(14)

１．ＳＤ−403（西より）　２．ＳＤ−403遺物出土状況

図版15　遺構(15)

１．ＳＤ−403遺物出土状況（拡大）　２．ＳＤ−404・405（西より）

図版16　遺構(16)

１．ＳＤ−404遺物出土状況①（北西より）　２．ＳＤ−404遺物出土状況②（北西より）

図版17　遺構(17)

１．ＳＤ−404遺物出土状況③（南より）　２．ＳＤ−404遺物出土状況④（北より）

図版18　遺構(18)

１．ＳＤ−404遺物出土状況⑤（南より）　２．ＳＤ−407・ＳＫ−402（西より）

図版19　遺構(19)

１．ＳＤ−407・ＳＫ−402（南より）　２．ＳＤ−407・ＳＫ−402（南東より）

図版20　遺構(20)

１．ＳＤ−407・ＳＫ−402遺物出土状況　２．ＳＤ−407遺物出土状況①（北西より）

図版21　遺構(21)

１．ＳＤ−407遺物出土状況②（西より）　２．ＳＫ−402（東より）

図版22　遺構(22)

１．ＳＫ−402遺物出土状況①　２．ＳＫ−402遺物出土状況②

図版23　遺構(23)

１．ＳＫ−402遺物出土状況③（北より）　２．ＳＫ−402遺物出土状況④（東より）

図版24　遺構(24)

１．落ち込み401（北西より）　２．落ち込み401遺物出土状況（東より）

図版25　遺構(25)

１．ＳＫ−403（北より）　２．ＳＫ−403遺物出土状況（北より）

図版26　遺構(26)

１．第５遺構面全景（西より）　２．第５遺構面全景（東より）

図版27　遺構(27)
1．ＳＤ−501（西より）　2．ＳＤ−501遺物出土状況（南より）
図版28　遺構(28)
1．ＳＫ−504（東より）　2．ＳＫ−507（北より）
図版29　遺構(29)
1．第６遺構面全景（西より）　2．ＮＲ−601（北東より）
図版30　遺構(30)
1．ＮＲ−601（南東より）　2．ＮＲ−603（南東より）
図版31　出土遺物(1)
図版32　出土遺物(2)
図版33　出土遺物(3)
図版34　出土遺物(4)
図版35　出土遺物(5)
図版36　出土遺物(6)
図版37　出土遺物(7)
図版38　出土遺物(8)
図版39　出土遺物(9)
図版40　出土遺物(10)
図版41　出土遺物(11)
図版42　出土遺物(12)
図版43　出土遺物(13)

第１章　調査に至る経緯

中垣内遺跡は昭和34年に関西電力株式会社東大阪変電所建設の際に発見された遺跡である。それに伴う緊急調査が一部実施されており、限られた条件下の調査であったにもかかわらず竪穴住居跡などを検出し、また弥生土器など大量の遺物が出土したことから、当時においては弥生時代の集落遺跡として多大な評価を得た遺跡であった。

その後、長年にわたり発掘調査の機会には恵まれなかったが、昭和62年の大阪産業大学の校舎建設に伴う調査を皮切りに、昭和62～63年にかけては変電所敷地内における４ヶ所の調査など、現在に至るまで昭和34年の調査を含めば、合計13次にわたる調査が実施されている。その結果、遺跡としては集落を中心とした縄文時代から近世に至る複合遺跡との性格が与えられているが、大東市域では現在においても弥生時代を代表する遺跡となっている。

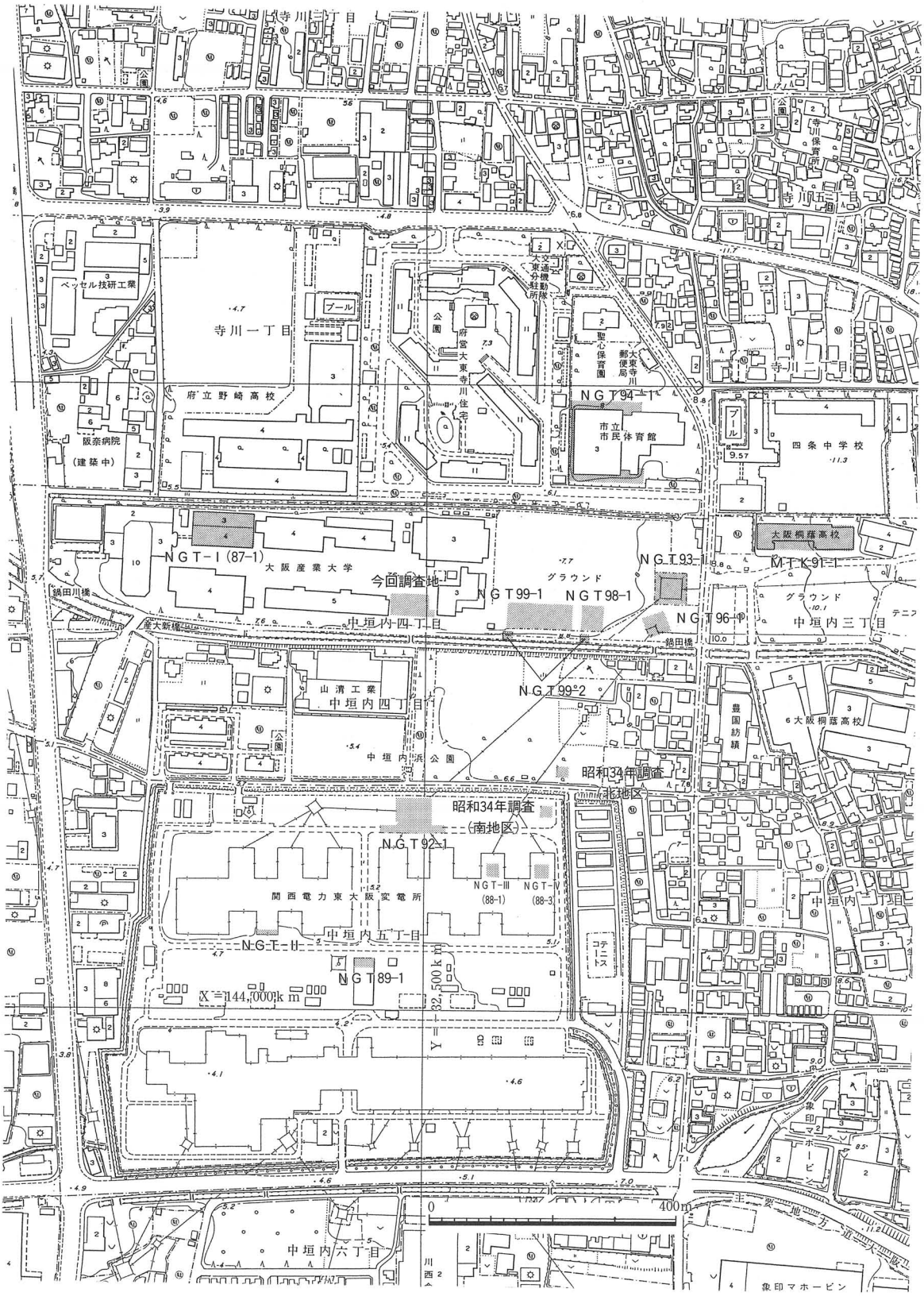
今回の調査は、学校法人大阪産業大学により教員研究棟（14号館）の建設工事の事業計画がなされたことによる。

計画地は、中垣内遺跡の範囲内であったため、学校法人大阪産業大学より本市教育委員会に当該事業における埋蔵文化財の取り扱いについての事前協議の申し入れがあった。

本市教育委員会では、文化財保護法第57条の２に基づく届出の提出を求めるとともに、工事によって遺跡の損壊が想定される場合には工事の設計変更による現状保存または発掘調査が必要である旨を伝えた。

以上の協議を経て、本市教育委員会が範囲確認調査を実施したところ、遺物を多量に含んだ包含層を確認するなど遺跡の広がりが確認された。その後、遺跡の保存に関して協議を行ったが、事業内容の計画変更は困難であるとのことから発掘調査を実施することで合意した。

調査は計画地575.12㎡を対象に、平成６年７月26日から着手し、同年11月22日に終了した。



第１図　調査地位置図（Ｓ＝1/5000）

第２章　遺跡の位置と環境

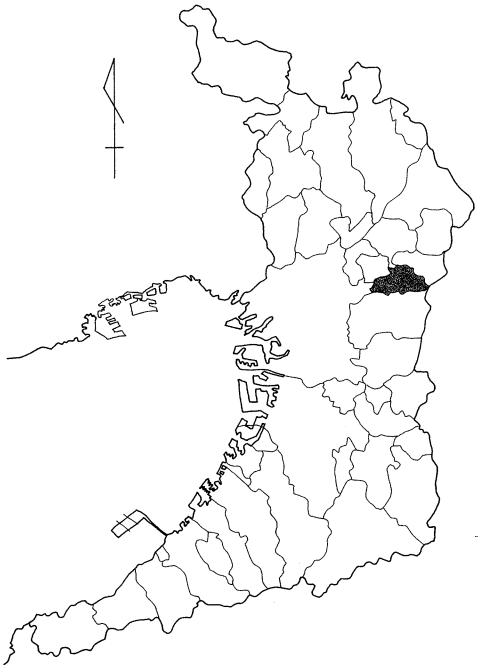
中垣内遺跡は大阪府大東市中垣内一帯にかけて所在し、南北約850m、東西約１kmの範囲を持つと推定されている遺跡である。これまで数次にわたって調査が行われており縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが明らかにされている。特に弥生時代の集落跡としては有名である。

地理的には、鍋田川によって形成された扇状地とその西方に広がる沖積地にかけて立地している。

以下、周辺の遺跡を中心に歴史的推移を概観する。

〈旧石器時代〉

中垣内遺跡からナイフ形石器が出土している。しかし、昭和34年における調査のため、出土状況など詳細は明らかでないが、この時代の遺物としては現在のところ市内唯一のものである。



第２図　大東市位置図

〈縄文時代〉

集落を示すような具体的な遺構は検出されていないため、様相については明らかではない。唯一、中垣内遺跡で中期後半の土坑状の遺構と推測されるものが確認されているのみである。遺物では、北条遺跡、宮谷古墳群で草創期の有舌尖頭器などが出土・採集している他、土器では包含層等からの出土ではあるが主に扇状地及び周辺の遺跡から早期末～前期初頭の可能性のある土器片から晩期に至るまでほぼ全時期を通して見受けられる。

そして、磨耗を受けず比較的残りの良好な遺物も多いことから丘陵、扇状地などに集落跡の存在した可能性は十分あると考えられる。

〈弥生時代〉

この時代から市域においても遺構を伴う遺跡が多数確認されるようになる。前～中期の集落跡が確認された中垣内遺跡、北条西遺跡、後期の竪穴住居を検出した北条遺跡などがある。また、中垣内遺跡の東に位置する鍋田川遺跡では後期のまとまった遺物が出土しており、当時の集落の動向を考えるうえでも重要な遺跡であることが明らかになりつつある。

〈古墳時代〉

当時、河内湖東岸に位置していた市域においても多数の集落が営まれるようになり、前期では鍋田川遺跡、中～後期にかけては北新町遺跡、メノコ遺跡などがある。特に特徴的な様相としては初期須恵器、韓式系土器、鳥足文を施した陶質土器の出土など渡来系的な影響の強い遺物が目立ち、先に述べた河内湖東岸という地勢的環境からも頷けるものである。

古墳に関しても多くの古墳、古墳群が周知されているが、残念ながら詳細の解らないものが多い。その中において城ヶ谷遺跡、北条遺跡、宮谷古墳群、堂山古墳群で古墳の調査が行われている。特に堂山古墳群では三角板皮綴短甲、衝角付冑、鉄刀、鉄鏃など多量の鉄製武器、武具類が出土していることから当時の有力な首長墓と考えられており、当時の社会を考えるうえで貴重な成果をあげている。

〈古代〉

奈良時代では北新町遺跡、寺川遺跡で集落が確認、推測されている。特に北新町遺跡では人面墨書土器が出土し、また寺川遺跡では「白麻呂」と墨書された土器が出土するなど、官衙的集落の存在が推定されている。

平安時代では寺川遺跡で集落跡が確認されている。特に、直径１ｍ程の木を刳り貫いた井筒などは注目され、また河川跡からはウマの骨が一体復元出来るほどの出土があり、通常の集落とはかなり違う様相を示している。

〈中世〉

北新町遺跡で12～13世紀を中心とした集落跡、御領遺跡で13～14世紀の集落跡が確認されており、市域における中世の様相も明らかにされてきている。また、城跡に関しても、戦国武将、三好長慶の飯盛城、その支城とされる野崎城、キリシタンで有名な三箇サンチョの三箇城などが知られている。ただ、考古学的には飯盛城において発掘調査がわずかに実施されているのみで残念ながら詳細は明らかにされていない。

〈近世〉

大阪城の築城、また江戸幕府による再築の際、石垣用石材の供給地であった石切場跡や、宝永元年(1704)の大和川付け替えに伴い新田開発が盛んになるが、その管理施設であった平野屋新田会所などがある。

また西諸福遺跡では深野池、新開池とは別の池と推定される遺構が検出されており、備前擂鉢、壺、美濃窯系天目茶碗、胎土目唐津窯系皿、堺擂鉢、石臼などの陶磁器類がまとまって出土している。

(引用・参考文献)

大阪府史編集専門委員会　1991年　『大阪府史』別巻　大阪府

大東市教育委員会　1973年　『大東市史』

大東市教育委員会　1987年　『寺川・北条遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第１集

大東市教育委員会　1989年　『大東市埋蔵文化財発掘調査概報』大東市埋蔵文化財調査報告第３集

大東市教育委員会　1990年　『城ヶ谷遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第６集

大東市教育委員会　1997年　『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第11集

大東市教育委員会　1997年　『寺川遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第13集

大東市教育委員会　1998年　『メノコ遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第14集

大東市教育委員会　1999年　『御領遺跡』大東市埋蔵文化財調査報告第15集

大東市教育委員会　2000年　『西諸福遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第17集

大東市教育委員会　2004年　『中垣内遺跡発掘調査報告書』大東市埋蔵文化財調査報告第20集

大東市教育委員会　2002年　『旧平野屋新田会所屋敷と建物』大東市文化財調査報告書

大東市北新町遺跡調査会　1986年　『北新町遺跡第１次発掘調査概要報告書』

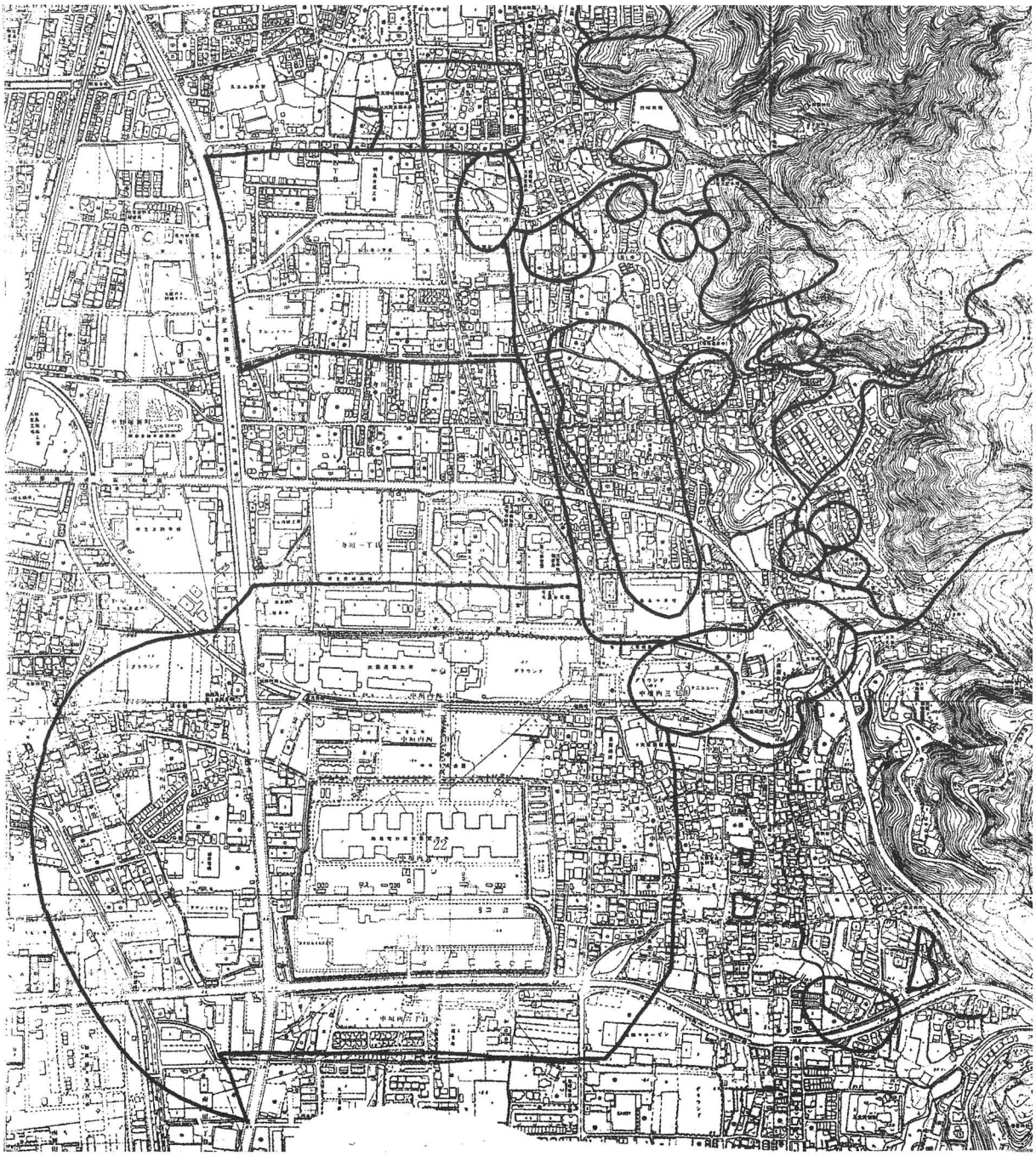
大東市北新町遺跡調査会　1991年　『北新町遺跡第２次発掘調査概要報告書』

大東市北新町遺跡調査会　1997年　『北新町遺跡第３次発掘調査概要報告書』

大阪府教育委員会　1993・1994年　『堂山古墳群』大阪府文化財調査報告書第四五輯

中逵健一　1995年　「大東市・北条西遺跡（93・１次調査)」　『まんだ』第五十六号

黒田　淳　1988年　「大東市“宮谷古墳群の調査”」　『まんだ』第三十五号



1	福連寺古墳	8	瓦堂遺跡	14	寺川古墳群	21	鍋田川遺跡
2	福連寺遺跡	9	堂山下古墳	15	寺川遺跡	22	中垣内遺跡
3	野崎条里遺跡	10	堂山上遺跡	16	城の越上の段古墳	23	中垣内東遺跡
4	寺川浜遺跡	11	堂山古墳群１号墳	17	城の越古墳	24	若宮東遺跡
5	メノコ遺跡		堂山古墳群２号墳～８号墳	18	大谷神社古墳	25	若宮遺跡
6	峯垣内遺跡	12	六地蔵古墳	19	大谷古墳群		
7	市水道寺川配水場古墳	13	十林寺古墳	20	元粉（モトコ）遺跡		

第３図　周辺遺跡分布図（Ｓ＝1/10000）

第３章　調査の方法

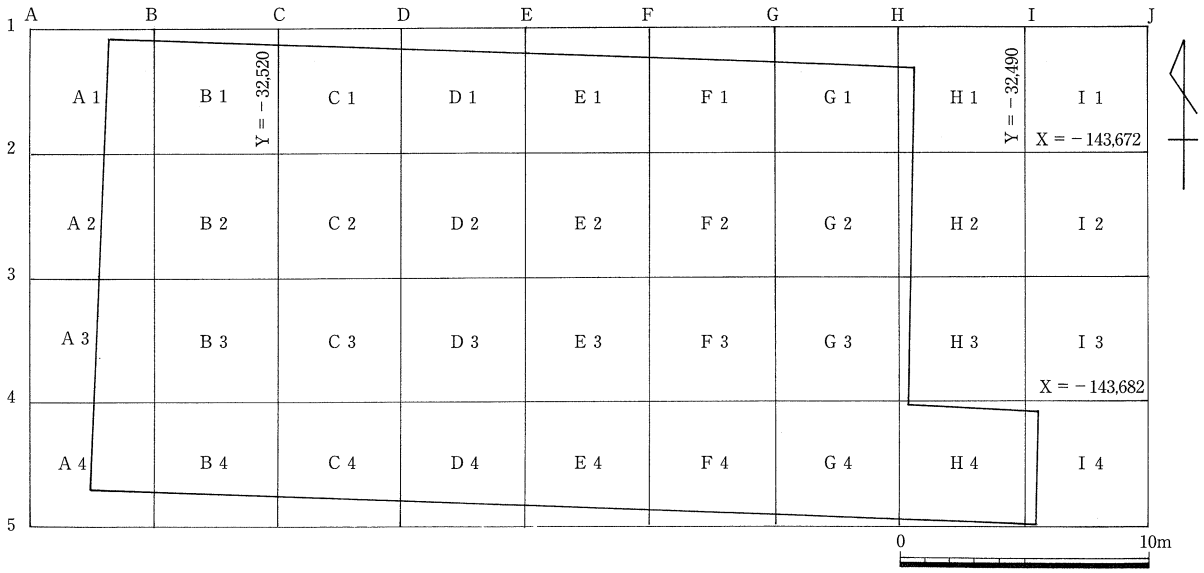
掘削については、盛土、旧耕作土、床土までを機械掘削の対象とし、以下、包含層については層位ごとに人力による掘削を行った。そして、それぞれの層位面において遺構の確認を行いながら、地山面に至るまで順次繰り返した。

遺構の平面実測については、すべて平板測量で実施した。また必要に応じて遺構平面図・断面図・遺物出土状況図を適宜作成した。

調査区の区割り設定については、調査区付近において調査区をバランスよくカバーできるように考慮しながら任意の地点を決め、それを基点に国土座標第Ⅵ系による座標を使用して調査区全体を東西南北それぞれ５ｍごとに座標軸を順次配しながら囲み、調査区内に５ｍ四方の区画を設定した。各区画の呼称については南北座標軸に西端を起点としてアルファベットを順次付し、また東西座標軸については北端を起点として算用数字を順次付すことにより各交点を記号化し、その北西隅の交点を用いている（第４図）。また、水準についてはＴ．Ｐ．（東京湾標準潮位）を使用している。先に述べた遺物出土状況など各種記録作業、また包含層などの遺物の取り上げについては、すべてこれらの基準に基づいている。また、報告書の記述においても同様である。

遺構番号については調査区毎、および遺構検出面ごとに付与しており、それらの各区名、各遺構面を示す数字は遺構番号の頭に冠している。

写真撮影については６×７の中型カメラによるモノクロ撮影、35㎜小型カメラによるモノクロ、カラーそれぞれにおいて撮影を行い、またスライドの作成も行っている



第４図　調査区区割図

第４章　調査成果

第１節　基本層序

今回の調査では６面の遺構面を確認することができた。基本的な層序については遺構面の単位を基準に設定した。様相については、以下の通りである。

第Ⅰ層　盛土、旧耕作土、床土などで機械掘削の対象となった層である。盛土の層厚は約2.2～2.8m。旧耕作土は調査区東半部を中心に確認され、層厚は約0.2m。床土も旧耕作土と同様に調査区東半部を中心に確認され、層厚は約0.1mを測る。ちなみに、調査前の地表面の標高はＴ．Ｐ．＋7.7であった。

第Ⅱ層　第１遺構面を構成する堆積層である。灰緑色砂質土が遺構面を形成し、層厚は約0.2～0.3mを測る。以下、灰褐色砂質土、調査区西半部では層厚約0.1m程度の暗灰色砂混灰黄色砂が堆積している。

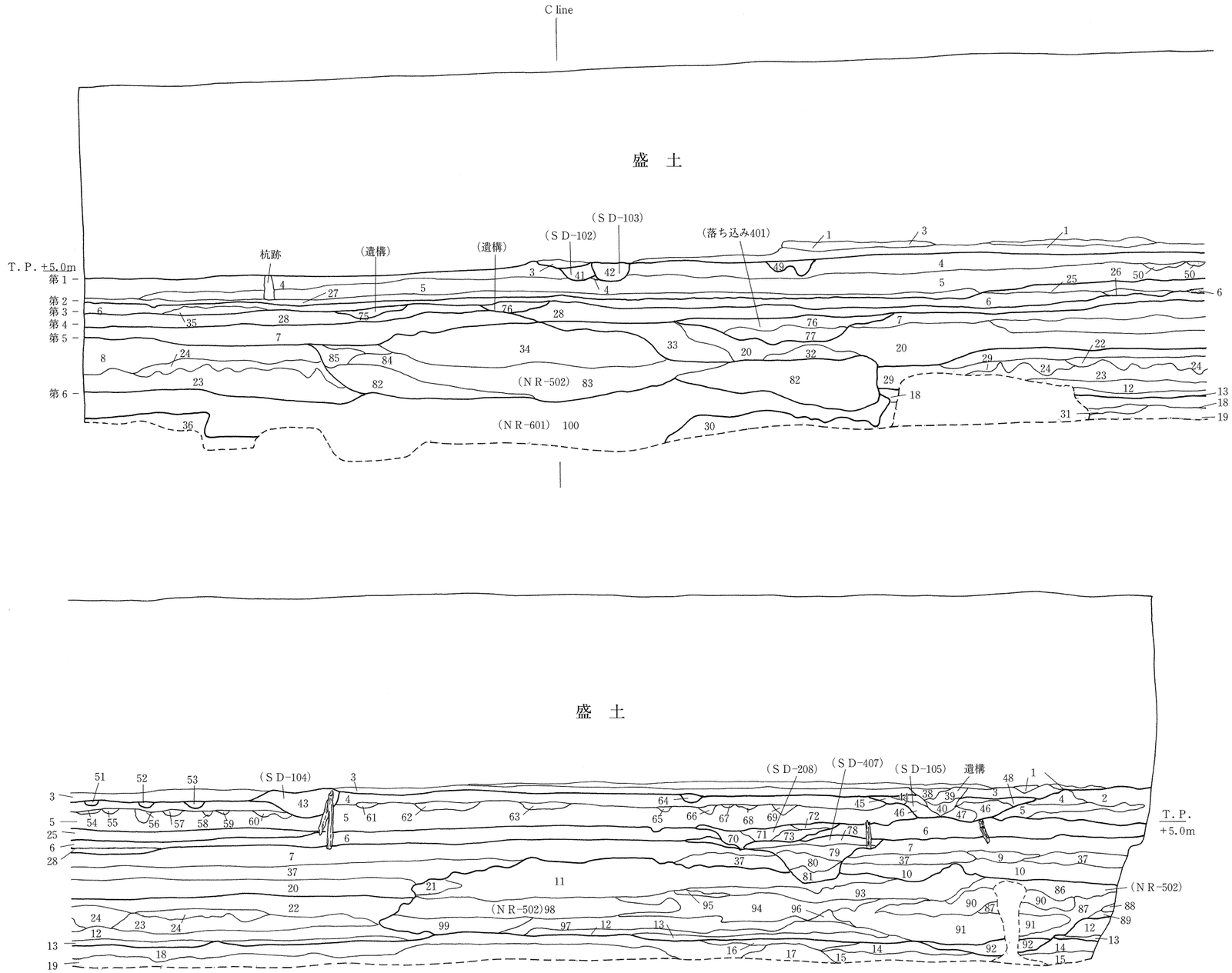
第Ⅲ層　第２遺構面を構成する堆積層である。灰黒色粘質土が遺構面を形成し、層厚は約0.2～0.3mを測る。

第Ⅳ層　第３遺構面を構成する堆積層である。黒色粘質土が遺構面を形成し、層厚は約0.1～0.2mを測る。調査区北東部では認められず、第Ⅴ層の５mm内外の礫を含む黒色土が遺構面を形成している。

第Ⅴ層　第４遺構面を構成する堆積層である。５mm内外の礫を含む黒色土が遺構面を形成し、層厚は約0.2～0.3mを測る。以下、調査区東半部において暗灰緑色砂質土、灰黒色粘質土などが堆積している。

第Ⅵ層　第５遺構面を構成する堆積層である。礫を含む黒灰色土が遺構面を形成し、層厚は約0.2～0.3mを測る。以下、暗緑灰色シルト、黒灰色砂質土、黄灰色粗砂、緑灰色微砂、緑灰色シルトなどが堆積している。

第Ⅶ層　第６遺構面を構成する堆積層である。暗灰色シルトが遺構面を主に形成するが、調査区東部では黒灰色粘質土が遺構面を形成している。層厚はともに約0.1～0.2mを測る。考古学で言うところの地山層である。以下、淡灰青色砂質土、暗緑灰色シルト、灰黒色粘質土、暗灰色土、灰色微砂、黄灰色砂などが堆積している。

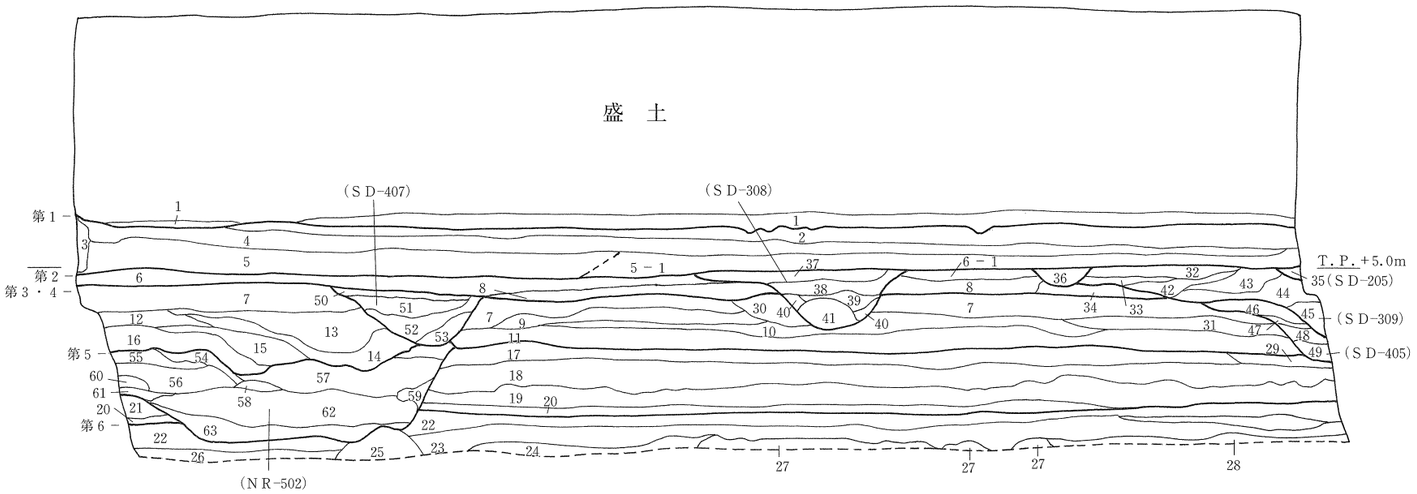


1　旧耕土
2　緑灰色粘質土（鉄分含）［第１遺構面ベース層］
3　灰茶色砂質土［第１遺構面直上層］
4　灰緑色砂質土［第１遺構面ベース層］
5　灰褐色土（鉄分含）［第１遺構面ベース層］
6　灰黒色粘質土［第２遺構面ベース層］
7　黒色土（５mm内外の礫含）［第３・４遺構面ベース層］
8　暗灰緑色砂質土［第５遺構面ベース層］
9　黒灰色土［第４遺構面ベース層］
10　黒灰色シルト［第４遺構面ベース層］
11　黄灰色粗砂［ＮＲ-502］
12　緑灰色微砂［第５遺構面ベース層］
13　緑灰色シルト［第５遺構面ベース層］
14　黒灰色粘質土［第６遺構面ベース層］
15　灰白色微砂［第６遺構面ベース層］
16　黒灰色土［第６遺構面ベース層］
17　黄灰色砂［第６遺構面ベース層］
18　暗灰色シルト［第６遺構面ベース層］
19　暗灰色土［第６遺構面ベース層］
20　灰黒色粘質土［第４遺構面ベース層］
21　暗黄灰色細砂［ＮＲ-502］
22　黒灰色土（礫混）［第５遺構面ベース層］
23　黄灰色粗砂［第５遺構面ベース層］
24　黒灰色砂質土［第５遺構面ベース層］
25　灰色粘質土（鉄分含）［第２遺構面ベース層］
26　灰白色砂［第２遺構面ベース層］
27　暗灰色砂混灰黄色砂（水田面上層）
28　黒色粘質土［第３遺構面ベース層］
29　暗緑灰色シルト［第５遺構面ベース層］
30　暗緑灰色シルト［第６遺構面ベース層］
31　灰黒色粘質土［第６遺構面ベース層］
32　暗灰緑色シルト［第４遺構面ベース層］
33　黒灰色土混暗黄灰色砂［第４遺構面ベース層］
34　灰色砂・黄灰色砂の互層［ＮＲ-502］
35　褐色混暗灰色土［第２遺構面ベース層］
36　淡灰青色砂質土［第６遺構面ベース層］
37　暗灰緑色砂質土［第４遺構面ベース層］
38　暗緑灰色砂質土［遺構］
39　茶色砂質土［遺構］
40　茶灰色砂質土［遺構］
41　暗黄灰色砂混暗灰色粘質土［ＳＤ-102］
42　暗黄灰色砂混暗灰色粘質土［ＳＤ-103］
43　茶褐色土［ＳＤ-104］
44　灰緑色土［ＳＤ-105］
45　にぶい灰黄色土［ＳＤ-105］
46　灰緑色粘質シルト［ＳＤ-105］
47　灰黄色砂混灰褐色粘質土［ＳＤ-105］
48　灰褐色砂質土［ＳＤ-105］
49　灰緑色砂質土［鍬溝］
50　灰緑色砂質土［鍬溝］
51　灰緑色砂質土［鍬溝］
52　灰緑色砂質土［鍬溝］
53　灰緑色砂質土［鍬溝］
54　灰緑色砂質土［鍬溝］
55　灰緑色砂質土［鍬溝］
56　灰緑色砂質土［鍬溝］
57　灰緑色砂質土［鍬溝］
58　灰緑色砂質土［鍬溝］
59　灰緑色砂質土［鍬溝］
60　灰緑色砂質土［鍬溝］
61　灰緑色砂質土［鍬溝］
62　灰緑色砂質土［鍬溝］
63　灰緑色砂質土［鍬溝］
64　灰緑色砂質土［鍬溝］
65　灰緑色砂質土［鍬溝］
66　灰緑色砂質土［鍬溝］
67　灰緑色砂質土［鍬溝］
68　灰緑色砂質土［鍬溝］
69　灰緑色砂質土［鍬溝］
70　灰色粘質土ブロック混黄灰色砂［ＳＤ-208］
71　灰色粘土混にぶい灰黄色土［ＳＤ-208］
72　褐色混灰緑色土［ＳＤ-208］
73　黄灰色砂混灰色粘質土［ＳＤ-208］
74　暗黄灰色砂混暗灰色粘質土［遺構］
75　黒色粘質土［遺構］
76　黒灰色粘質土［落ち込み401］
77　黒色粘質土［落ち込み401］
78　黒色粘質土［ＳＤ-407］
79　黒灰色土（礫混）［ＳＤ-407］
80　黒色粘質土（礫混）［ＳＤ-407］
81　黄灰色粗砂混暗灰色土（礫混）［ＳＤ-407］
82　暗灰色粘質土ブロック混黄灰色粗砂［ＮＲ-502］
83　灰黄色砂・灰白色砂の互層［ＮＲ-502］
84　暗灰緑色微砂［ＮＲ-502］
85　暗灰黄色微砂［ＮＲ-502］
86　暗灰色シルト［ＮＲ-502］
87　暗緑灰色シルト［ＮＲ-502］
88　黄褐色砂［ＮＲ-502］
89　緑灰色砂［ＮＲ-502］
90　黄灰色砂［ＮＲ-502］
91　黄灰色粗砂［ＮＲ-502］
92　灰色土ブロック混灰黄色粗砂［ＮＲ-502］
93　暗緑灰色シルト［ＮＲ-502］
94　暗灰色シルト・灰白色砂の互層［ＮＲ-502］
95　灰白色細砂［ＮＲ-502］
96　暗灰色砂質土［ＮＲ-502］
97　黒色粘質土ブロック混黄灰色粗砂［ＮＲ-502］
98　黄灰色粗砂［ＮＲ-502］
99　灰色砂・黄灰色砂の互層［ＮＲ-502］
100　灰白色砂（粗砂含）［ＮＲ-601］

第５図　調査区北壁断面図

0　4 m

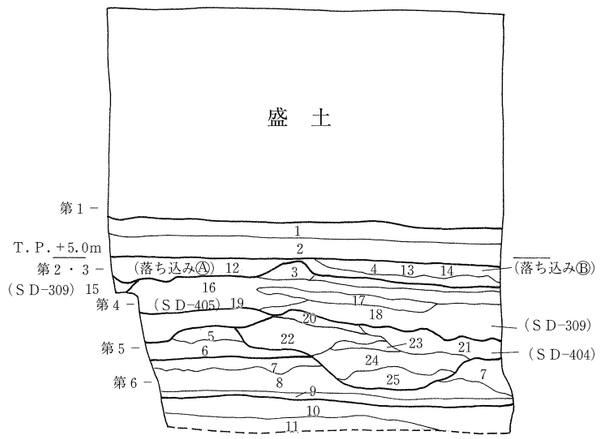
東壁断面①



東壁断面①

1　にぶい茶褐色土［第１遺構面直上層］
2　暗緑灰色土［第１遺構面ベース層］
3　緑灰色粘質土［第１遺構面ベース層］
4　褐灰色粘質土（５ｍｍ内外の礫含）［第１遺構面ベース層］
5　褐黄色混灰色粘質土（鉄分含）［第１遺構面ベース層］
5－1　暗灰色粘質土［第１遺構面ベース層］
6　灰黒色粘質土［第２遺構面直上層］
6－1　暗黄色粗砂混暗灰色土［第２遺構面ベース層］
7　黒色土（５ｍｍ内外の礫含）［第３・４遺構面ベース層］
8　暗黄灰色砂質土［第３遺構面ベース層］
9　暗灰色土（礫混）［第４遺構面ベース層］
10　黒灰色粘質土［第４遺構面ベース層］
11　灰黒色シルト［第４遺構面ベース層］
12　暗灰緑色土（礫混）［第４遺構面ベース層］
13　黒灰色土（礫混）［第４遺構面ベース層］
14　黒灰色土［第４遺構面ベース層］
15　暗灰色土［第４遺構面ベース層］
16　暗灰色シルト［第４遺構面ベース層］
17　黒灰色土（礫混）［第５遺構面ベース層］
18　暗灰色砂質土［第５遺構面ベース層］
19　暗黄灰色砂［第５遺構面ベース層］
20　緑灰色シルト［第５遺構面ベース層］
21　緑灰色微砂［第５遺構面ベース層］
22　黒灰色粘質土［第６遺構面ベース層］
23　灰黒色土［第６遺構面ベース層］
24　暗灰色砂質土［第６遺構面ベース層］
25　暗灰黄色砂［第６遺構面ベース層］
26　暗灰色シルト［第６遺構面ベース層］
27　黄褐色砂［第６遺構面ベース層］
28　案灰色砂［第６遺構面ベース層］
29　暗灰黄色砂［第５遺構面ベース層］
30　黒色粘質土［第４遺構面ベース層］
31　黒色粘質土［第４遺構面ベース層］
32　暗灰色土ブロック混灰白色砂［第２遺構面ベース層］
33　暗灰色粘質シルト［第２遺構面ベース層］
34　暗黄褐色砂混暗灰色粘質土［第３遺構面ベース層］
35　灰白色微砂［ＳＤ-205］
36　灰色微砂混灰黄色粗砂［遺構］
37　灰黄色砂混暗灰色粘質土［ＳＤ-308］
38　暗灰黒色砂［ＳＤ-308］
39　暗灰色シルト［ＳＤ-308］
40　暗灰色砂質土［ＳＤ-308］
41　灰色砂・黄灰色砂の互層［ＳＤ-308］
42　暗灰色砂質土［ＳＤ-309］
43　暗灰緑色砂質土［ＳＤ-309］
44　暗緑灰色土［ＳＤ-309］
45　暗灰黒色粘質シルト［ＳＤ-309］
46　暗灰緑色粘質シルト［ＳＤ-405］
47　黒灰色砂［ＳＤ-405］
48　黒灰色粘質土［ＳＤ-405］
49　灰黒色土［ＳＤ-405］
50　黒色粘質土［ＳＤ-407］
51　黒灰色土（礫混）［ＳＤ-407］
52　黒色粘質土（礫混）［ＳＤ-407］
53　黄灰色粗砂混暗灰色土［ＳＤ-407］
54　暗緑灰色砂質土［ＮＲ-502］
55　暗灰色シルト［ＮＲ-502］
56　暗緑灰色シルト［ＮＲ-502］
57　黒色土ブロック混黄灰色粗砂［ＮＲ-502］
58　灰白色粗砂［ＮＲ-502］
59　淡緑灰色シルト［ＮＲ-502］
60　黄褐色砂［ＮＲ-502］
61　緑灰色砂［ＮＲ-502］
62　灰黄色砂［ＮＲ-502］
63　暗緑灰色微砂混淡灰色砂［ＮＲ-502］

東壁断面②

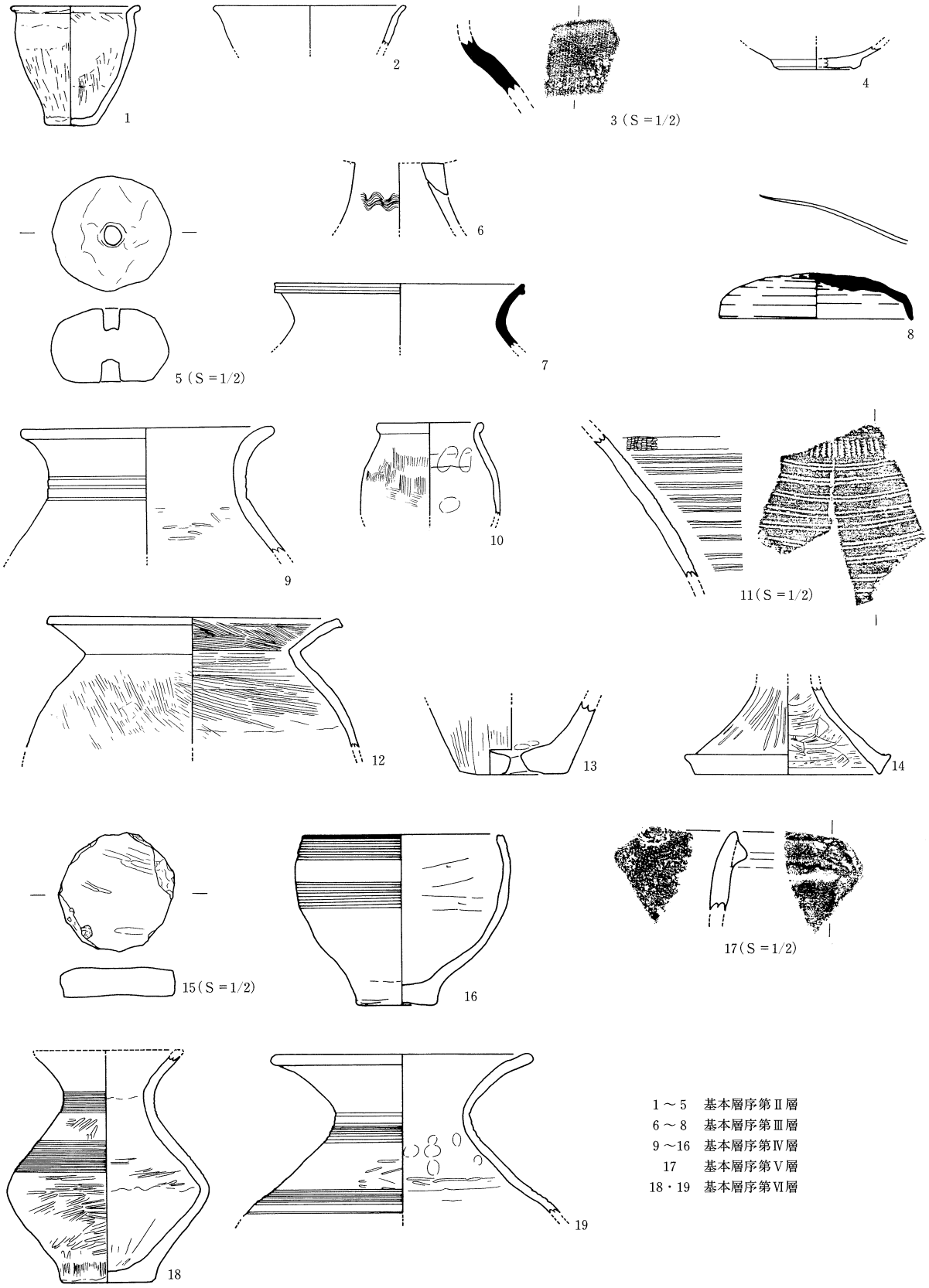


東壁断面②

1　暗灰褐色土～粘質土（鉄分含）［第１遺構面ベース層］
2　暗灰色粘質土［第１遺構面ベース層］
3　黒灰色土（礫混）［畦畔］
4　黒灰色土［第２遺構面ベース層］
5　黒灰色土（礫混）［第４遺構面ベース層］
6　灰色砂質土［第４遺構面ベース層］
7　暗灰色砂質土［第５遺構面ベース層］
8　暗黄灰色砂～緑灰色砂［第５遺構面ベース層］
9　緑灰色シルト［第５遺構面ベース層］
10　暗灰色粘質土［第６遺構面ベース層］
11　暗灰緑色砂質土［第６遺構面ベース層］
12　灰白色砂混暗緑灰色砂質土［落ち込みＡ］
13　灰黄色砂混暗灰色砂質土［落ち込みＢ］
14　暗灰黄色砂［落ち込みＢ］
15　暗緑灰色シルト［ＳＤ-309］
16　緑灰色シルト［ＳＤ-309］
17　淡灰青色微砂・灰青色砂の混合層［ＳＤ-309］
18　暗灰青色粘質土ブロック混黄灰色粗砂［ＳＤ-309］
19　暗緑灰色土［ＳＤ-405］
20　暗灰色粘質土［ＳＤ-404］
21　黒色粘土（木片含）［ＳＤ-404］
22　黄灰色砂混暗灰色砂質土［ＳＤ-404］
23　暗灰色粘土［ＳＤ-404］
24　暗青灰色粘質土［ＳＤ-404］
25　暗青灰色粘質土ブロック混灰黄色砂［ＳＤ-404］

第６図　調査区東壁断面図

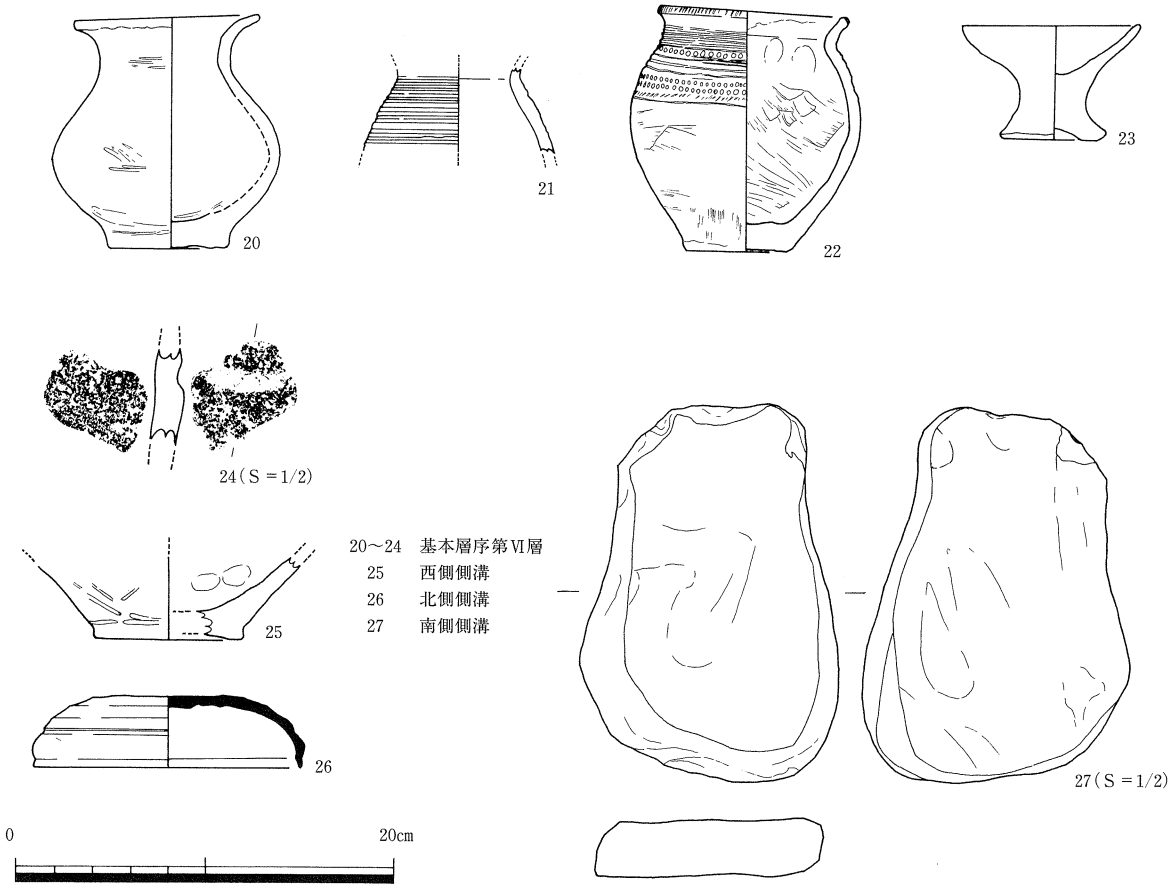
0　4 m



1～5　基本層序第Ⅱ層
6～8　基本層序第Ⅲ層
9～16　基本層序第Ⅳ層
17　基本層序第Ⅴ層
18・19　基本層序第Ⅵ層

0　20cm

第７図　包含層等出土遺物（１）



第８図　包含層等出土遺物（２）

第２節　第１遺構面

基本層序第Ⅱ層をベースにして、溝、鋤溝群、土坑などを検出した。標高は調査区中央で段を形成しており、西側に向かって低くなっている状況で、東端でＴ．Ｐ．＋5.5m前後、西端ではＴ．Ｐ．＋4.9m前後を測った。

１．溝（ＳＤ）

・ＳＤ-101

Ｂ３、４区で検出したほぼ南北に走る溝である。規模は幅約0.24m、深さ0.065mを測る。埋土は灰茶色砂質土である。遺物は出土していない。当初、溝として区別したものの、規模からして後に述べる鋤溝と同様のものである。

・ＳＤ-102

Ｃ１～４区で検出したほぼ南北に走る溝である。規模は幅約1.0m、深さ0.13mを測る。埋土は２層で灰緑色砂質土、黄褐色混灰緑色土である。遺物は染付磁器、瓦片などが出土している。

・ＳＤ-103

Ｃ１～４区で検出したほぼ南北に走る溝である。規模は幅約0.5m、深さ0.26mを測る。埋土は２層で緑灰色粘質土、白色砂混暗灰青色粘質土である。遺物は磁器、陶器、土師器などが出土している。

・ＳＤ−104

Ｅ１〜４区で検出したほぼ南北に走る溝である。規模は幅約0.9m、深さ0.09mを測る。埋土は黄褐色混緑灰色土である。遺物は土師器が出土している。この溝を境に東西に段が形成されている。

・ＳＤ−105

Ｇ１〜４区で検出したほぼ南北に走る溝である。規模は幅約0.85m、深さ0.17mを測る。埋土は２層で黄色混緑灰色土、暗灰緑色粘質土である。遺物は土師器、瓦質土器などが出土している。

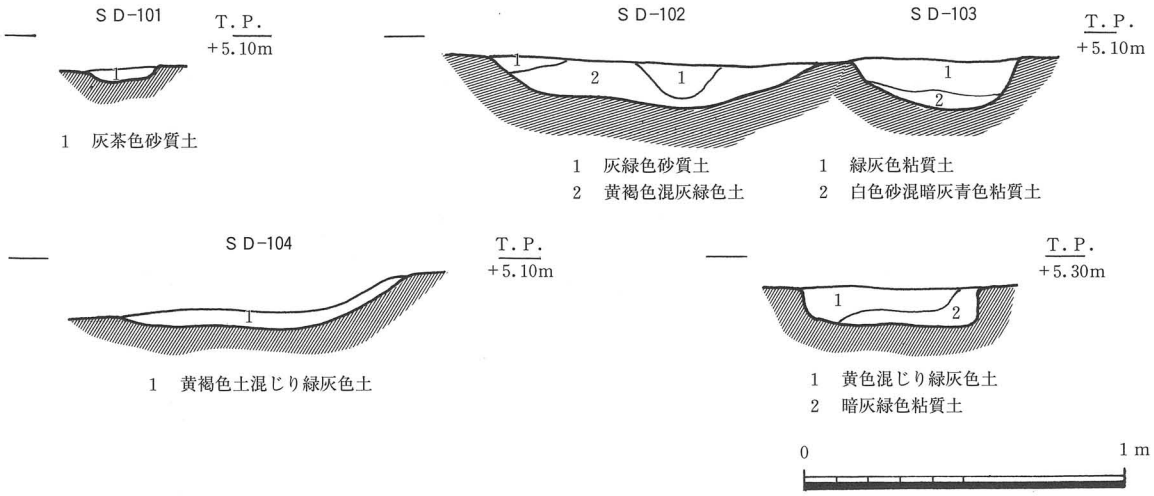
・鋤溝群

調査区全域にかけて42条を検出した。南北に走るものが大半で、規模は幅約0.3m、深さ約0.05mのものが多数を占める。埋土は灰黄〜灰緑色砂質土で、遺物は染付磁器、瓦片などが出土している。

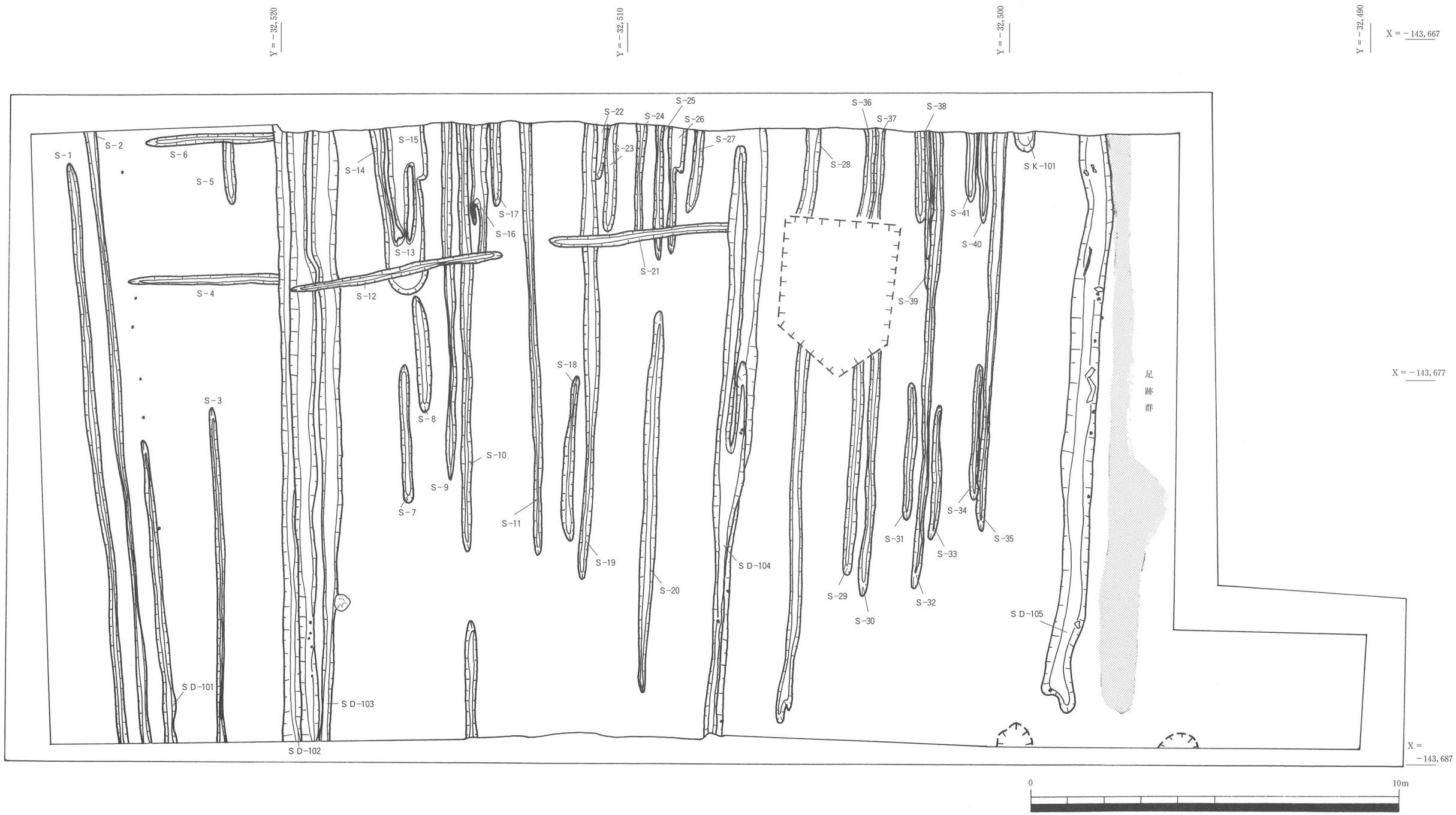
２．土坑（ＳＫ）

・ＳＫ−101

Ｇ１区で検出した。形態・規模については側溝に切られているため不明である。深さは0.07mを測る。遺物は出土していない。



第９図　第１遺構面　各溝（ＳＤ）断面図



Sは鋤溝

第10図　第１遺構面全体図

第３節　第２遺構面

基本層序第Ⅲ層をベースにして、溝、土坑、ピット、落ち込み状遺構などを検出した。標高は西側に向かって傾斜するものであり、東端でＴ．Ｐ．＋5.0m前後、西端ではＴ．Ｐ．＋4.5m前後を測った。

１．溝（ＳＤ）

・ＳＤ-201

Ａ４、Ｂ３～４、Ｃ３、Ｄ３区にかけて検出し、ＳＤ-207より続きほぼ東西に走る溝である。規模は幅約1.15m、深さ約0,35mを測り、埋土は３層で黄褐色混灰色砂、青灰色シルト混灰黄色粗砂、暗灰青色シルトである。遺物は土師器、須恵器、韓式系土器などが出土している。

・ＳＤ-202

Ａ３～４、Ｂ３、Ｃ３、Ｄ３区にかけて検出し、ＤＳ-201同様にＳＤ-207より続きほぼ東西に走る溝である。規模は幅約1.7m、深さ約0.23mを測り、埋土は２層で灰黄色粗砂混淡灰青色砂、灰青色砂である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

・ＳＤ-203

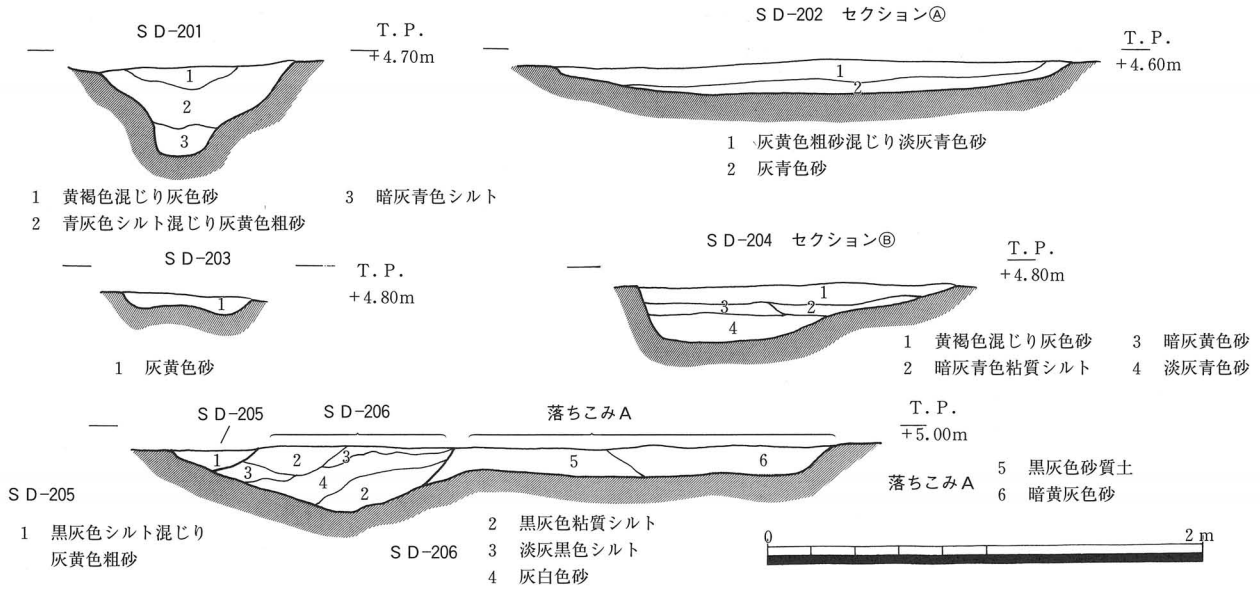
Ａ１、Ｂ１～２にかけて検出した東西に走る溝である。規模は幅約0.65m、深さ約0.11mを測り、埋土は１層で灰黄色砂である。遺物は出土していない。

・ＳＤ-204

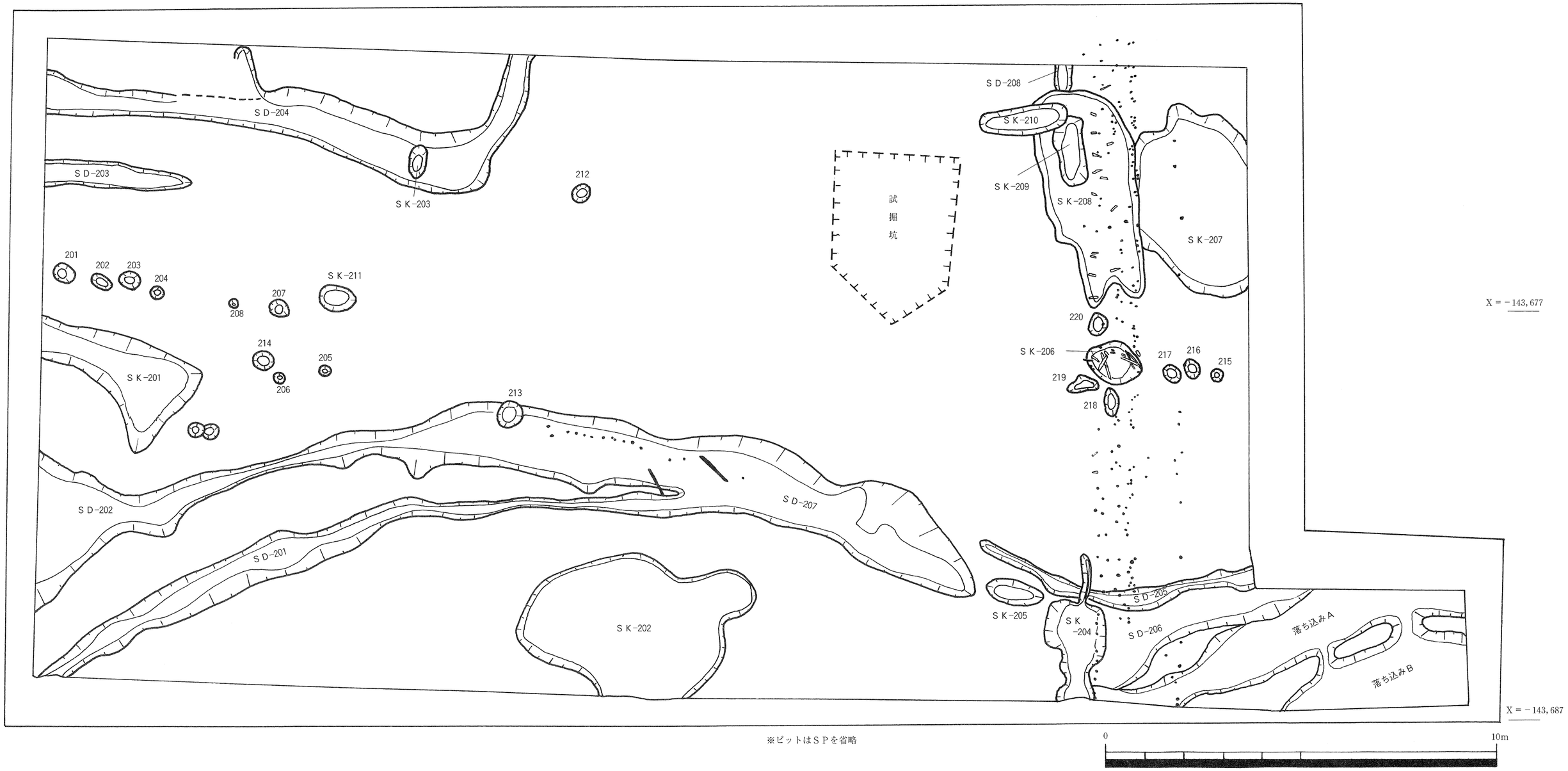
Ａ１、Ｂ１、Ｃ１、Ｄ１にかけて検出し、南北から屈曲し東西に走る溝である。規模は幅約1.5m、深さ約0.28mを測り、埋土は４層で黄褐色混灰色砂、暗灰青色粘質シルト、暗灰黄色砂、淡灰青色砂である。遺物は土師器が出土している。

・ＳＤ-205

Ｆ４、Ｇ４区にかけて検出し、やや弧を描きながら東西に走る溝である。ＳＤ-206を切る。規模は幅約0.75m、深さ約0.19mを測り、埋土は１層で黒灰色シルト混灰黄色粗砂である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

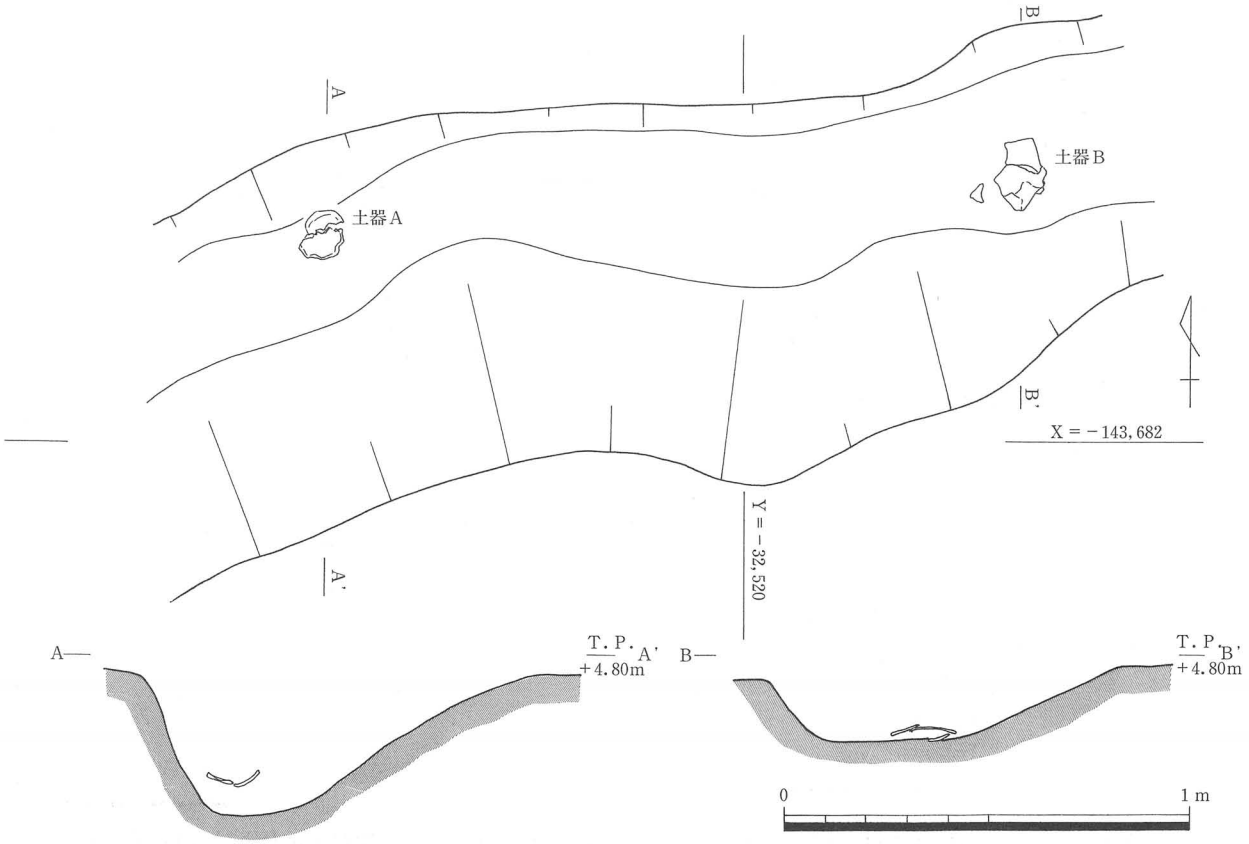


第11図　第２遺構面　各溝（ＳＤ）断面図

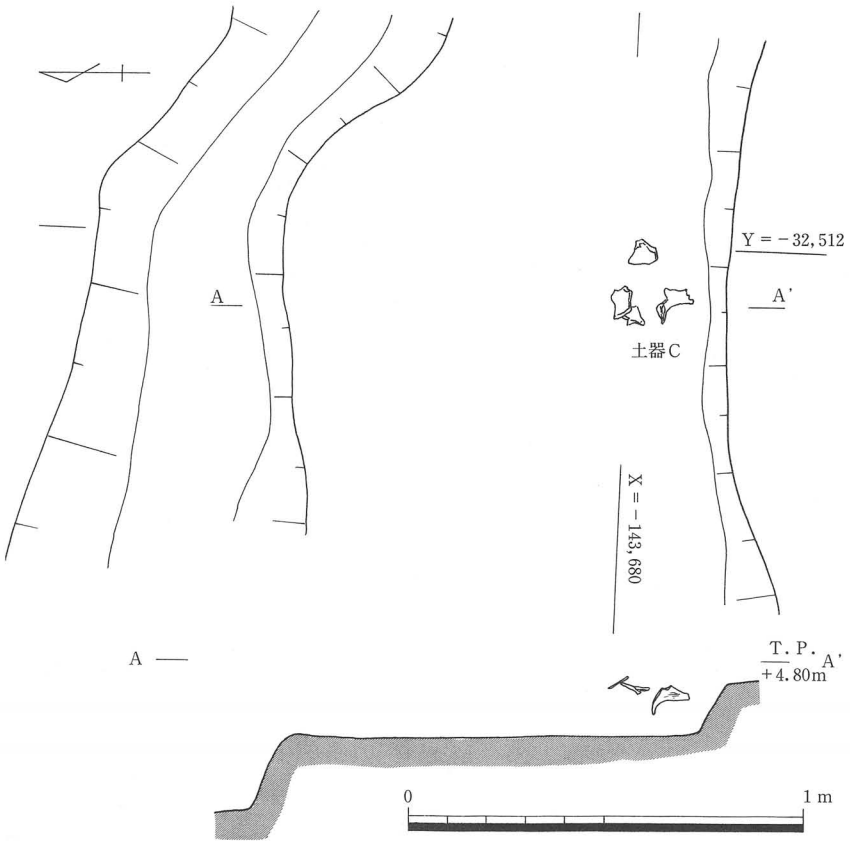


※ピットはＳＰを省略

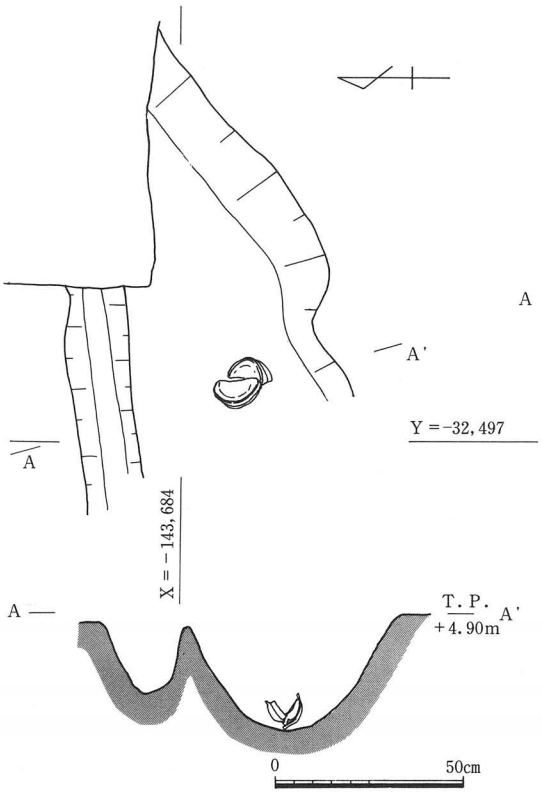
第12図　第２遺構面全体図



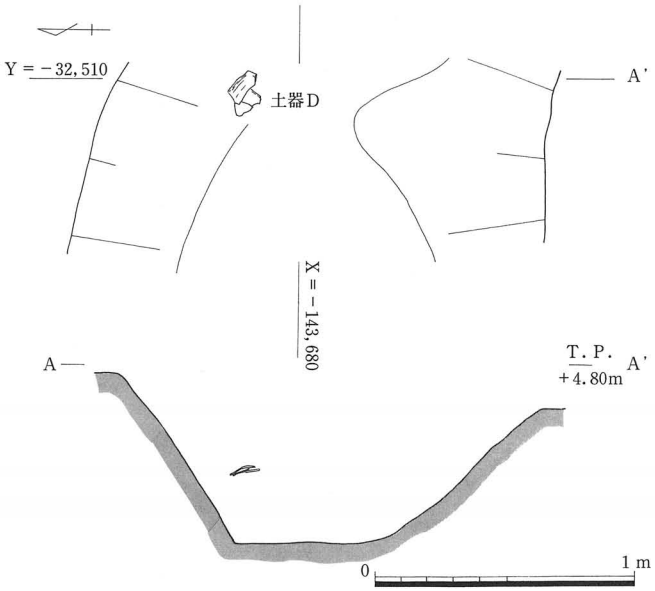
第13図　ＳＤ−201遺物出土状況図



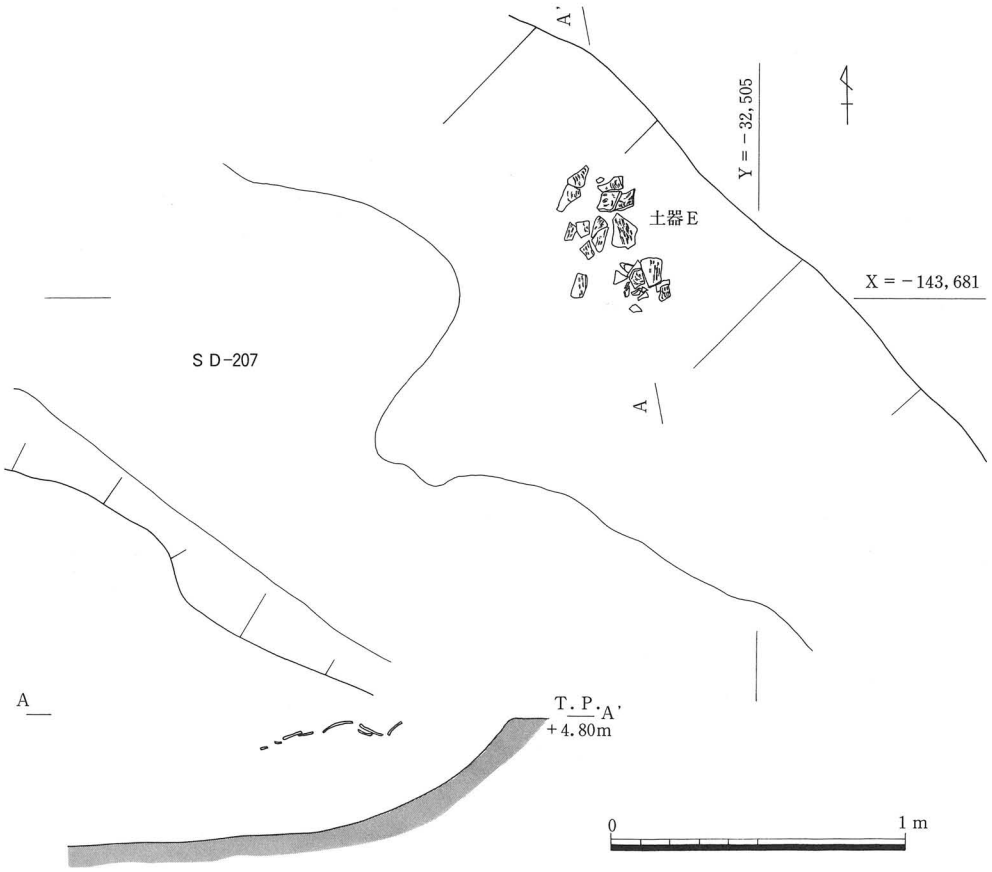
第14図　ＳＤ−202遺物出土状況図



第15図　ＳＤ−206遺物出土状況図



第16図　ＳＤ−207遺物出土状況図（１）



第17図　ＳＤ−207遺物出土状況図（２）

・ＳＤ-206

Ｇ４、Ｈ４区にかけて検出したほぼ東西に走る溝である。ＳＤ-205、ＳＫ-204に切られる。規模は幅約1.25m、深さ約0.22mを測り、埋土は３層で黒灰色粘質シルト、淡灰黒色シルト、灰白色砂である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

・ＳＤ-207

Ｅ３～４、Ｆ３～４区にかけて検出したほぼ東西に走る溝で、ＳＤ-201、202に続くものである。規模は幅約2.1m、深さ約0.67mを測り、埋土はＳＤ-201・202と同様の砂、シルト層である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

・ＳＤ-208

Ｆ１で検出した南北に走る溝である。ＳＫ-208に切られる。規模は幅約0.4m、深さ約0.04mを測り、埋土は１層で暗灰緑色粘質土である。遺物は出土していない。

２．土坑（ＳＫ）

・ＳＫ-201

Ａ２～３、Ｂ２～３区にかけて検出した。形態は不定形を呈し、規模は調査区外に広がるため明らかではないが、現存では最大長約4.15m、最大幅約2.3m、深さ約0.12mを測る。埋土は２層で暗灰色土、灰青色砂である。遺物は土師器が出土している。

・ＳＫ-202

Ｄ４、Ｅ区にかけて検出した。形態は不定形を呈し、規模は調査区外に広がるため明らかではないが、現存では最大長約6.15m、最大幅約3.75m、深さ約0.1mを測る。埋土は１層で黄褐色混茶褐色粘質土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

・ＳＫ-203

Ｃ１～２区にかけて検出した。ＳＤ-204を切る。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.85m、短径約0.45m、深さ約0.12mを測る。埋土は２層で暗灰色粘質土、にぶい暗灰黄色砂である。遺物は出土していない。

・ＳＫ-204

Ｆ４区で検出した。ＳＤ-206を切る。形態は不定形を呈し、規模は調査区外に広がるため明らかではないが、現存では最大長約3.7m、最大幅約1.5m、深さ約0.2mを測る。埋土は２層で黒灰色粘質土、黄灰色砂混黒灰色砂質土である。遺物は土師器が出土している。

・ＳＫ-205

Ｆ４区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.45m、短径約0.6m、深さ約0.26mを測る。埋土は２層で灰色砂混暗灰緑色シルト、やや粗い灰色砂である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

・ＳＫ-206

Ｇ３区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.4m、短径約1.1m、深さ約0.4mを測る。埋土は３層で暗灰緑色シルト、灰緑色微砂、暗灰緑色粘質シルトである。遺物は出土していない。

・ＳＫ-207

Ｇ１～２区にかけて検出した。ＳＫ-208に切られる。形態は不定形を呈し、規模は調査区外に広

がるため明らかではないが、現存では最大長約4.7m、最大幅約2.75m、深さ約0.15mを測る。埋土は２層で黒灰色粘質土、黒灰色砂質土である。遺物は土師器が出土している。

・ＳＫ-208

Ｆ１～２、Ｇ１～２区にかけて検出した。ＳＫ-207を切る。形態は不定形を呈し、規模は最大長約5.6m、最大幅約2.4m、深さ約0.1mを測る。埋土は１層で黒灰色粘質土である。遺物は土師器が出土している。

・ＳＫ-209

Ｆ１～２、Ｇ１～２区にかけて検出した。ＳＫ-208を切る。形態は不定形を呈し、規模は最大長約1.75m、最大幅約0.75m、深さ約0.06mを測る。埋土は１層で暗灰緑色シルトである。遺物は土師器が出土している。

・ＳＫ-210

Ｆ１区で検出した。ＳＫ-208、209を切る。形態は楕円形を呈し、規模は長径約2.25m、短径約0.7m、深さ約0.12mを測る。埋土は２層で暗灰黒色粘質土、暗灰黒色土である。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

・ＳＫ-211

Ｃ２区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約0.9m、短径約0.6m、深さ約0.27mを測る。埋土は３層で灰青色砂、暗灰青色砂質土、暗緑灰色シルトである。遺物は出土していない。

３．ピット（ＳＰ）

調査区の西側と東側の一部で検出した。規模は径約0.5m、深さ約0.2m前後のものが多数を占め、埋土については暗灰色系の砂質～粘質土が主体をなしている。柱根を残すものはなく、建物を構成したかは明らかでない。遺物はＳＰ-201・202・213・217などで土師器、須恵器などが出土している。

４．落ち込み状遺構

・落ち込みＡ

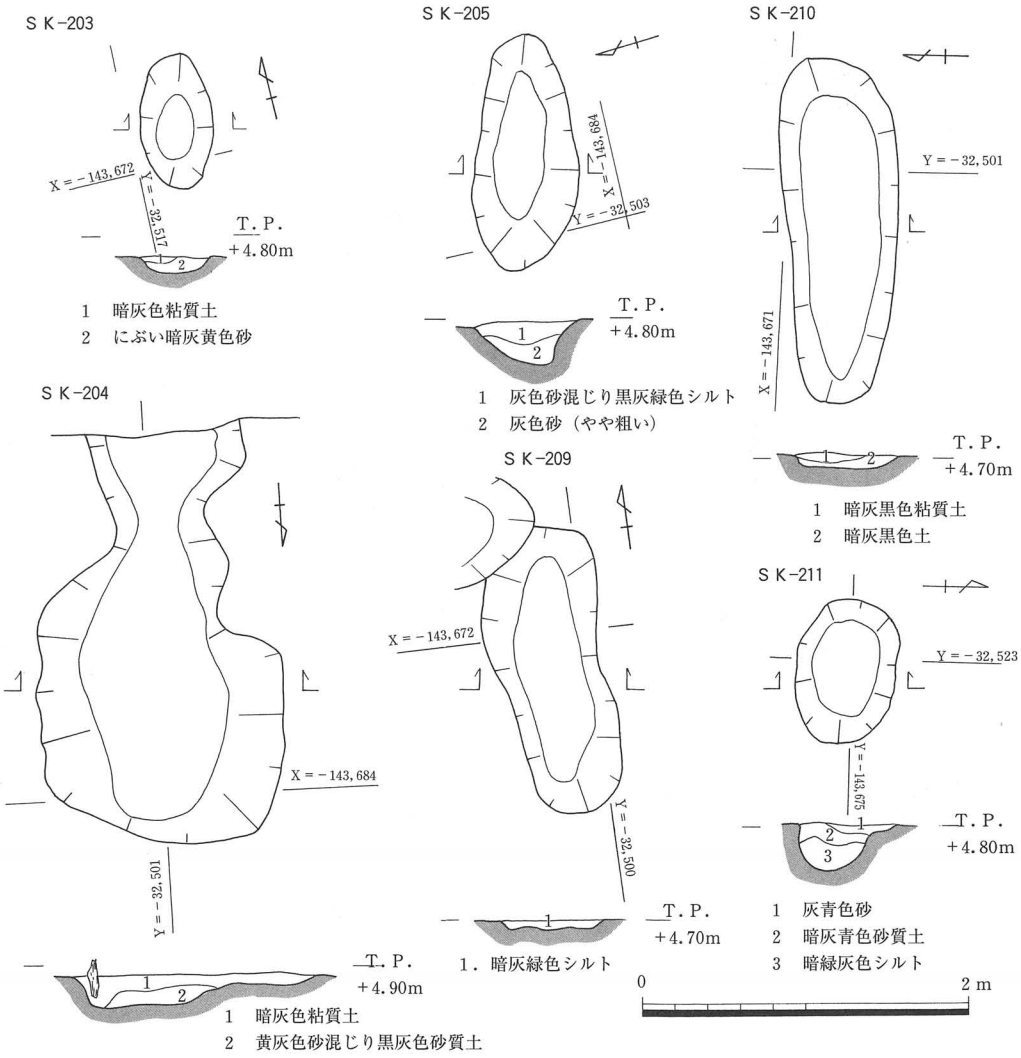
Ｇ４、Ｈ４区にかけて検出したものであるが、結果、水田面における被り土であった。遺物は土師器が出土している。

・落ち込みＢ

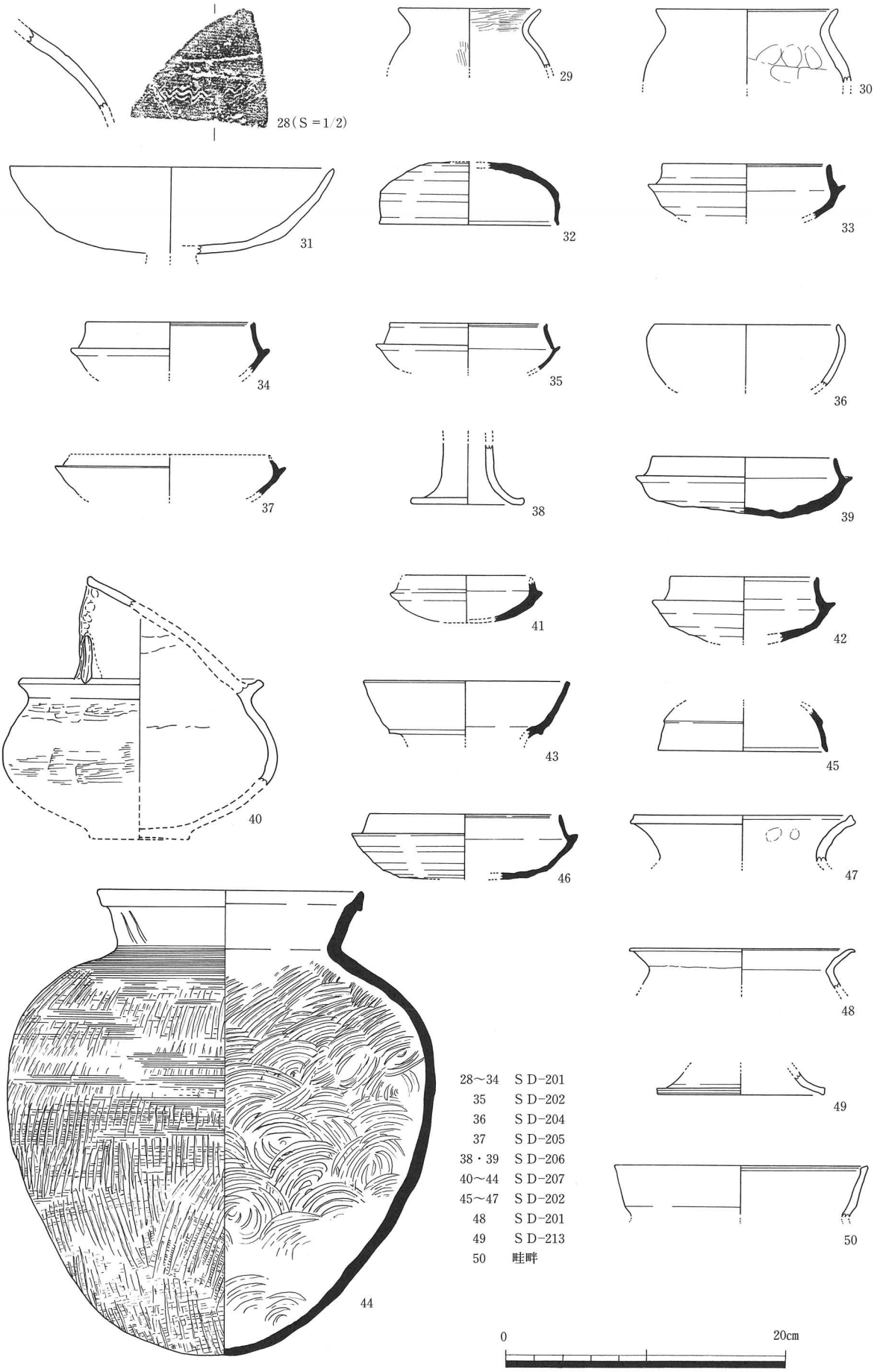
Ｈ４区で検出したものであるが、落ち込みＡと同様のものである。遺物は土師器が出土している。

５．畦畔

Ｇ４、Ｈ４区にかけて検出したものである。水口も２ヶ所確認できるなど、比較的良好に残存するものであり、幅約0.6m、高さ約0.2mを測った。遺物は土師器が出土している。



第18図　第２遺構面　各土坑（ＳＫ）平・断面図



第19図　第２遺構面出土遺物

第４節　第３遺構面

基本層序第Ⅳ層、また調査区北東部では下層の基本層序第Ⅴ層をベースにして、溝、土坑、ピットなどを検出した。標高は西側に向かって傾斜するものであり、東端でＴ．Ｐ．＋4.4m前後、西端ではＴ．Ｐ．＋4.8m前後を測った。

１．溝（ＳＤ）

検出した溝はたいへん錯綜した状況で検出したものであるが、概ね３単位の溝が切り合う状況であった。調査時においては、一連の溝であっても１条ごとに遺構名を付し、遺物の取り上げ、記録の作成を行ったため、ここでもそれに伴い述べることにする。

・ＳＤ-301

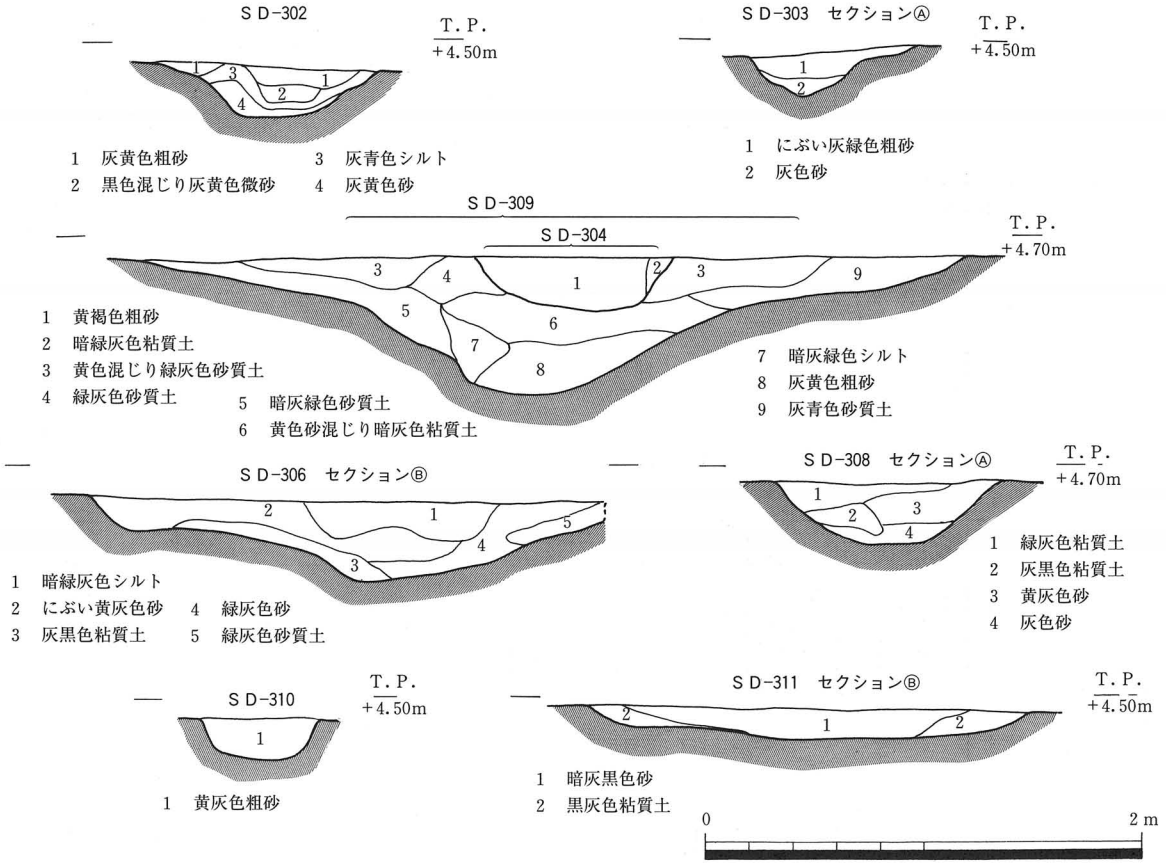
Ｂ３～４区にかけて検出し、ＳＤ-310より続く溝である。規模は幅約0.9m、深さ約0,13mを測る。遺物は土師器、須恵器などが出土している。

・ＳＤ-302

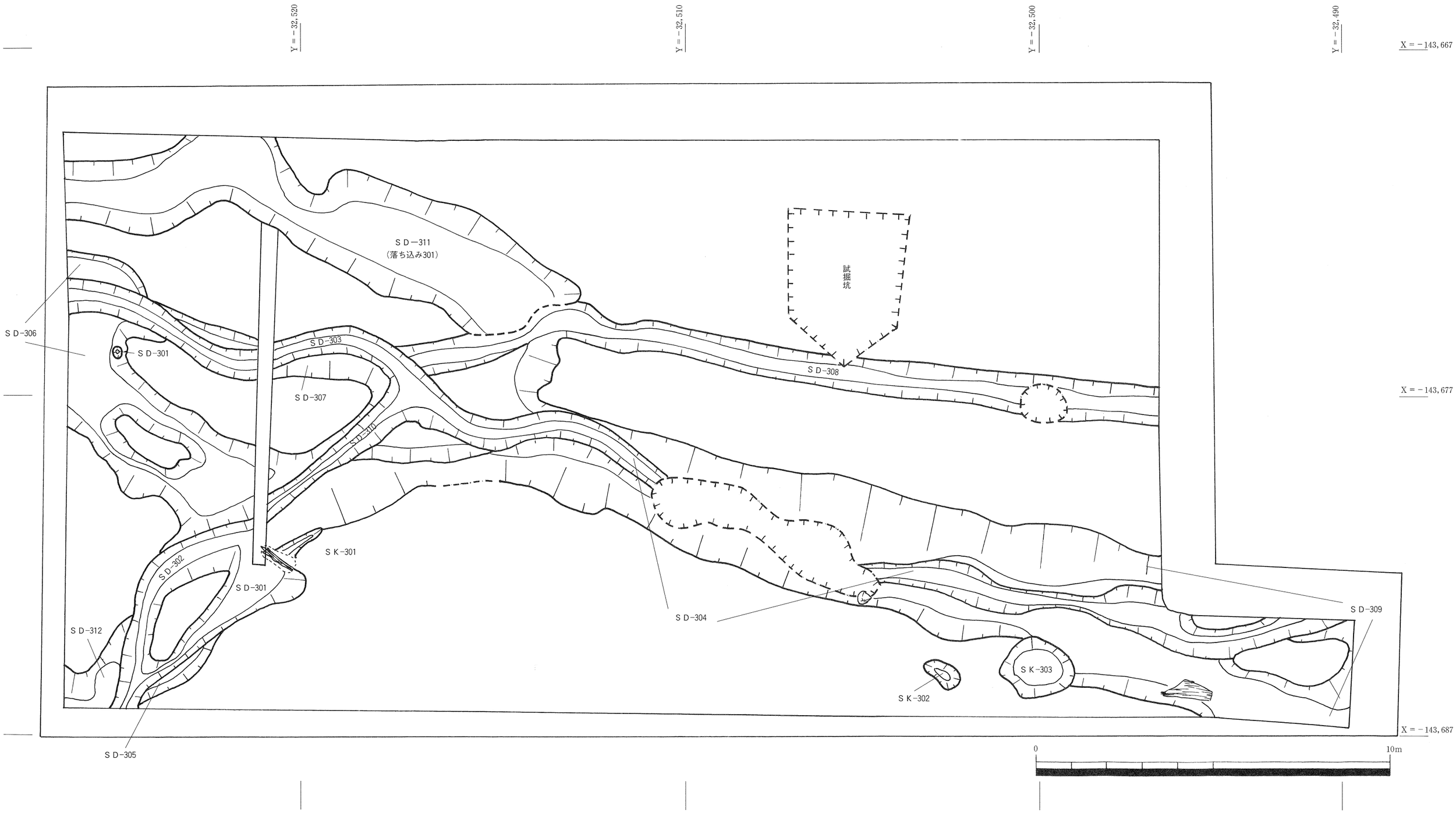
Ａ３～４、Ｂ３～４区にかけて検出し、ＳＤ-310より続く溝である。規模は幅約1.2m、深さ約0.24mを測り、埋土は４層で灰黄色粗砂、黒色混灰黄色微砂、灰青色シルト、灰黄色砂である。遺物は土師器が出土している。

・ＳＤ-303

Ａ２、Ｂ２、Ｃ２区にかけて検出し、ＳＤ-304より続く溝である。規模は幅約0.8m、深さ約0.12mを測り、埋土は２層でにぶい灰緑色粗砂、灰色砂である。遺物は土師器が出土している。



第20図　第３遺構面　各溝（ＳＤ）断面図



第21図　第 3 遺構面全体図

・ＳＤ-304

Ｃ３、Ｄ３、Ｆ４、Ｇ４、Ｈ４区にかけて検出し、ＳＤ-303、310に続く溝である。規模は幅約0.75m、深さ約0.26mを測り、埋土は２層で黄褐色粗砂、暗緑灰色粘質土である。遺物は土師器、須恵器、桃の種などが出土している。

・ＳＤ-305

Ａ４、Ｂ４区にかけて検出した溝である。規模はＳＤ-301、302に切られているため明らかではないが、現存では幅約0.2m、深さ約0.2mを測る。遺物は土師器、須恵器、桃の種などが出土している。

・ＳＤ-306

Ａ２～３、Ｂ２～３区にかけて検出し、ＳＤ-309より続く溝である。ＳＤ-303、310などに切られる。規模は幅約2.9m、深さ約0.38mを測り、埋土は５層で暗緑灰色シルト、にぶい黄灰色砂、灰黒色粘質土、灰緑色砂、緑灰色砂質土である。遺物は弥生土器が出土している。

・ＳＤ-307

Ｂ２、Ｃ２区にかけて検出し、ＳＤ-309より続く溝である。規模はＳＤ-303に切られているため明らかでないが、現存で幅約0.75m、深さ約0.35mを測る。遺物は弥生土器が出土している。

・ＳＤ-308

Ｃ２、Ｄ２、Ｅ２、Ｆ２～３、Ｇ３区にかけて検出した溝である。ＳＤ-303に切られる。規模は幅約1.0m、深さ約0.4mを測り、埋土は４層で緑灰色粘質土、灰黒色粘質土、黄灰色砂、灰色砂である。遺物は弥生土器が出土している。

・ＳＤ-309

Ｄ３、Ｅ３～４、Ｆ３～４、Ｇ３～４、Ｈ４にかけて検出し、ＳＤ-306、311、312に続く溝である。ＳＤ-304に切られる。規模は幅約3.75m、深さ約0.59mを測り、埋土は７層で黄色混緑灰色砂質土、緑灰色砂質土、暗灰緑色砂質土、黄色砂混暗灰色粘質土、暗灰緑色シルト、灰黄色粗砂、灰青色砂質土である。遺物は比較的まとまって出土しており弥生土器などが出土している。

・ＳＤ-310

Ｂ３、Ｃ３区にかけて検出し、ＳＤ-304より続く溝である。ＳＤ-306などを切る。規模は幅約0.85m、深さ約0.27mを測り、埋土は１層で黄灰色粗砂である。遺物は須恵器、製塩土器、桃の種などが出土している。

・ＳＤ-311

Ａ１、Ｂ１、Ｃ１～２、Ｄ１～２区にかけて検出し、ＳＤ-309より続く溝である。ＳＤ-308などに切られる。規模は幅約3.15m、深さ約0.13mを測り、埋土は２層で暗灰黒色砂、黒灰色粘質土である。遺物は弥生土器などが出土している。

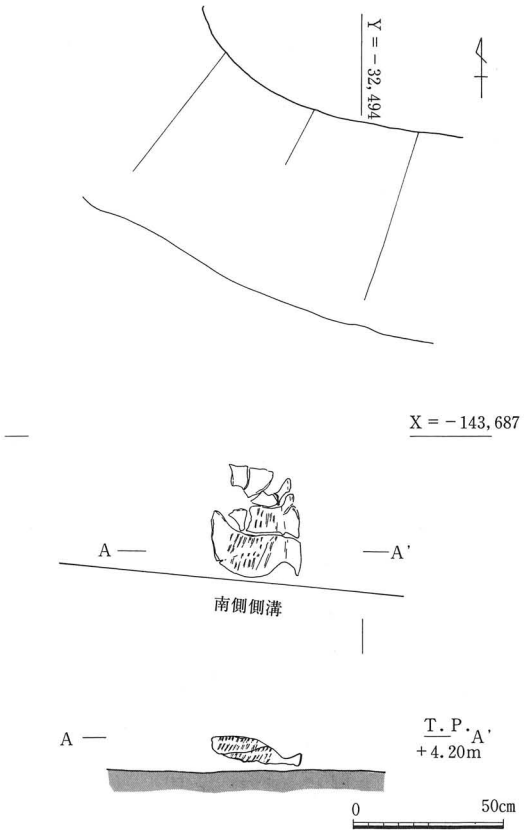
・ＳＤ-312

Ａ４区で検出し、ＳＤ-309より続く溝である。ＳＤ-302などに切られる。規模は切られているため明らかでないが、現存で幅約1.3m、深さ約0.5mを測る。遺物は弥生土器などが出土している。

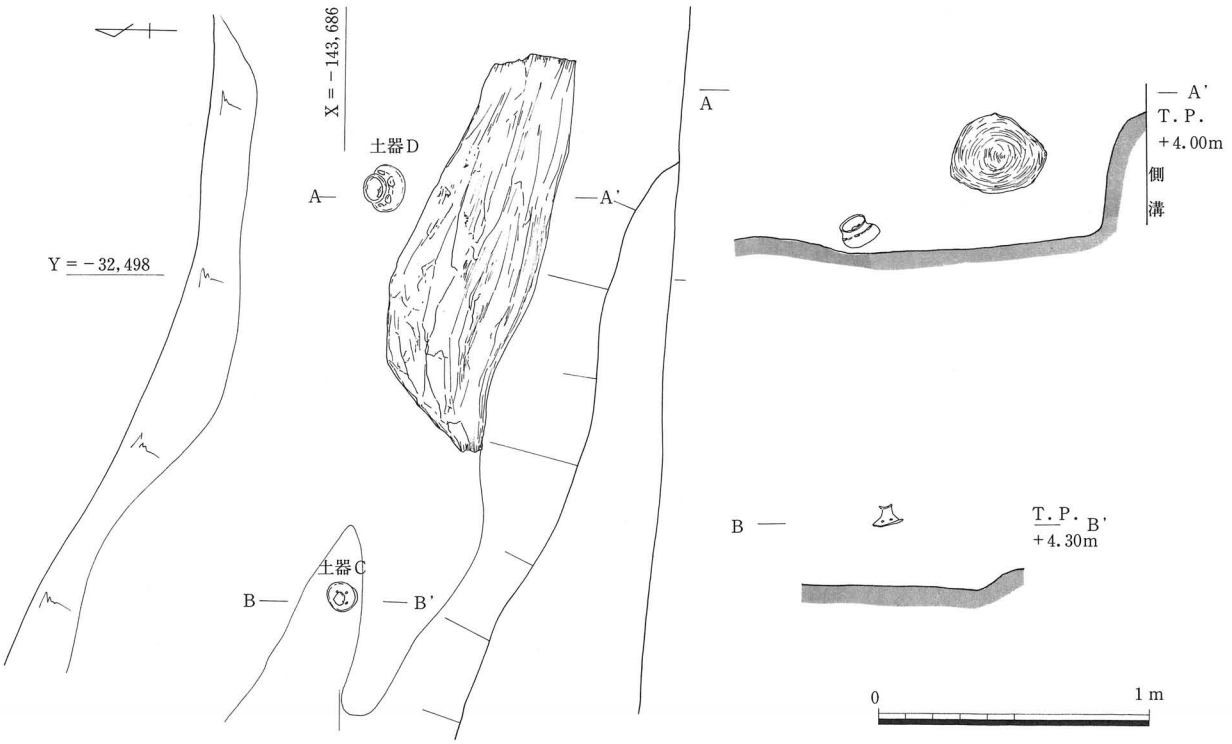
２．土坑（ＳＫ）

・ＳＫ-301

Ｂ３区で検出した。形態は楕円形を呈するものと思われ、規模はＳＤ-301に切られているため明



第22図　ＳＤ−309遺物出土状況図（１）



第23図　ＳＤ−309遺物出土状況図（２）

らかではないが、現存では最大長約1.3m、最大幅約0.4m、深さ約0.07mを測る。埋土は１層で暗灰色粘質土である。遺物は出土していない。

・ＳＫ-302

Ｆ４区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.06m、短径約0.56m、深さ約0.08mを測る。埋土は２層で暗緑灰色粘土、黄褐色粗砂混緑灰色粘質土である。遺物は弥生土器などが出土している。

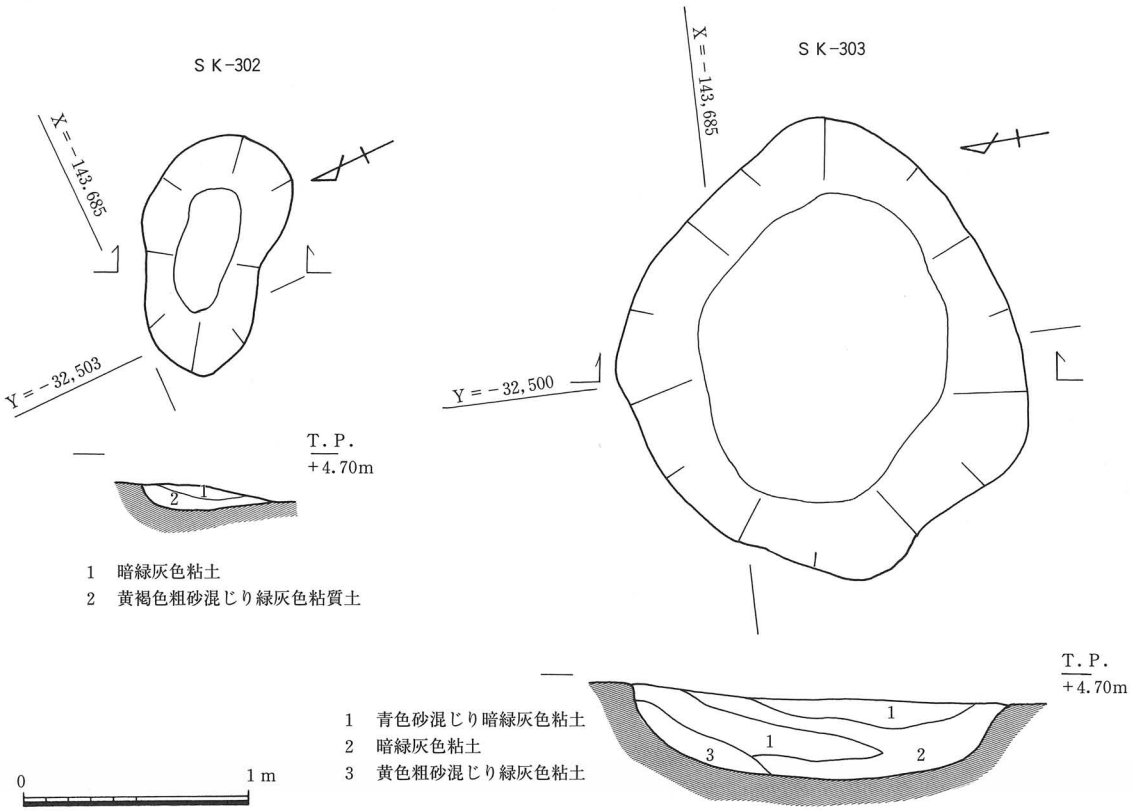
・ＳＫ-303

Ｆ４、Ｇ４区にかけて検出した。ＳＤ-309を切る。形態はやや不定形な楕円形を呈し、規模は長径約2.06m、短径約1.8m、深さ約0.28mを測る。埋土は３層で青色砂混暗緑灰色粘土、暗緑灰色粘土、黄色粗砂混緑灰色粘土である。遺物は須恵器などが出土している。

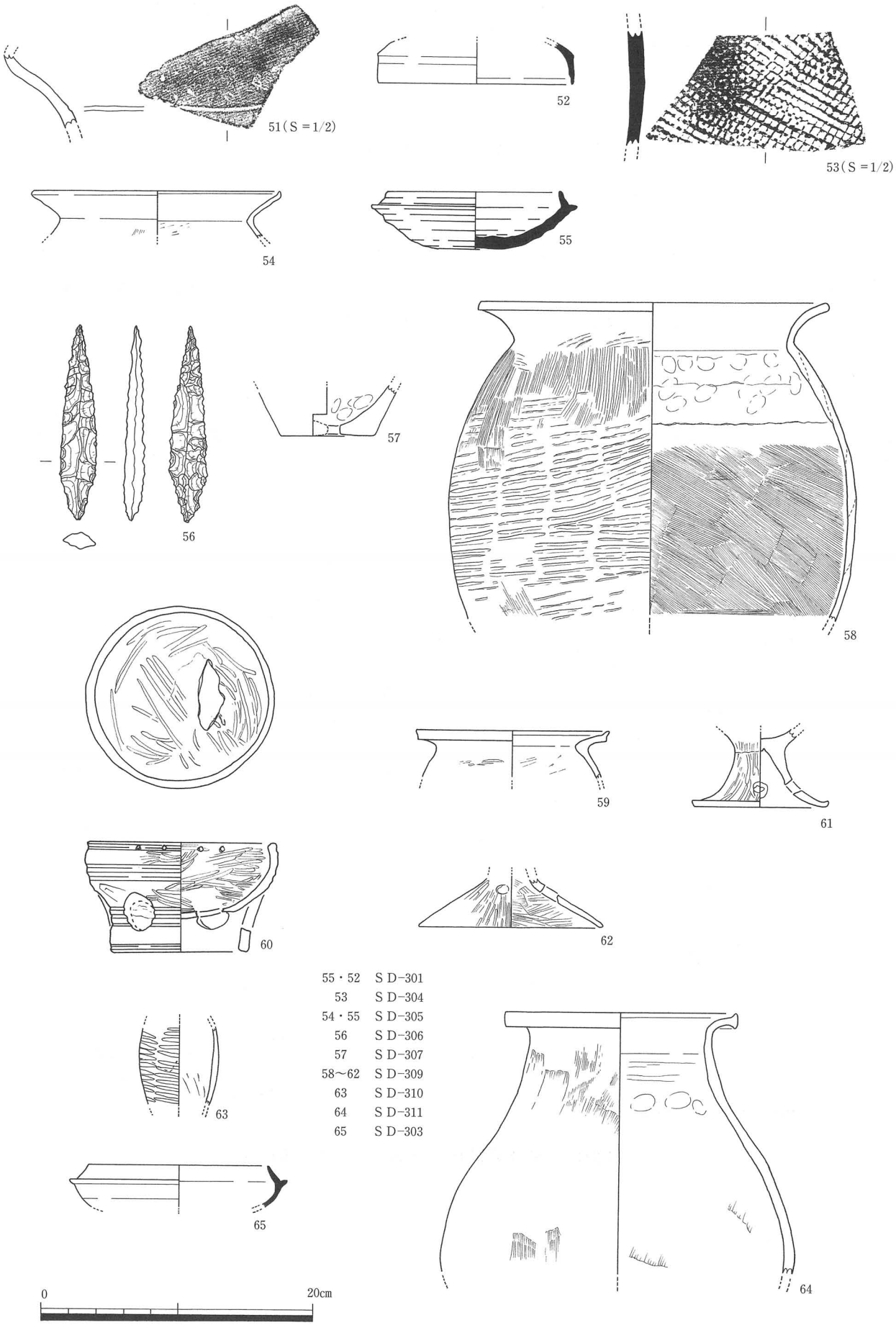
３．ピット（ＳＰ）

・ＳＰ-301

Ａ２区で検出した。ＳＤ-306を切る。形態は円形を呈し、規模は径約0.27m、深さ約0.1mを測る。埋土は１層で黄灰色砂である。遺物は出土していない。



第24図　第３遺構面各土坑（ＳＫ）平・断面図



55・52	S D-301
53	S D-304
54・55	S D-305
56	S D-306
57	S D-307
58～62	S D-309
63	S D-310
64	S D-311
65	S D-303

第25図　第３遺構面出土遺物

第５節　第４遺構面

基本層序第Ⅴ層をベースにして、溝、土坑などを検出した。標高は調査区北東部が高くなっており、以降、南西側に向かって傾斜するものである。東端北側でＴ．Ｐ．＋4.8m前後、東端南側でＴ．Ｐ．＋4.4m前後、そして西端ではＴ．Ｐ．＋4.2m前後を測った。

１．溝（ＳＤ）

・ＳＤ-401

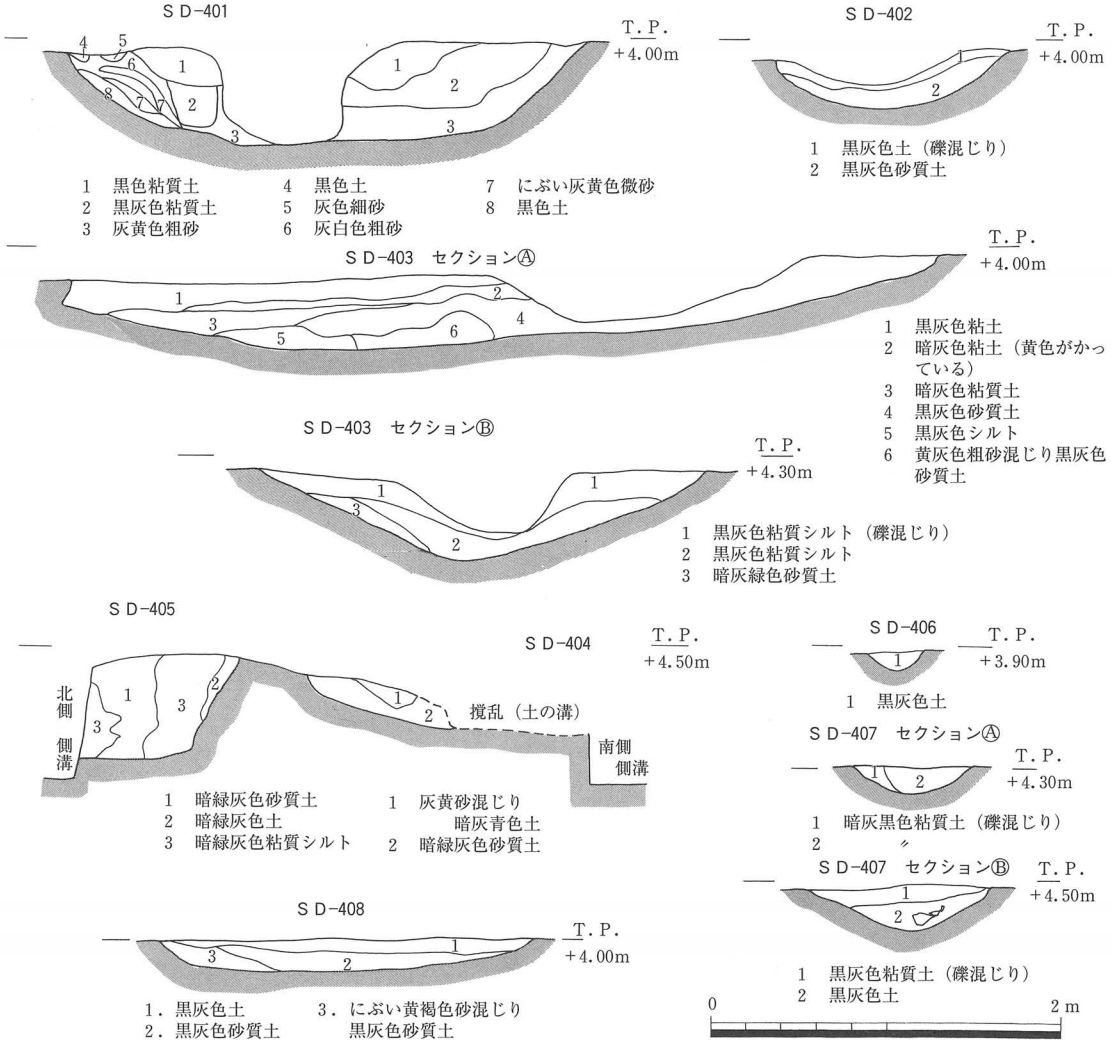
Ａ３～４、Ｂ３～４区にかけて検出した、ＳＤ-403より続く溝である。規模は幅約3.2m、深さ約0.52mを測り、埋土は８層で黒色粘質土、黒灰色粘質土、灰黄色粗砂、黒色土、灰色細砂、灰白色粗砂、にぶい灰黄色微砂、黒色土である。遺物は弥生土器などが出土している。

・ＳＤ-402

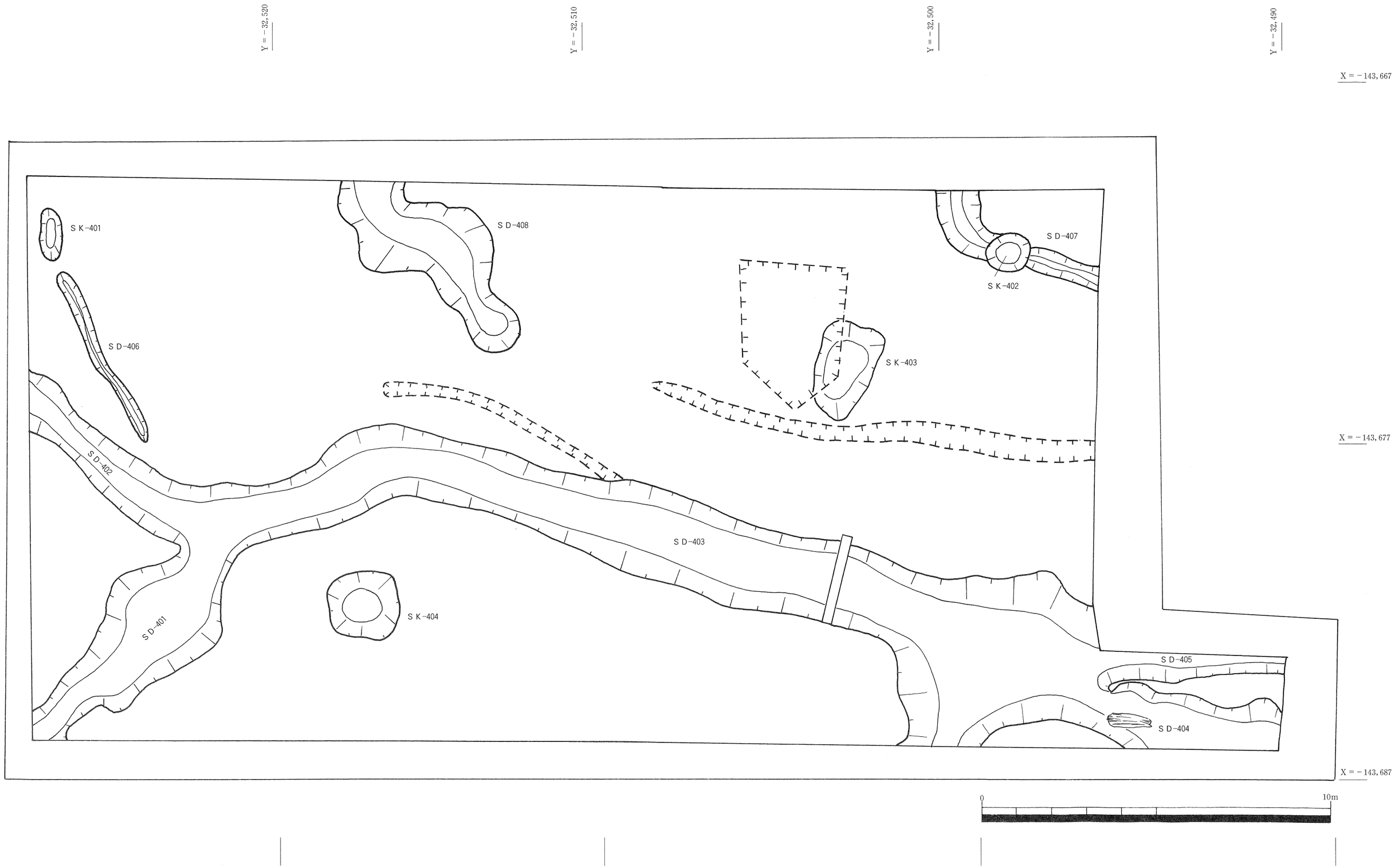
Ａ２～３、Ｂ２～３にかけて検出した、ＳＤ-403より続く溝である。規模は幅約1.5m、深さ約0.54mを測り、埋土は２層で礫混黒色土、黒灰色砂質土である。遺物は弥生土器などが出土している。

・ＳＤ-403

Ｂ３、Ｃ２～３、Ｄ２～３、Ｅ３、Ｆ４～５、Ｇ３～４区にかけて検出した、ＳＤ-404、405よ



第26図　第４遺構面各溝（ＳＤ）断面図



第27図　第４遺構面全体図

り続き、ＳＤ-401、402に続く溝である。規模は幅約2.15m、深さ約0.6mを測り、埋土は概ね３層で礫混黒灰色粘質シルト、黒灰色粘質シルト、暗灰緑色砂質土が主体をなす。遺物は比較的まとまって出土しており、弥生土器などが出土している。

・ＳＤ-404

Ｇ４、Ｈ４区にかけて検出した、ＳＤ-403に続く溝である。規模は調査区外にひろがるため明らかではないが現存で最大幅約1.75m、深さ約0.35mを測り、埋土は２層で灰黄色砂混暗灰青色土、暗緑灰色砂質土である。遺物は中期の弥生土器、人形（木偶）と考えられる木製品などが出土している。

・ＳＤ-405

Ｇ４、Ｈ４区にかけて検出した、ＳＤ-403に続く溝である。規模は調査区外にひろがるため明らかではないが現存で最大幅約0.85m、深さ約0.46mを測り、埋土は３層で暗緑灰色砂質土、暗緑灰色土、暗緑灰色粘質シルトである。遺物は弥生土器などが出土している。

・ＳＤ-406

Ａ１～２、Ｂ１～２区にかけて検出した溝である。規模は幅約0.35m、深さ約0.08mを測る。埋土は１層で黒灰色土である。遺物は出土していない。

・ＳＤ-407

Ｆ１～２、Ｇ１～２区にかけて検出した、ほぼ東西方向から北に屈曲する溝である。ＳＫ-402に切られる。規模は幅約1.15m、深さ約0.42mを測り、埋土は２層で礫混黒灰色粘質土、黒灰色土が主体をなす。遺物は屈曲部で弥生土器の甕一個体分などが出土している。このような遺物の出土状況や後に述べるＳＫ-402の検出状況から、この溝は方形周溝墓の区画溝であることが想定される。

・ＳＤ-408

Ｃ１～２、Ｄ１～２区にかけて検出した溝である。規模は幅約2.75m、深さ約0.25mを測り、埋土は３層で黒灰色土、黒灰色砂質土、にぶい黄褐色砂混黒灰色砂質土である。遺物は弥生土器などが出土している。

２．土坑（ＳＫ）

・ＳＫ-401

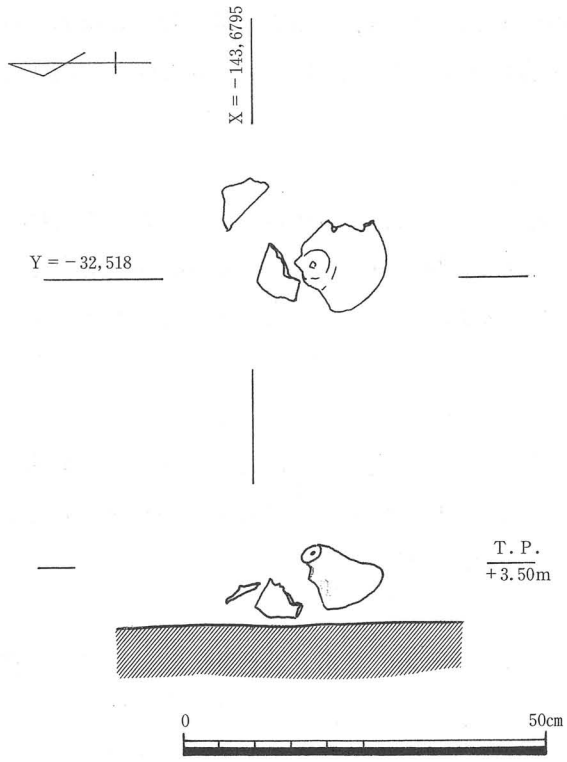
Ａ１区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.5m、短径約0.6m、深さ約0.13mを測る。埋土は３層で砂混黒色粘質土、黒色粘質土、黒灰色粘質土である。遺物は出土していない。

・ＳＫ-402

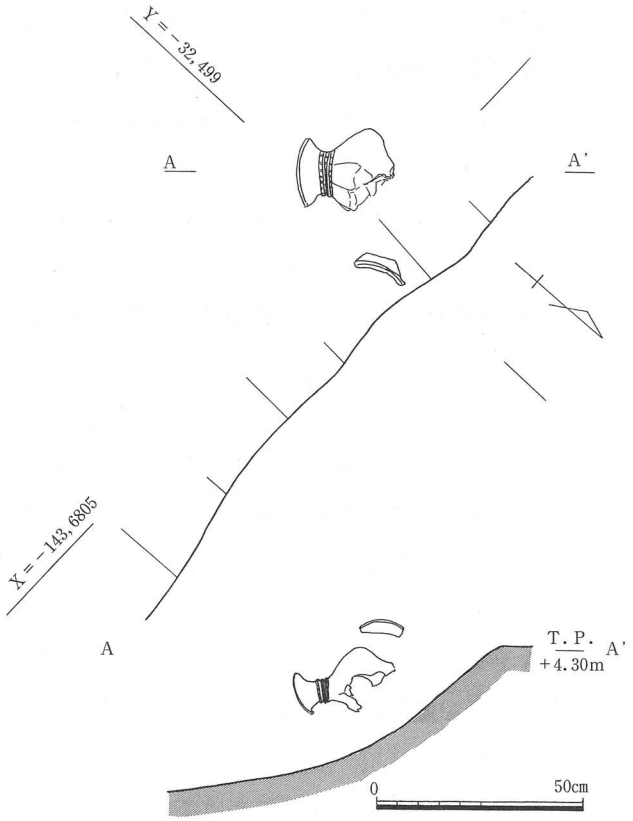
Ｇ１～２区にかけて検出した。ＳＤ-407を切る。形態は楕円形を呈し、規模は長径約1.3m、短径約0.86m、深さ約0.14mを測る。埋土は１層で暗灰色土ブロック混暗灰黄色粗砂である。遺物は弥生土器の壺一個体と蓋に転用した弥生土器の壺底部が出土している。先に述べたＳＤ-４０７との関連性や出土状況から見て壺棺を埋納する土坑であることが想定される。

・ＳＫ-403

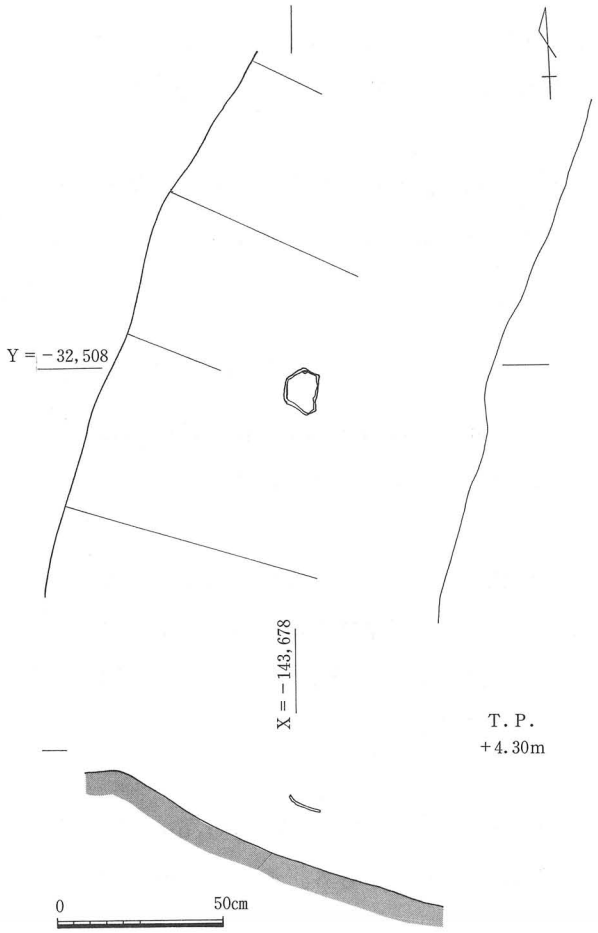
Ｆ２区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は長径約2.7m、短径約1.6m、深さ約0.4mを測る。埋土は２層で礫混黒灰色粘質土、暗灰色粘質土シルトである。遺物は前期の弥生土器、土製円盤、サヌカイト片などが出土している。



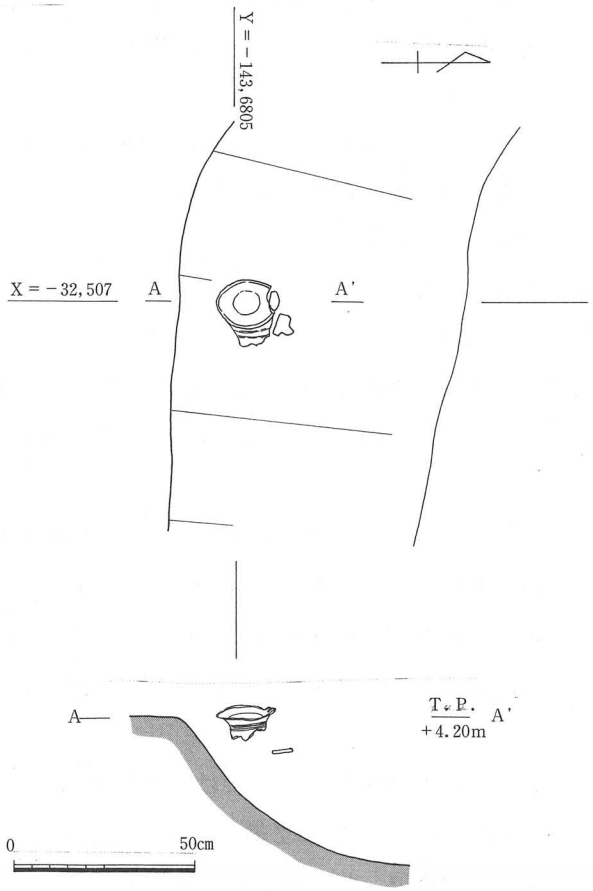
第28図　ＳＤ−401遺物出土状況図



第29図　ＳＤ−403遺物出土状況図（１）

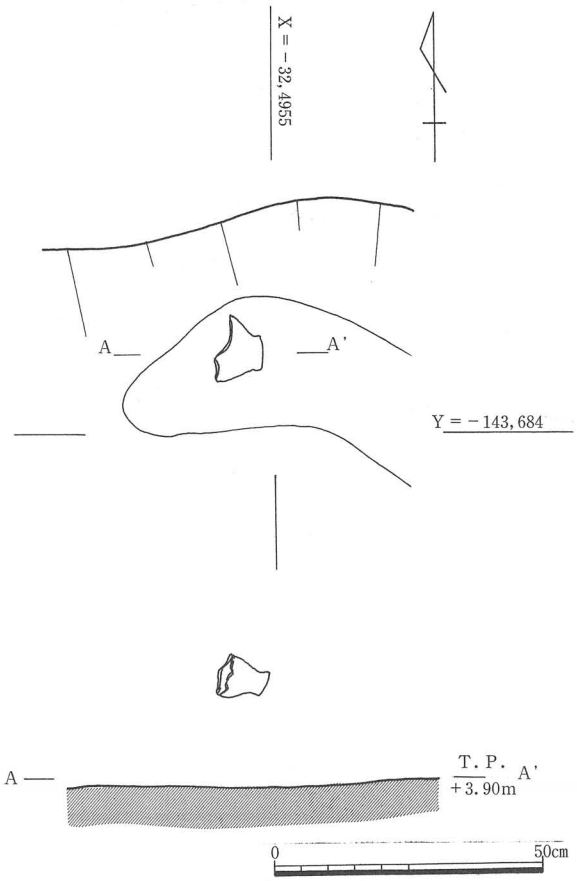


第30図　ＳＤ−403遺物出土状況図（２）

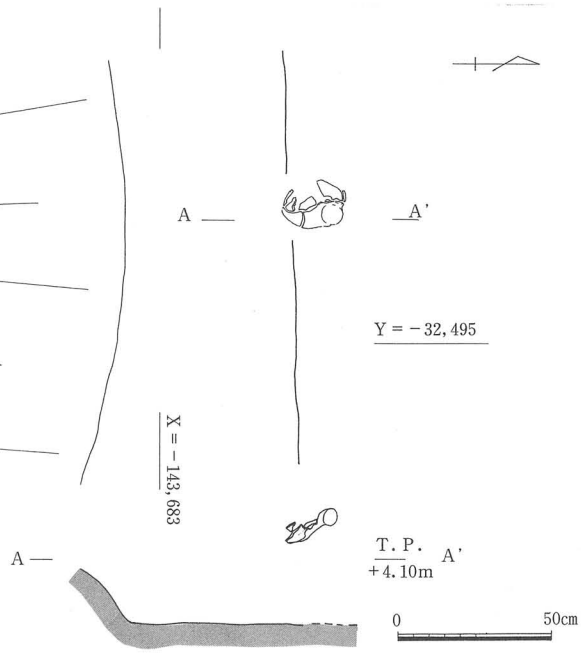


第31図　ＳＤ−403遺物出土状況図（３）

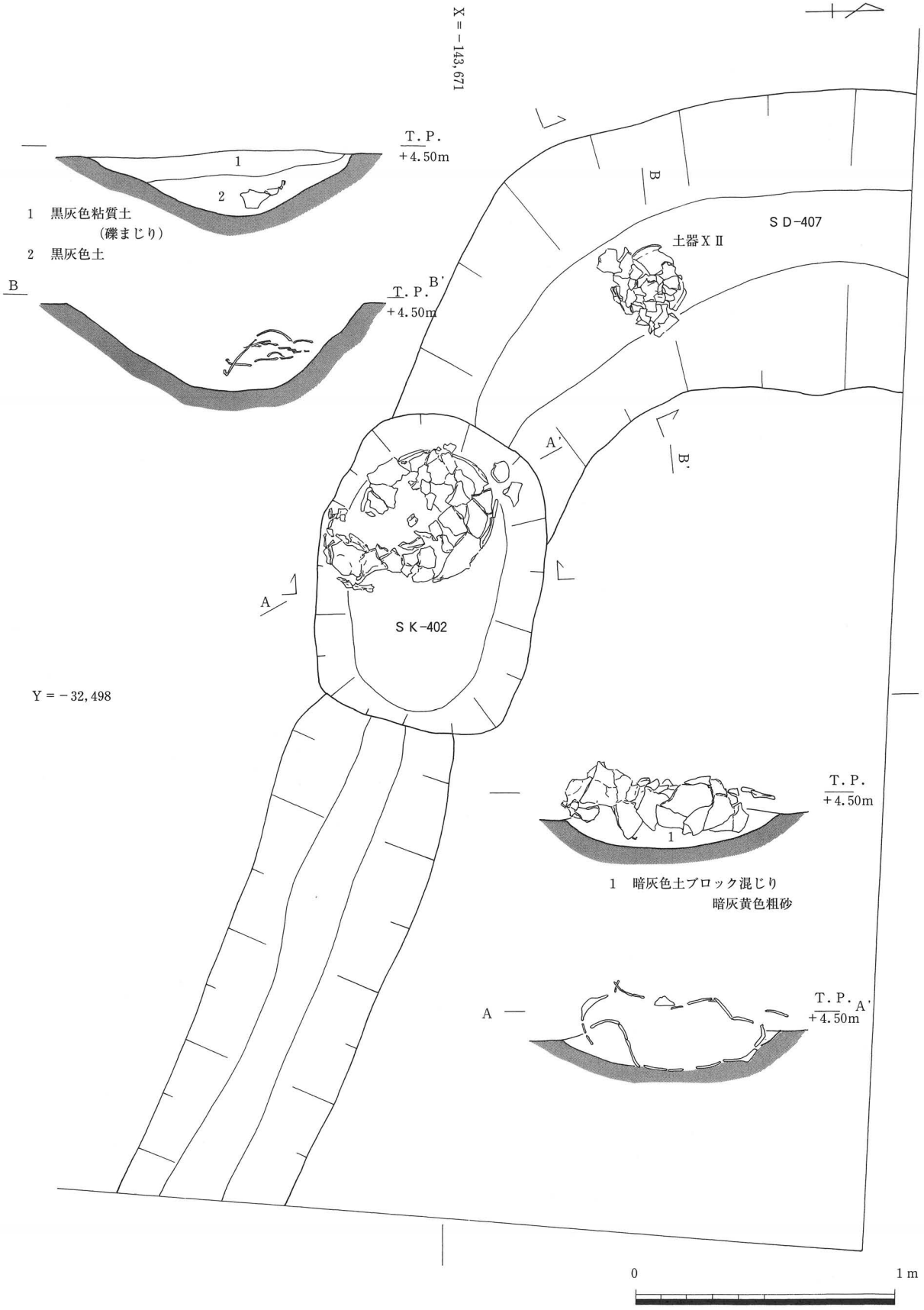
第32図　ＳＤ−404遺物出土状況図（１）



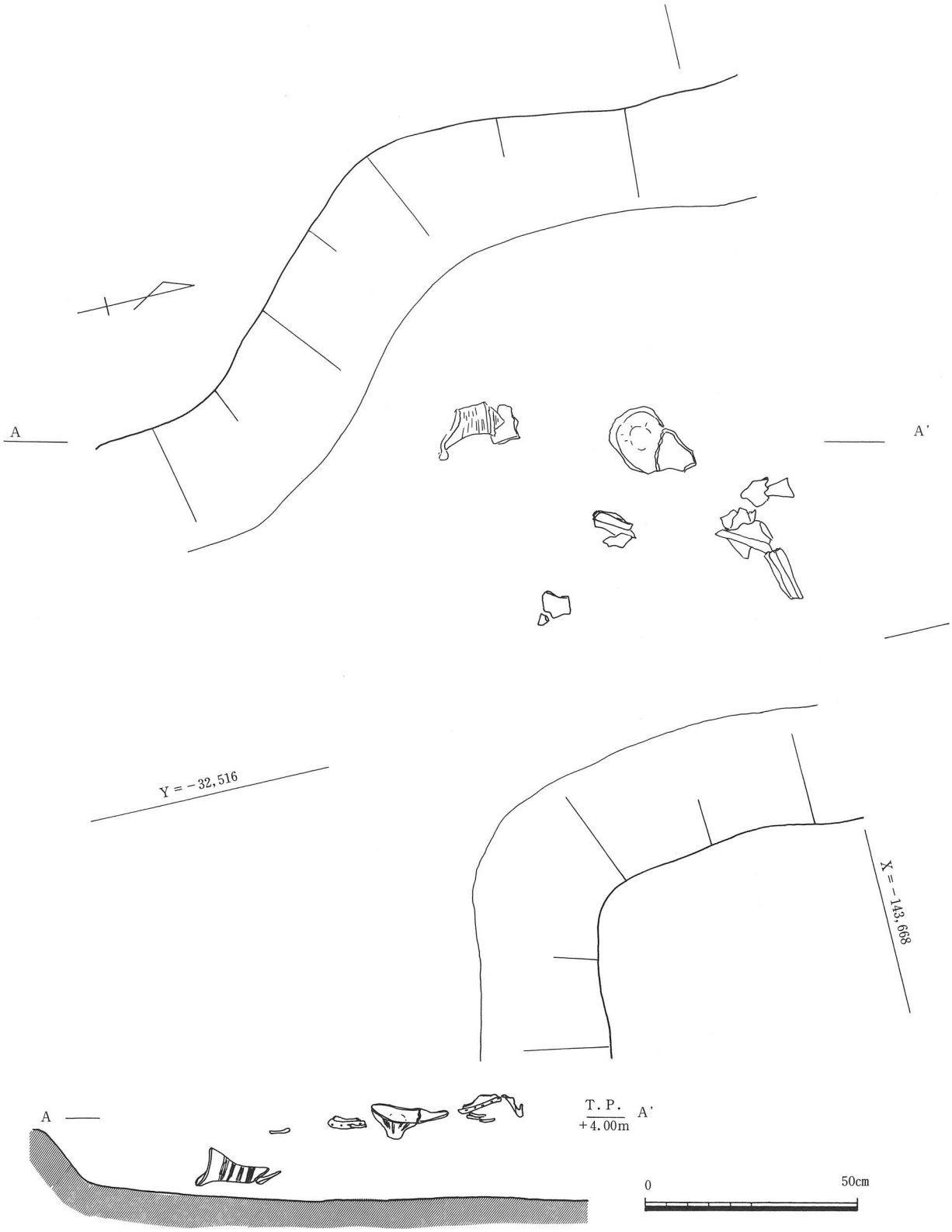
第33図　ＳＤ−404遺物出土状況図（２）



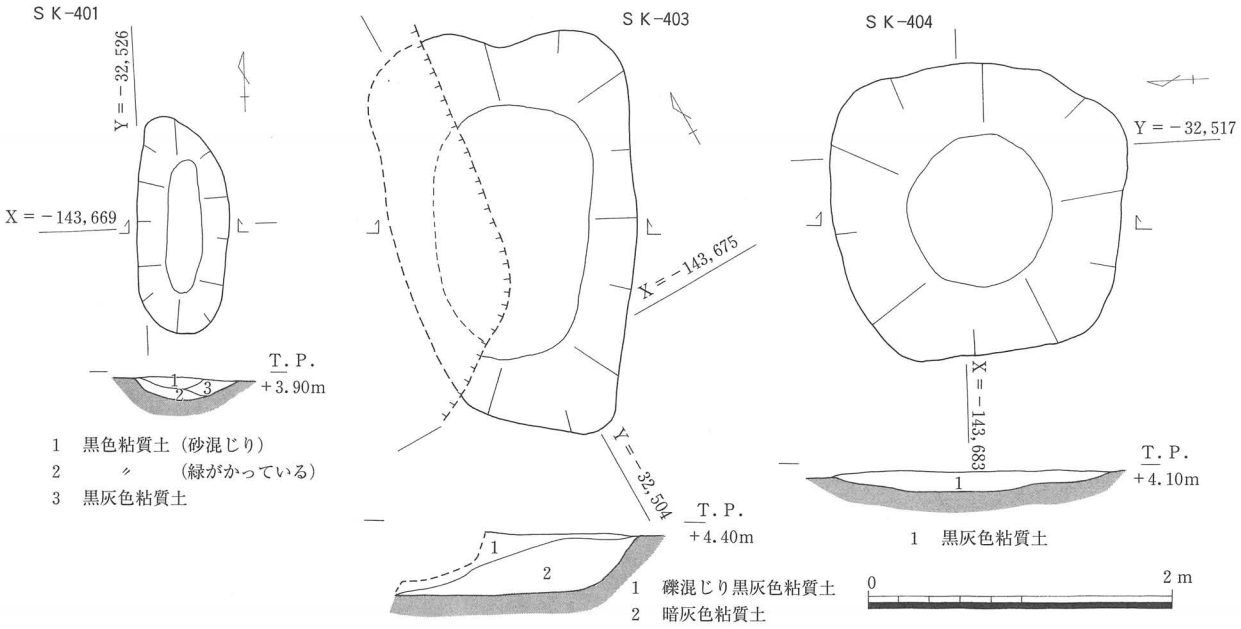
第34図　ＳＤ−405遺物出土状況図



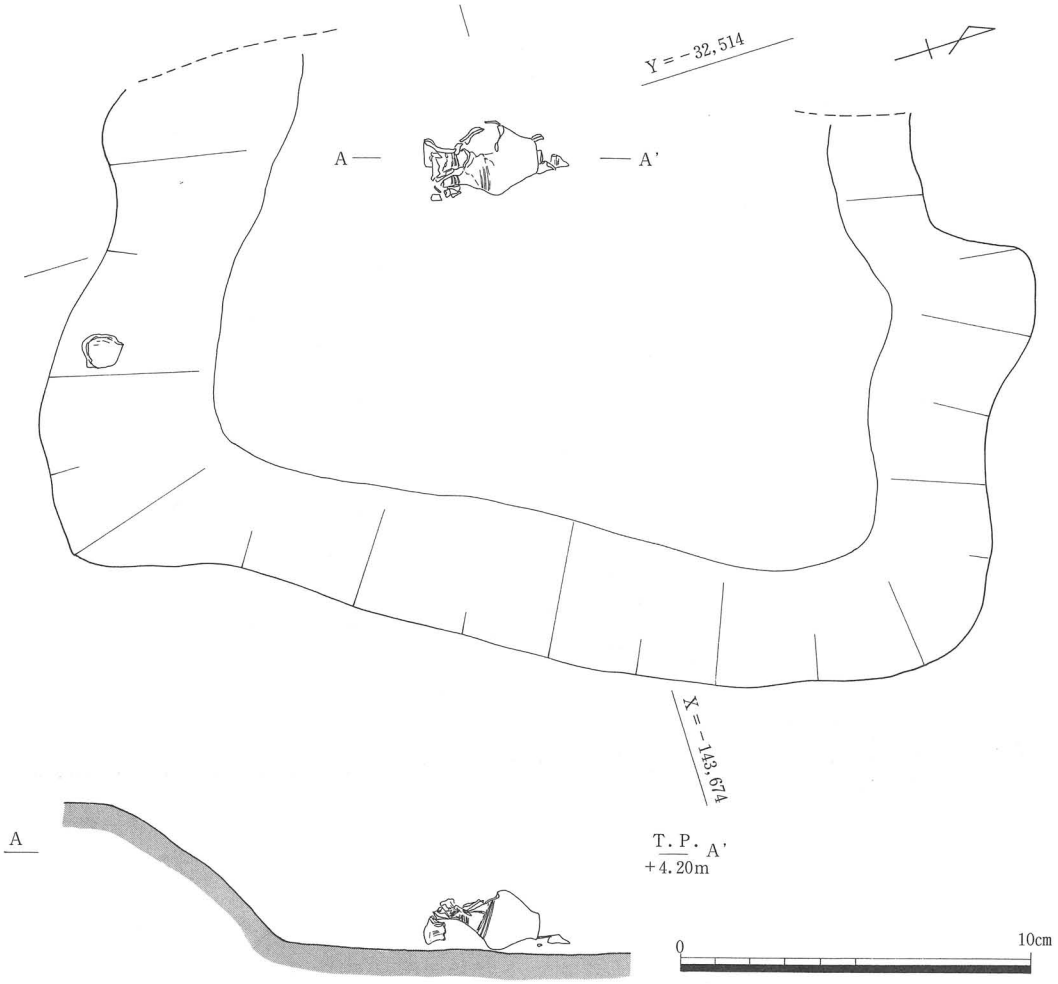
第35図　SD−407、SK−402(方形周溝墓)平・断・遺物出土状況図



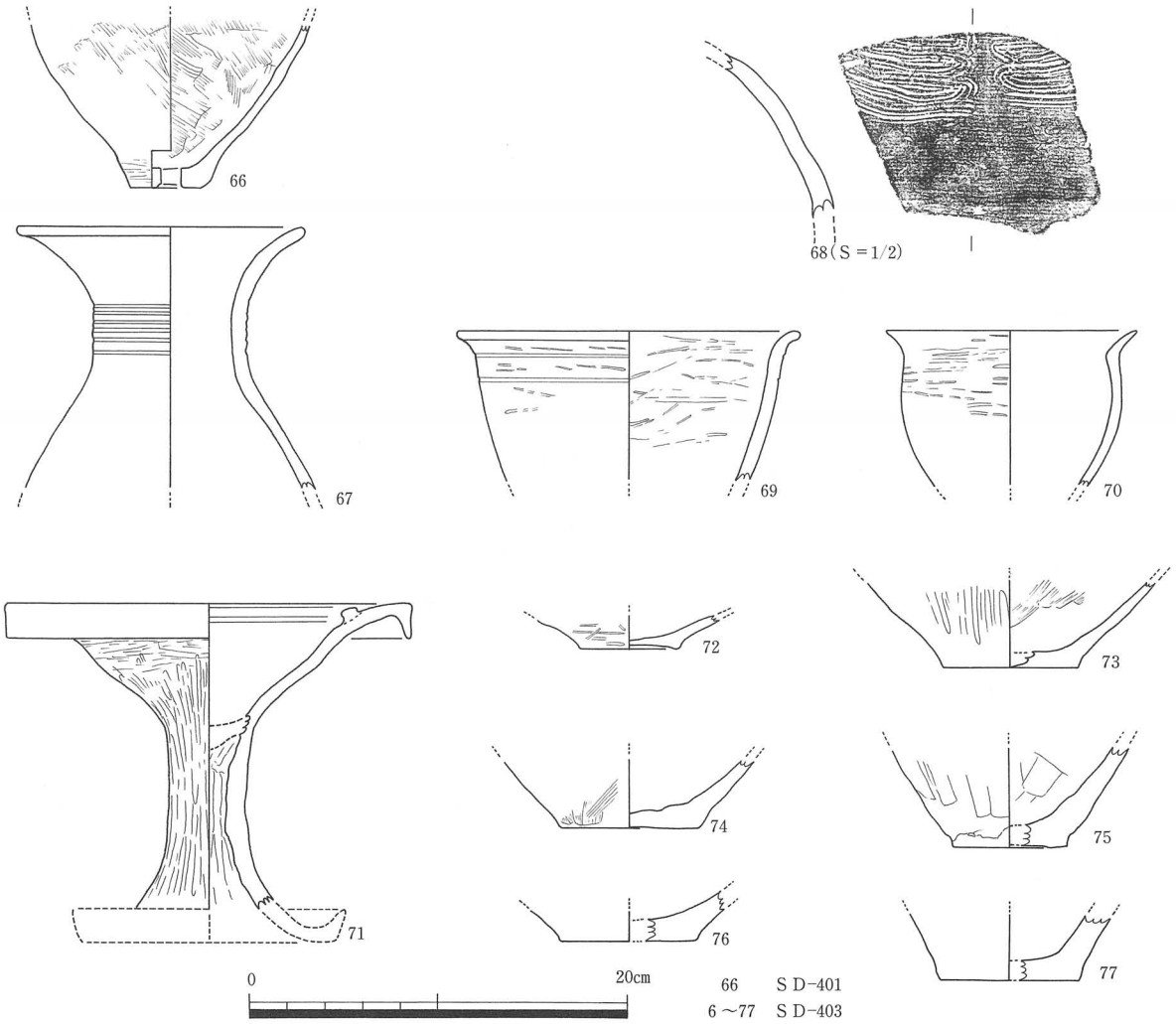
第36図　ＳＤ−408遺物出土状況図



第37図　第４遺構面各土坑（ＳＫ）平・断面図



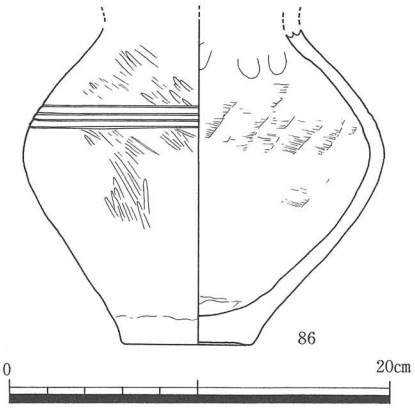
第38図　ＳＤ−403遺物出土状況図



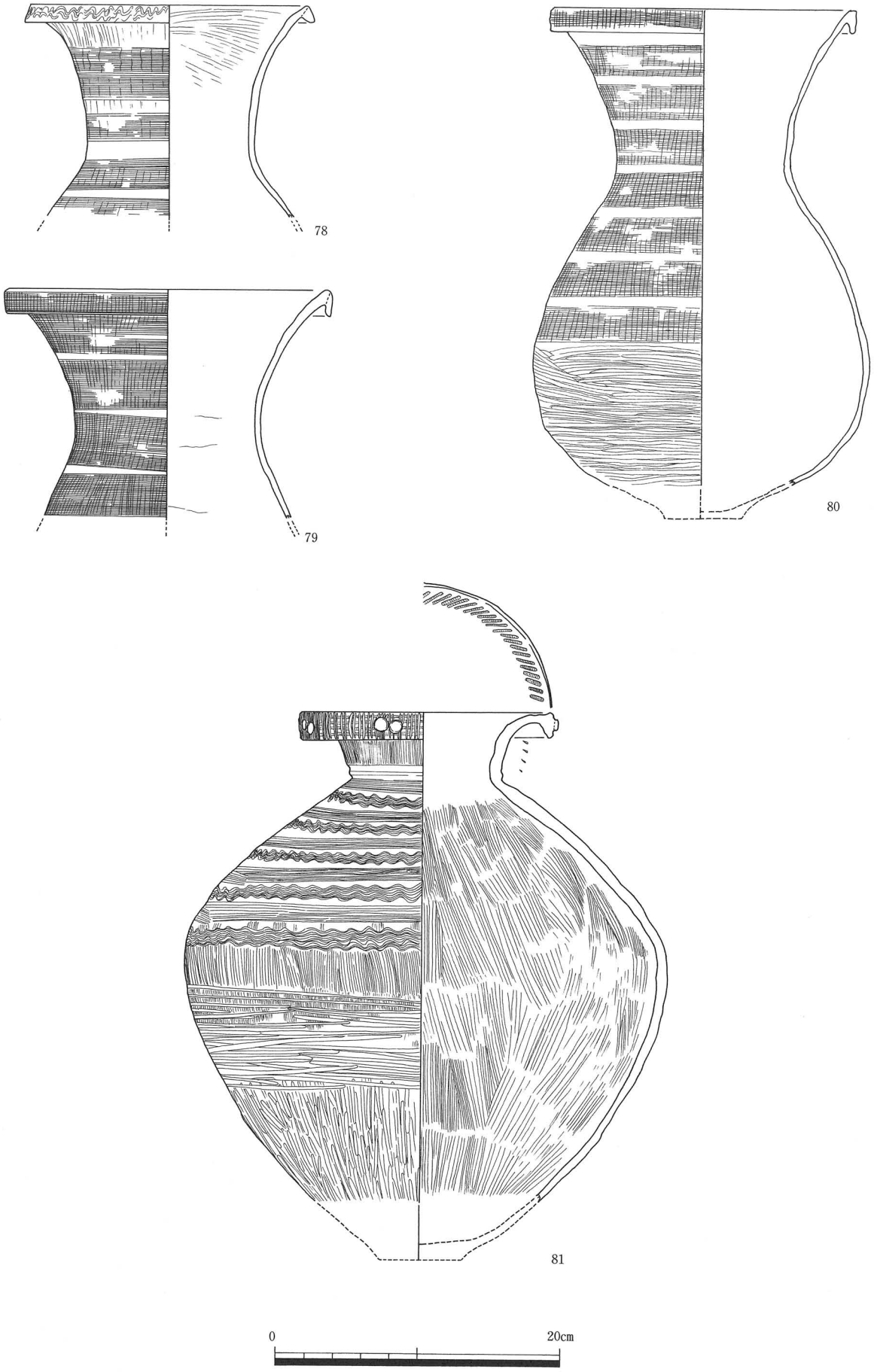
第39図　ＳＤ−401・403出土遺物

・ＳＫ−404

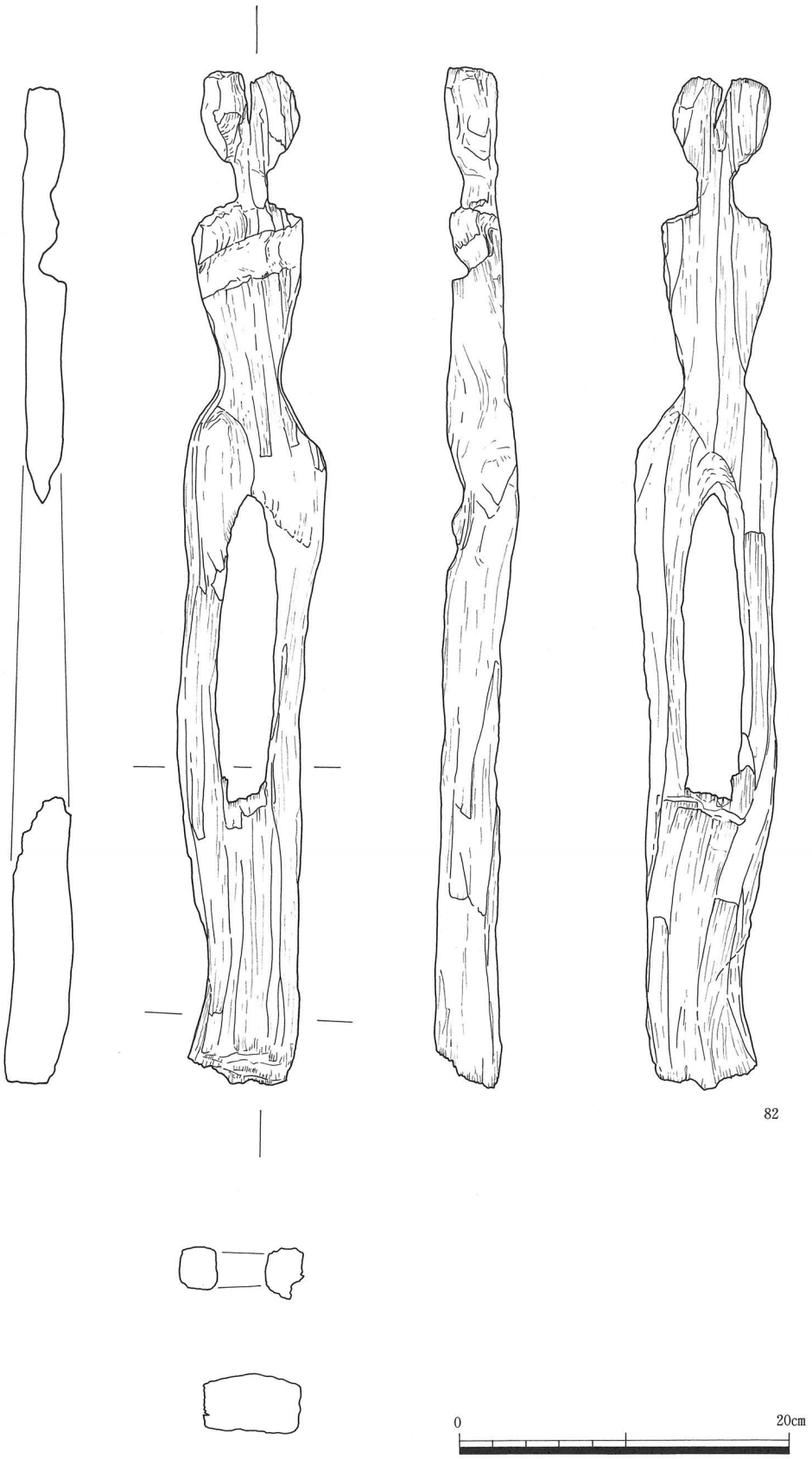
Ｃ３区で検出した。形態は隅丸の方形を呈し、規模は径約2.0m、深さ約0.15mを測る。埋土は１層で黒灰色粘質土である。遺物は弥生土器が出土している。



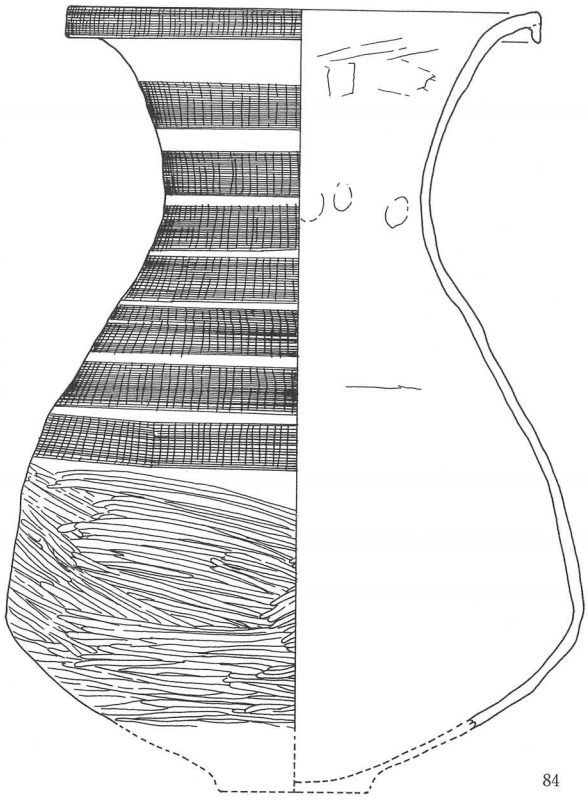
第40図　ＳＤ−405出土遺物

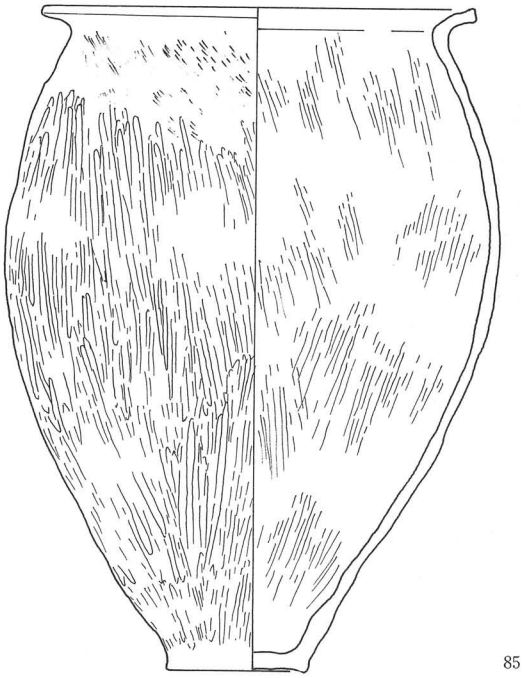


第41図　ＳＤ-404出土遺物（１）

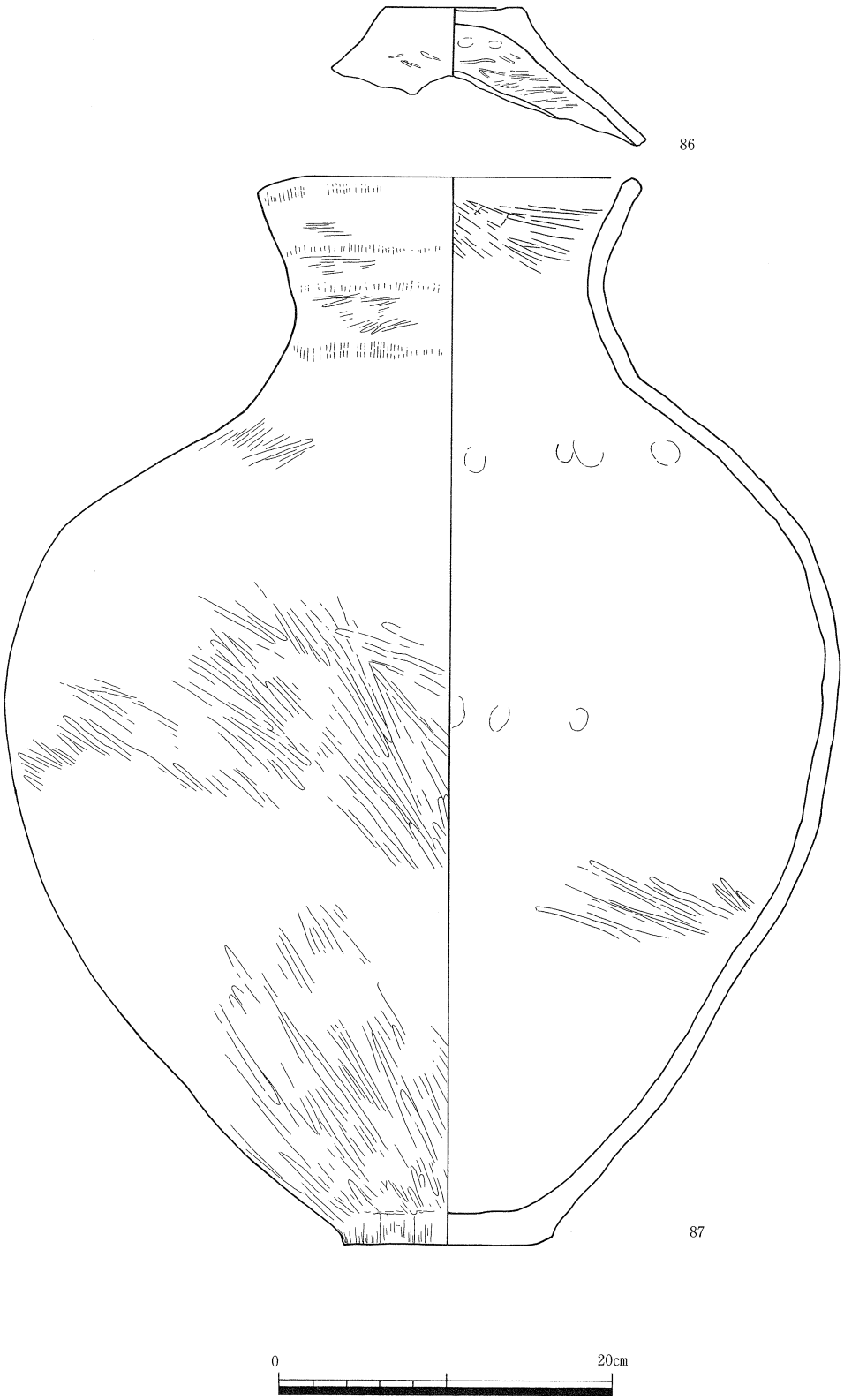


第42図　ＳＤ−404出土遺物（２）

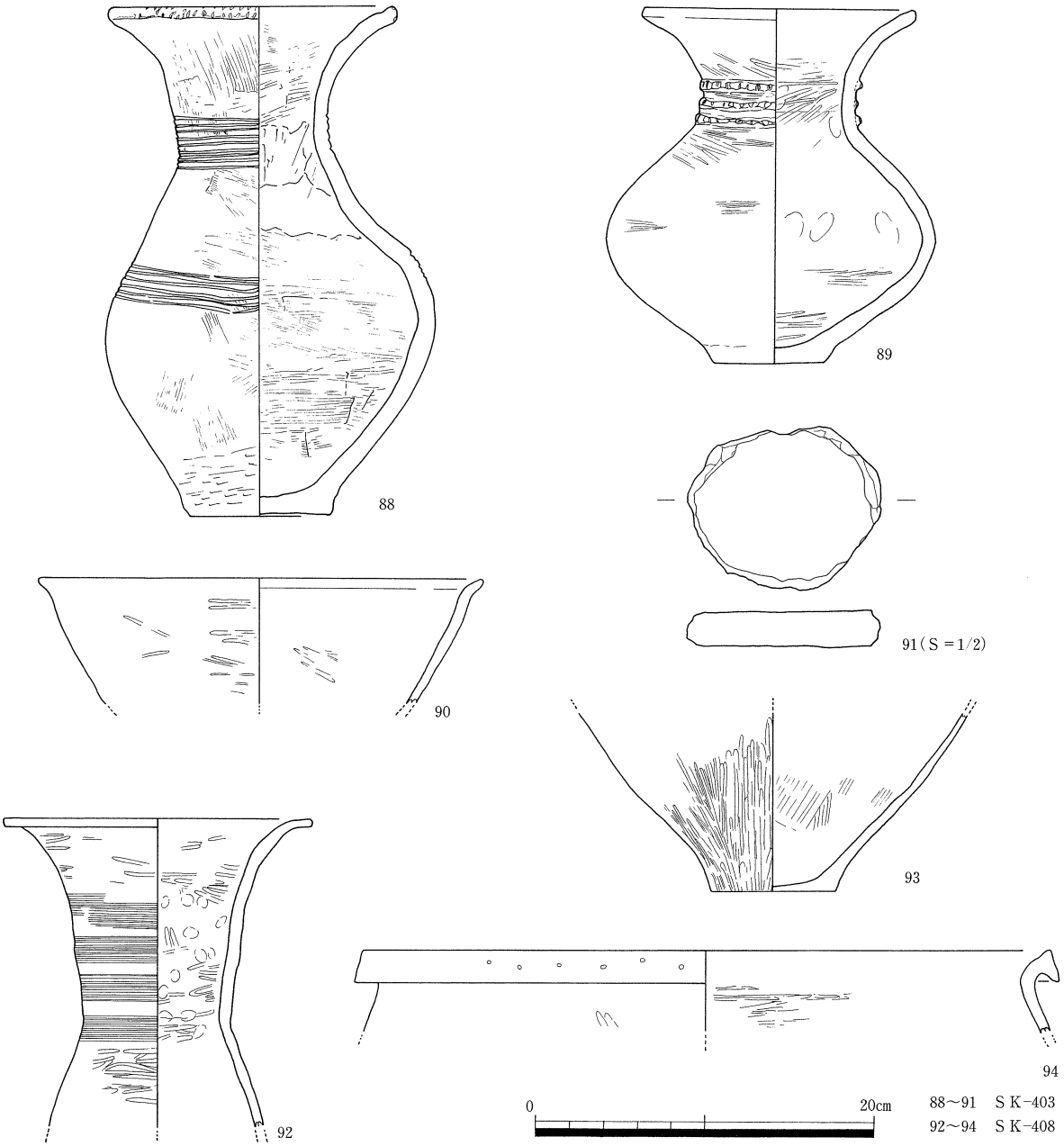




第43図　ＳＤ−407（方形周溝墓）出土遺物



第44図　ＳＤ−402出土遺物（壷棺）



第45図　SD-408・SK-403出土遺物

第６節　第５遺構面

基本層序第Ⅵ層をベースにして、溝、自然流路、土坑などを検出した。標高は西側に向かってやや傾斜するものであり、東端でＴ．Ｐ．＋4.1m前後、西端ではＴ．Ｐ．＋4.0m前後を測った。

１．溝（ＳＤ）

・ＳＤ-501

調査区西部で検出し、弧を描きながらＮＲ-501に続く溝である。規模は幅約2.0m、深さ約0,39mを測り、埋土は４層で礫混黒灰色粘質土、礫混黒灰色土、礫混黒灰色砂質土、黒灰色粘土である。遺物は弥生土器、サヌカイト片などが出土している。

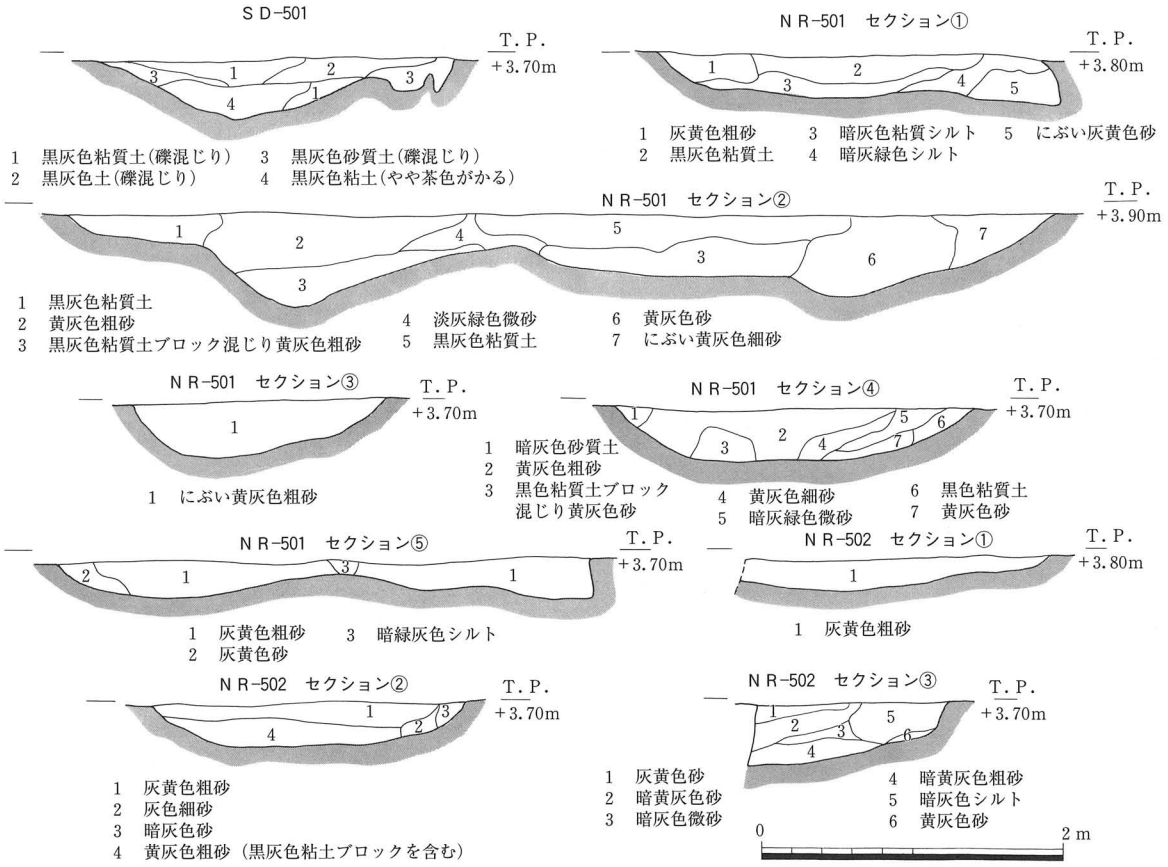
２．自然流路（ＮＲ）

・ＮＲ-501

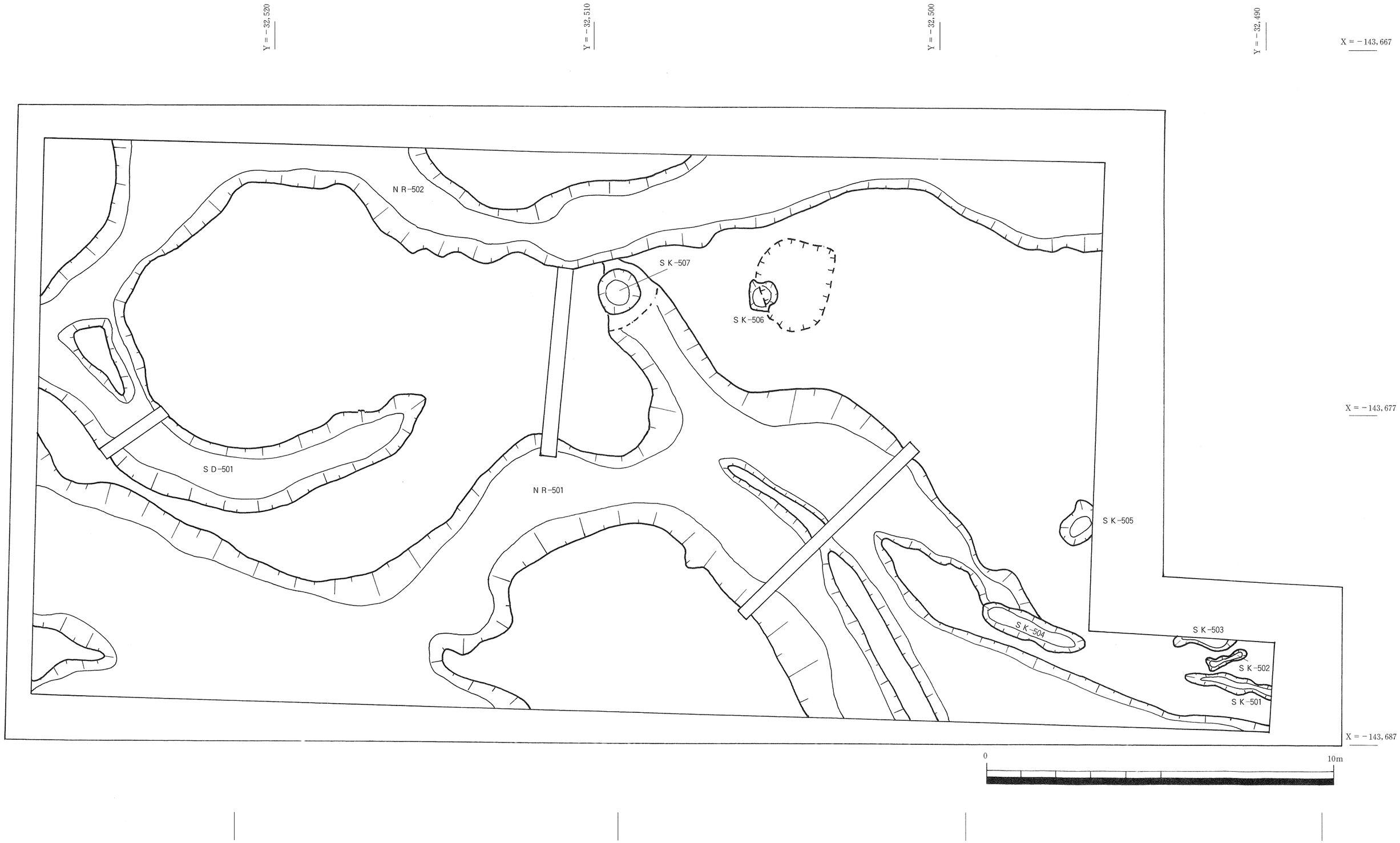
調査区北部で検出し、蛇行しながら東西に走る自然流路である。規模は幅約2.66m、深さ約0.63mを測り、埋土は概ね６層で黒灰色粘質土、黄灰色粗砂、黒灰色粘質土ブロック混黄灰色粗砂、淡灰緑色微砂、黄灰色砂、にぶい黄灰色細砂などが主体をなす。遺物は前期の弥生土器などが出土している。

・ＮＲ-502

調査区南部で検出し、蛇行しながら東西に走る自然流路である。規模は幅約2.5m、深さ約0.31mを測り、埋土は概ね４層で灰黄色粗砂、灰色細砂、暗灰色砂、黒灰色粘土ブロック混黄灰色粗砂などが主体をなす。遺物は弥生土器などが出土している。



第46図　第５遺構面各溝（ＳＤ）・自然流路（ＮＲ）断面図



第47図　第５遺構面全体図

3．土坑（ＳＫ）

・ＳＫ-501

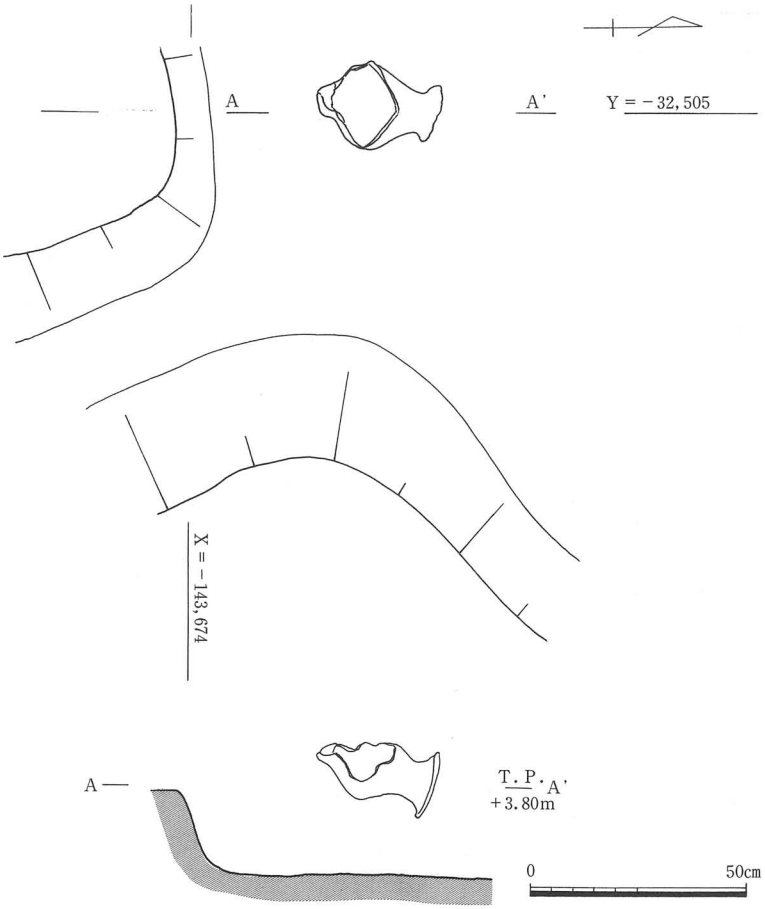
Ｈ４区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は調査区外に広がるため明らかではないが、現存では最大長約2.44m、最大幅約0.46m、深さ約0.1mを測る。埋土は１層で黒色粘質土である。遺物は出土していない。

・ＳＫ-502

Ｈ４区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、長径約1.14m、短径約0.38m、深さ約0.05mを測る。埋土は１層で礫混黒灰色土である。遺物は出土していない。

・ＳＫ-503

Ｈ４区で検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、規模は調査区外に広がるため明らかではないが、現存では最大長約1.76m、最大幅約0.38m、深さ約0.06mを測る。埋土は１層で黒灰色粘質土である。遺物は出土していない。



第48図　ＳＤ-501遺物出土状況図

・ＳＫ-504

Ｇ４区で検出した。ＮＲ-501を切る。形態は楕円形を呈し、長径約3.0m、短径約0.76m、深さ約0.08mを測る。埋土は２層で黒色粘質土、暗灰黒色粘質シルトである。遺物は出土していない。

・ＳＫ-505

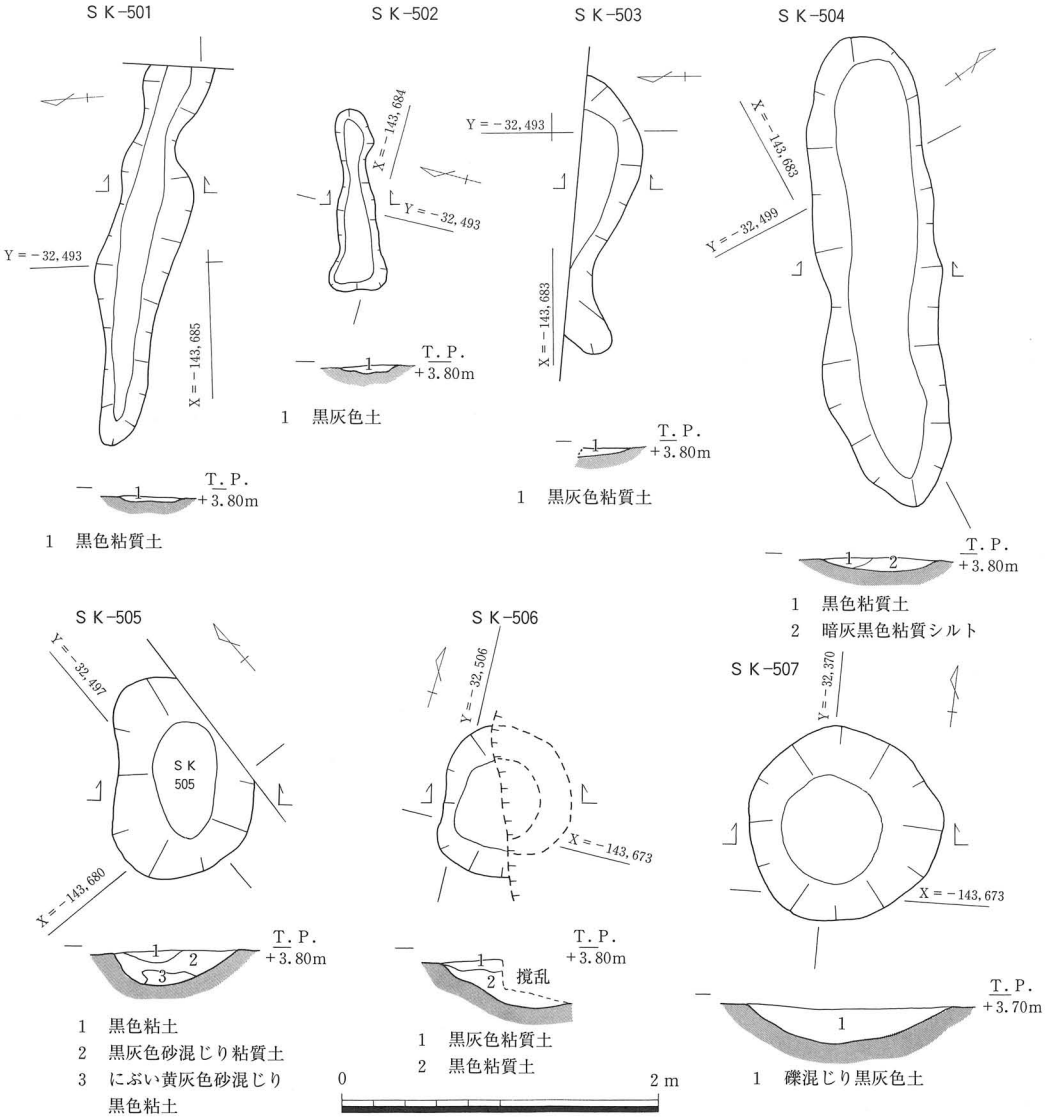
Ｇ３区で検出した。形態は楕円形を呈し、規模は調査区外に広がるため明らかではないが、現存では最大長約1.3m、最大幅約0.86m、深さ約0.22mを測る。埋土は３層で黒色粘土、黒色砂混粘質土、にぶい黄灰色砂混黒色粘土である。遺物は出土していない。

・ＳＫ-506

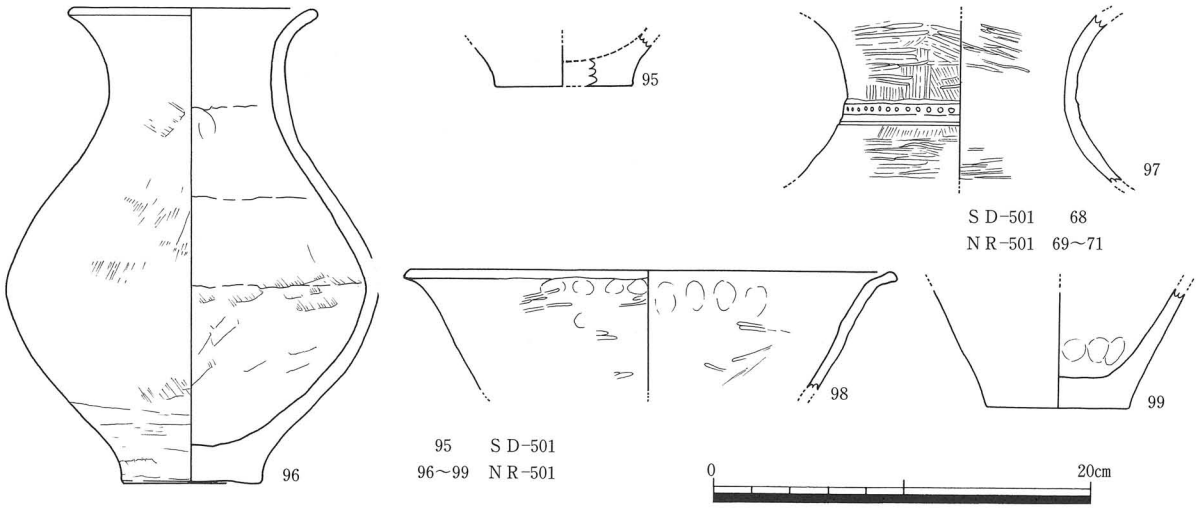
Ｅ２区で検出した。形態はやや不定形な楕円形を呈し、規模は試掘坑に切られているため明らかではないが、現存では最大長約0.96m、最大幅約0.42m、深さ約0.28mを測る。埋土は２層で黒灰色粘質土、黒色粘質土である。遺物は出土していない。

・ＳＫ-507

Ｄ２～Ｅ２区にかけて検出した。ＮＲ-501を切る。形態はほぼ円形を呈し、規模は径約1.2m、深さ約0.25mを測る。埋土は１層で礫混黒灰色土である。遺物は出土していない。



第49図　第５遺構面各土坑（ＳＫ）平・断面図



第50図　ＳＤ-501・ＮＲ-501出土遺物

第７節　第６遺構面

基本層序第Ⅶ層をベースにして、自然流路、土坑などを検出した。標高は西側に向かって傾斜するものであり、東端でＴ．Ｐ．＋3.5m前後、西端ではＴ．Ｐ．＋3.2m前後を測った。

１．自然流路（ＮＲ）

・ＮＲ-601

調査区全域にかけて検出し、やや蛇行しながらほぼ南東から北西に走る自然流路である。規模は幅約3.2m、深さ約0.69mを測り、埋土は概ね１０層程度確認でき黄灰色砂～粗砂が主体をなす。遺物は縄文土器、土製円盤などが出土している。

・ＮＲ-602

調査区南西部で検出し、ほぼ東西に走る自然流路である。規模は幅約3.75m、深さ約0.62mを測り、埋土は概ね７層程度確認でき黄灰色砂～粗砂が主体をなす。遺物は出土していない。

・ＮＲ-603

調査区北東部で検出し、東から屈曲してほぼ北西に走る自然流路である。規模は幅約2.3m、深さ約0.32mを測り、埋土は２層で灰色砂、灰黄色粗砂である。遺物は縄文土器などが出土している。

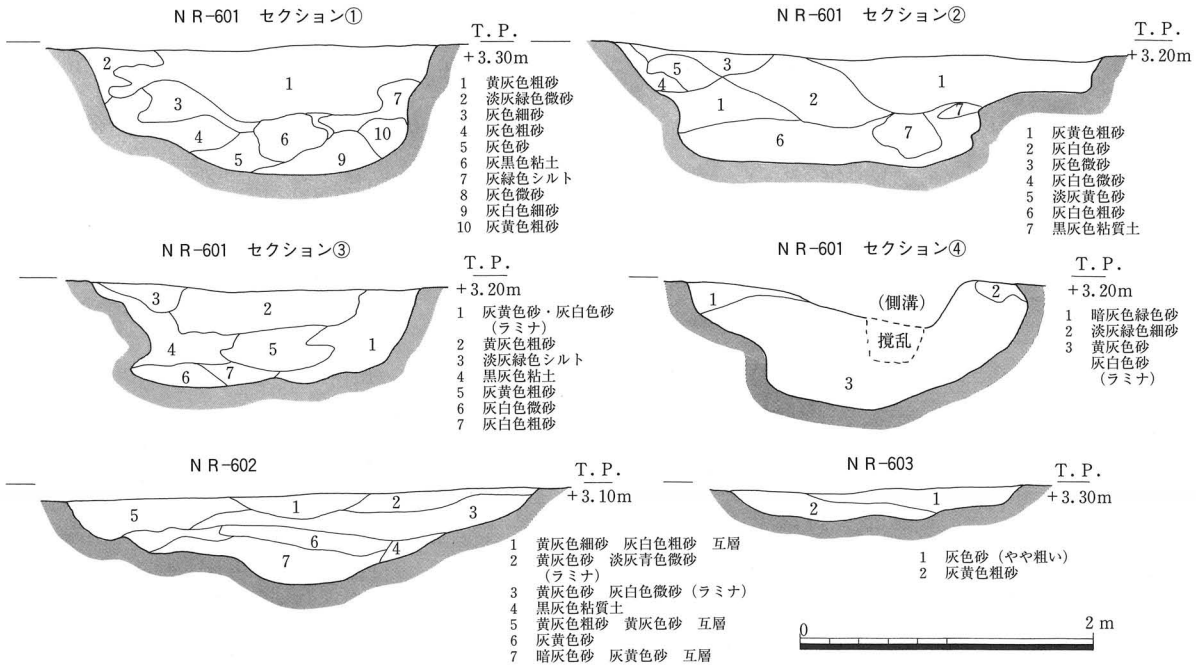
２．土坑（ＳＫ）

・ＳＫ-601

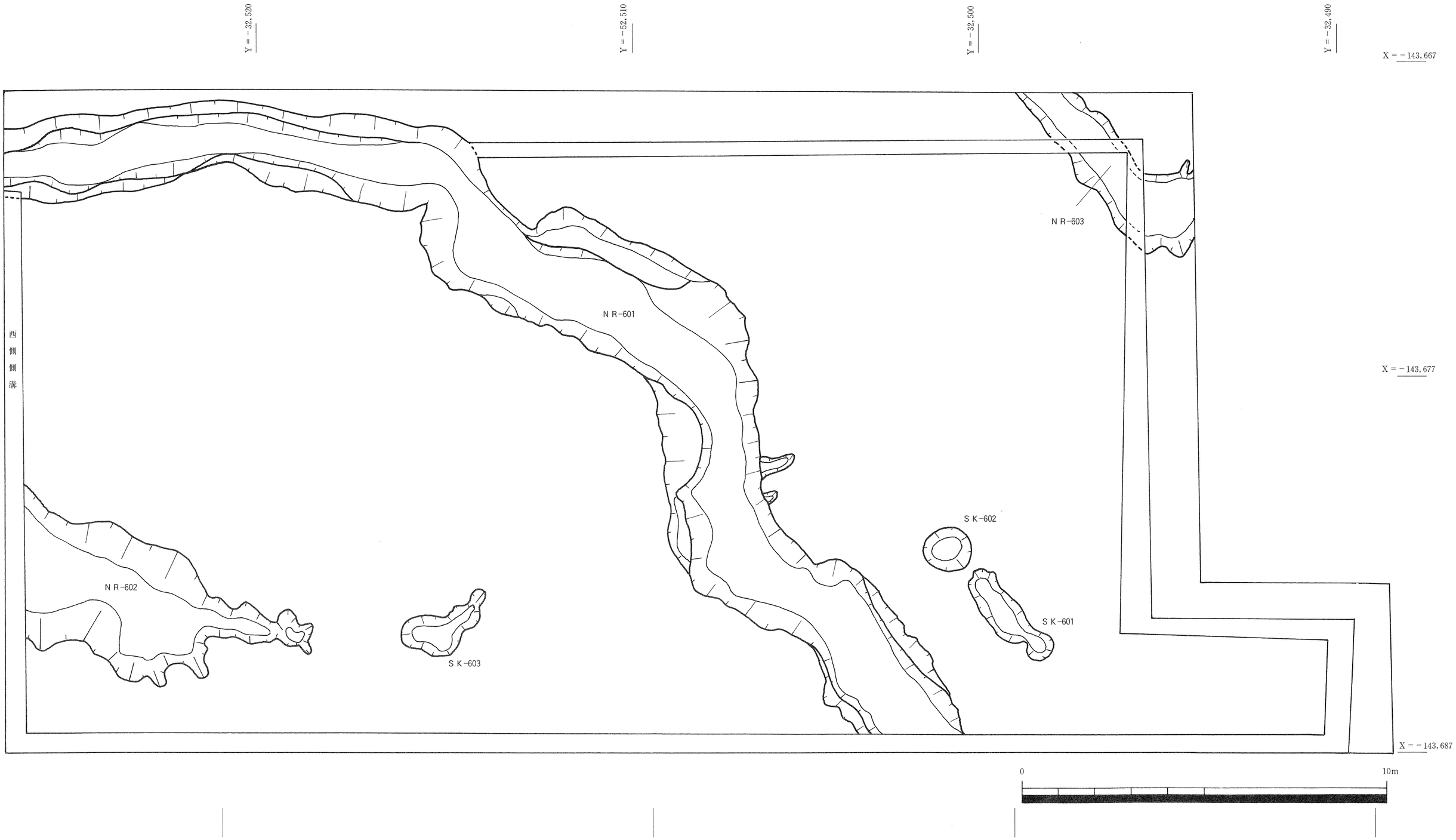
Ｆ３～４、Ｇ４区にかけて検出した。形態は不定形な楕円形を呈し、長径約3.0m、短径約0.94m、深さ約0.28mを測る。埋土は１層で黒灰色粘質土ブロック混黄灰色粗砂である。遺物は出土していない。

・ＳＫ-602

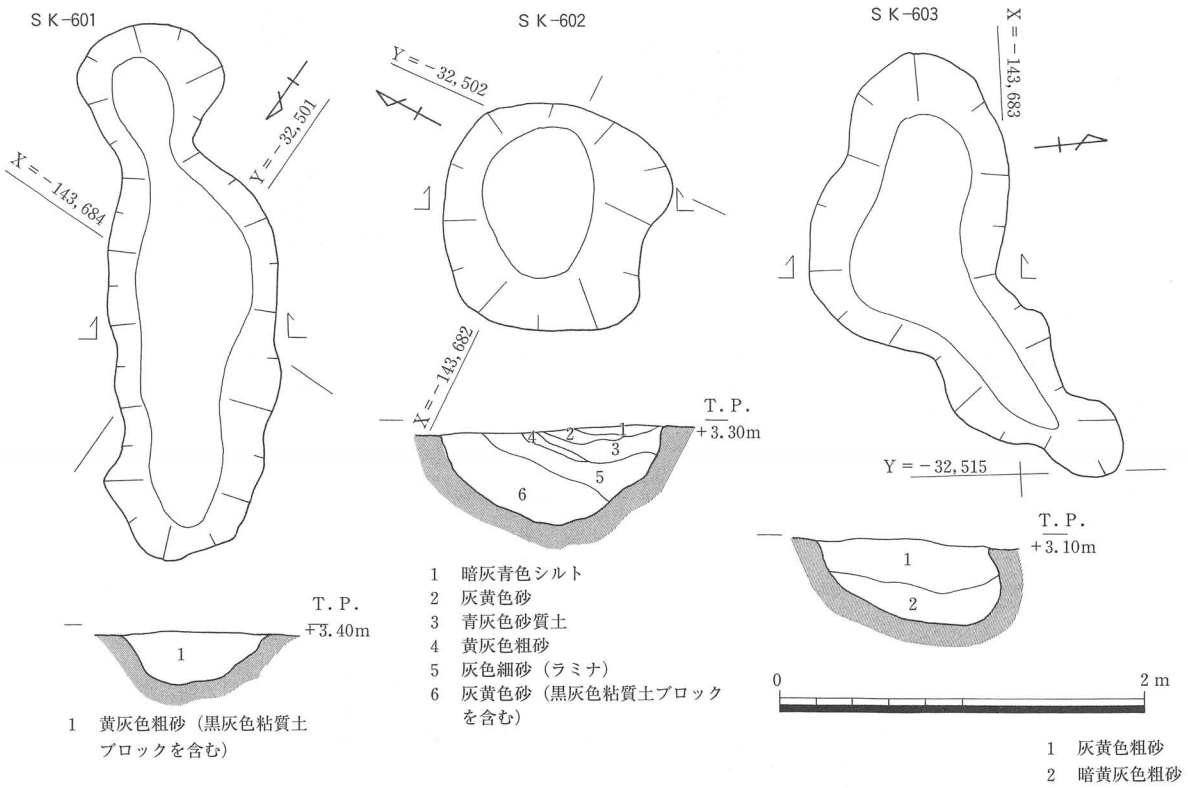
Ｆ３区で検出した。形態はほぼ円形を呈し、規模は径約1.2m、深さ約0.5mを測る。埋土は６層



第51図　第６遺構面各自然流路（ＮＲ）断面図



第52図　第６遺構面全体図

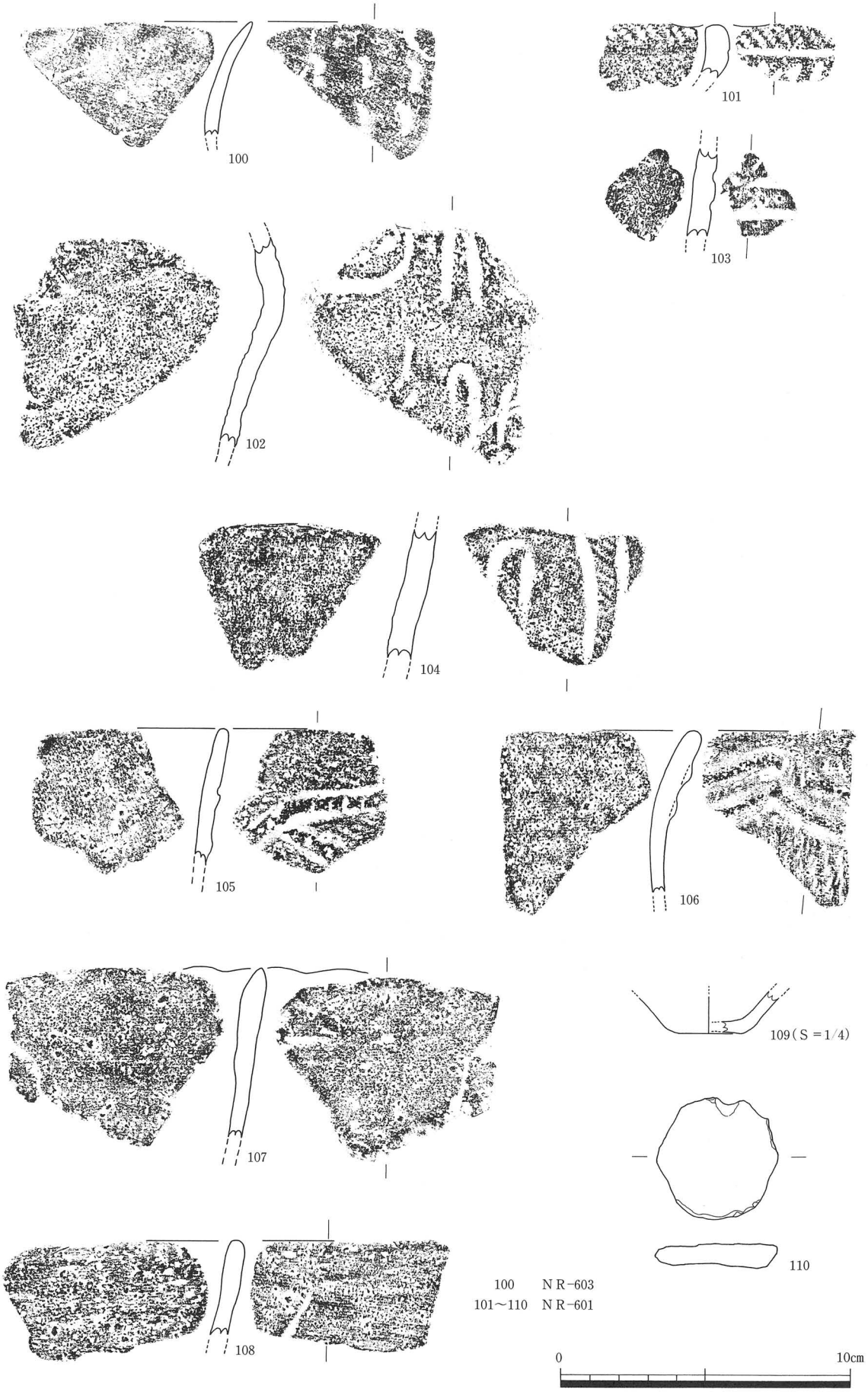


第53図　第６遺構面各土坑（ＳＫ）平・断面図

で暗灰青色シルト、灰黄色砂、青灰色砂質土、黄灰色粗砂、灰色細砂、黒灰色粘質土ブロック混灰黄色砂である。遺物は出土していない。

・ＳＫ-603

Ｃ４～Ｄ３区にかけて検出した。形態は不定形を呈し、規模は最大長約2.56m、最大幅約1.08m、深さ約0.48mを測る。埋土は２層で灰黄色粗砂、暗黄灰色粗砂である。遺物は出土していない。



第54図　NR-601・603出土遺物

第5章　まとめ

中垣内遺跡においては、本調査も含め13次にわたる調査が実施されており、遺跡の様相についてはかなり明らかにされてきている。以下、各遺構面の調査成果について概括し、まとめとしたい。

〔第1遺構面〕

全域にかけて主に鋤溝を検出している。周辺の既往の調査と同様であり、古墳時代以降、綿々と耕作地であった状況が窺える。

〔第2遺構面〕

主に溝、土坑、ピットを検出し、調査区東南端では水田を検出している。具体的な性格については明らかにはし得ない。出土遺物から概ね古墳時代中～後期に比定できるものである。周辺の既往の調査では水田の検出例が多いが、比較的にまとまった出土遺物を鑑みるに、集落の存在を窺うことができる。

〔第3遺構面〕

主に溝を検出しているが、人為的なものではなく自然流路的なものと思われる。出土遺物から概ね弥生時代中期後半から後期、古墳時代に比定されるものである。周辺の既往の調査から鑑みるに集落の縁辺部の状況を窺わせる。

〔第4遺構面〕

この面では溝などのほか、調査区東北部で方形周溝墓を検出している。

中垣内遺跡ではこれまで、壺棺の出土は確認されていたが、方形周溝墓の検出という墓域の確認は初めてである。方形周溝墓の南側で東西に走るＳＤ-403は集落域と墓域との境界を示す可能性もあると思われる。今後、中垣内遺跡の集落構造を把握するうえで、大きな成果であった。

また、出土遺物で特筆するものに人形状木製品がある。木偶として滋賀県での出土例が多いが府内でも数例の出土が確認されている。滋賀県での出土例では明らかに人を模した具体的なものが多いが、府内での出土例では抽象化されている感を受ける。

弥生人の精神世界を知るうえで貴重なものであり、今後の出土例の増加に期待したい。

〔第5遺構面〕

この面では溝を主に検出しているが、他の遺構面と同様に自然流路的様相を示している。出土遺物から弥生時代前期に比定されるものであり、やはり集落域の縁辺部であることが窺える。

〔第6遺構面〕

自然流路を検出しているが、周辺の既往の調査においても最終面では自然河川を検出することが多く、今回の調査においても同様のものであった。出土遺物についても弥生土器のほか、縄文土器も出土することが多く、時期的には弥生時代以前に比定されるものである。

大東市北部に位置する北新町遺跡の調査事例からみても、大東市域の低地部における地山面においては、おおよそこのような様相を呈するものである。

中垣内遺跡（94-1）出土遺物一覧表

挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	胎土	焼成	技法の特徴	備考
1	弥生土器 甕	第Ⅱ層	口径（復） 8.5 底径 3.5 器高（残） 8.1	外）褐灰 内）褐灰 断）	やや粗	やや不良	外面：ヘラケズリ 内面：板ナデ	外面に煤付着
2	青磁 椀	第Ⅱ層	口径（推） 12.6 器高（残） 2.8	外）オリーブ灰 内）オリーブ灰 断）灰白	密	良好	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
3	韓式系土器 甕	第Ⅱ層	器高（残） 1.8	外）浅黄橙 内）にぶい黄橙 断）にぶい黄橙	密	良好	外面：格子状タタキ 内面：ナデ	軟質
4	白磁 椀	第Ⅱ層	底径（推） 5.8 器高（残） 1.5	外）灰白 内）灰白 断）灰白	密	堅緻	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
5	土玉	第Ⅱ層	直径 3.9 厚 2.5	外）灰白 内）灰白 断）	密	良好	外面： 内面：	未製品
6	須恵器 高杯	第Ⅲ層	器高（残） 4.2	外）にぶい橙 内）にぶい橙 断）浅黄橙	密	良好	外面：回転ナデ、波状文 内面：回転ナデ	土師質
7	須恵器 甕	第Ⅲ層	口径（推） 17.0 器高（残） 4.2	外）灰白 内）明褐灰 断）にぶい褐	密	堅緻	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
8	須恵器 杯蓋	第Ⅲ層	口径（復） 13.0 器高 3.1	外）灰白 内）灰 断）	密	堅緻	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	内面に鉄分付着、外面にヘラ記号
9	弥生土器 壺	第Ⅳ層	口径 16.8 器高 8.7	外）浅黄橙 内）橙 断）橙	密	良好	外面：ナデ、ヘラ描沈線文 内面：ヘラミガキ	
10	弥生土器 壺	第Ⅳ層	口径（推） 7.0 器高（残） 6.3	外）灰白 内）淡黄 断）淡黄	密	良好	外面：ハケメ 内面：ナデ、指頭圧痕	
11	弥生土器 壺	第Ⅳ層	器高（残） 4.9	外）にぶい黄褐 内）灰 断）灰	密	良好	外面：簾状文、沈線文 内面：ナデ	
12	土師器 甕	第Ⅳ層	口径 19.5 器高（残） 9.0	外）にぶい黄橙 内）灰黄褐 断）橙	密	良好	外面：ハケメ 内面：ハケメ	外面に煤付着、口縁部内面にベンガラ付着
13	弥生土器	第Ⅳ層	底径 7.4 器高（残） 5.6	外）にぶい褐 内）にぶい黄褐 断）にぶい黄褐	密	良好	外面：板ナデ 内面：ナデ	底部穿孔
14	弥生土器 高杯	第Ⅳ層	底径（推） 12.4 器高（残） 6.1	外）灰白 内）灰白 断）灰白	密	良好	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラケズリ	
15	土製円盤	第Ⅳ層	厚 0.9 幅 3.9	外）褐灰 内）灰黄橙 断）にぶい褐	密	良好	外面： 内面：	周囲打ち欠き
16	弥生土器 鉢	第Ⅳ層	口径 13.5 底径（復） 5.4 器高 11.7	外）橙 内）にぶい橙 断）	やや粗	不良	外面：ナデ、櫛描直線文 内面：ナデ	口縁部外面から底部にかけて黒斑
17	縄文土器	第Ⅴ層	器高（残） 2.6	外）にぶい黄橙 内）にぶい黄橙 断）にぶい黄橙	密	良好	外面：ナデ、突帯文 内面：ナデ	
18	弥生土器 壺	第Ⅵ層	底径 6.1 器高 15.7	外）灰褐 内）灰褐 断）灰褐	密	良好	外面：ヘラミガキ、ヘラ描沈線文 内面：ハケメ	体部外面に黒斑
19	弥生土器 壺	第Ⅵ層	口径（推） 17.0 器高（残） 11.0	外）灰褐 内）にぶい黄橙 断）にぶい黄橙	密	良好	外面：ヘラミガキ、ヘラ描沈線文 内面：ヘラミガキ、指頭圧痕	
20	弥生土器 壺	第Ⅵ層	口径 9.6 器高 12.3	外）にぶい黄褐 内）にぶい黄褐 断）	密	良好	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ	底部～体部にかけて黒斑、全体に粗雑なつくり
21	弥生土器 壺	第Ⅵ層	器高（残） 4.5	外）にぶい黄褐 内）にぶい黄褐 断）にぶい黄褐	密	良好	外面：ナデ、沈線文 内面：ナデ	
22	弥生土器 甕	第Ⅵ層	口径 9.5 器高 13.0	外）灰白 内）灰白 断）灰白	密	良好	外面：ハケメ 内面：ハケメ	
23	弥生土器 高杯	第Ⅵ層	口径 9.3 器高 6.2	外）にぶい黄褐 内）にぶい黄褐 断）にぶい黄褐	密	良好	外面：ナデ 内面：ナデ	外面側面と底部にかけて黒斑
24	縄文土器	第Ⅵ層	器高（残） 2.6	外）にぶい黄褐 内）にぶい黄褐 断）褐	祖	良好	外面：ナデ、沈線文 内面：ナデ	
25	弥生土器	西側側溝	底径（推） 6.7 器高（残） 4.4	外）褐灰 内）にぶい黄橙 断）にぶい黄橙	密	良好	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ、指頭圧痕	
26	須恵器 杯蓋	北側側溝	口径（推） 14.0 器高（残） 3.8	外）灰白 内）灰白 断）灰	密	堅緻	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
27	石製品？	南側側溝	長 9.9 幅 6.8 厚 1.8	外） 内） 断）			外面： 内面：	
28	須恵器 壺	SD-201	器高（残） 2.9	外）橙 内）にぶい黄橙 断）にぶい黄橙	密	良好	外面：ナデ、沈線文と波状文施す 内面：ナデ	土師質
29	土師器 甕	SD-201	口径（推） 9.9 器高（残） 4.1	外）灰黄橙 内）黄灰 断）にぶい褐	密	良好	外面：ハケメ、ナデ 内面：ハケメ、ナデ	
30	土師器 甕	SD-201	口径（推） 12.8 器高（残） 5.3	外） 内） 断）	密	良好	外面：ナデ 内面：ヘラケズリ、指頭圧痕	
31	土師器 高杯	SD-201	口径（復） 22.7 器高（残） 6.2	外）淡黄 内）淡黄 断）橙	密	良好	外面：ナデ、指頭圧痕 内面：ナデ、指頭圧痕	体部外面に黒斑
32	須恵器 杯蓋	SD-201	口径（推） 12.5 器高（残） 4.5	外）灰白 内）灰白 断）灰白	密	堅緻	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
33	須恵器 杯身	SD-201	口径（推） 11.8 器高（残） 3.9	外）灰白 内）灰白 断）灰白	密	堅緻	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	

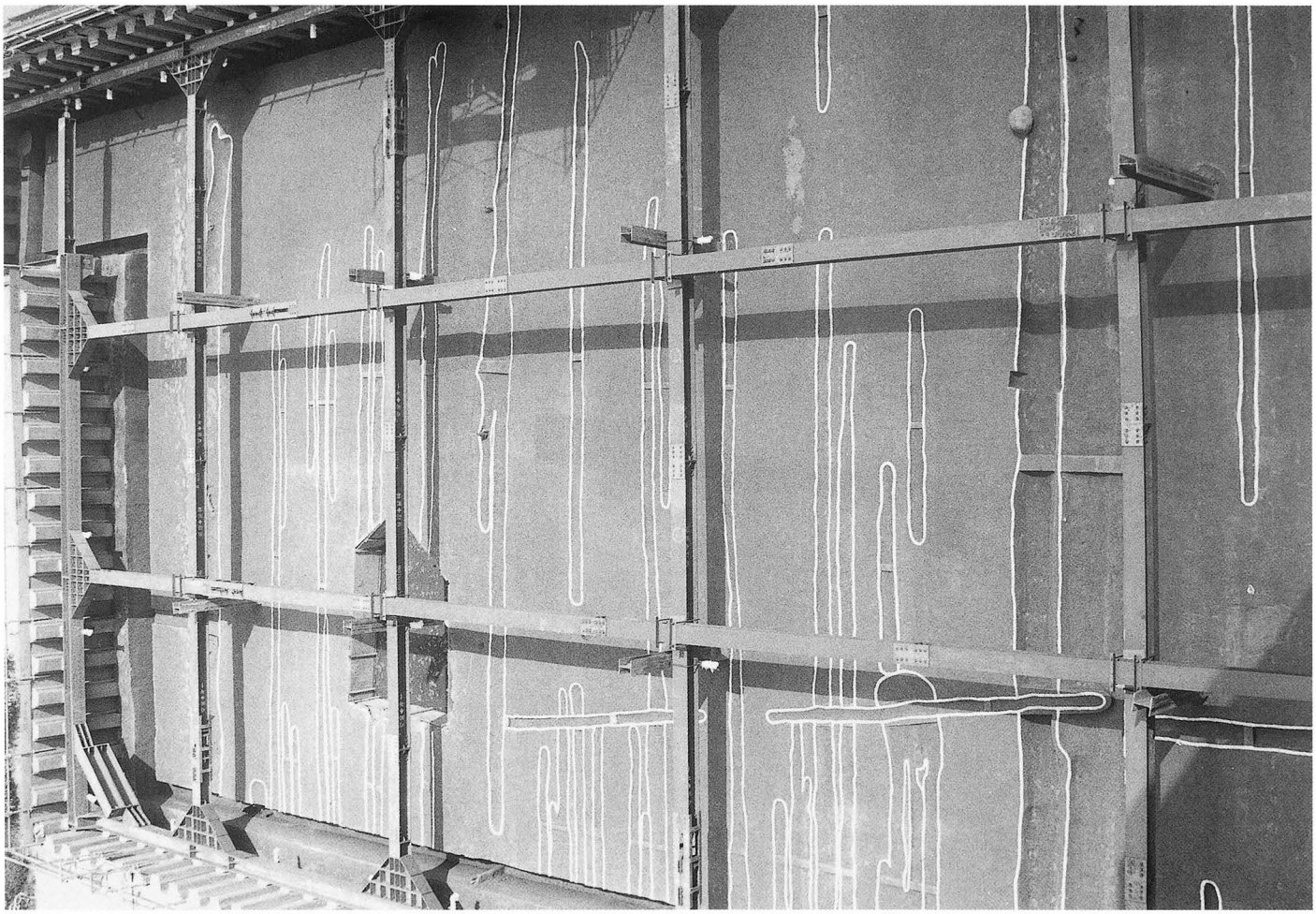
挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	胎土	焼成	技法の特徴	備考
34	須恵器 杯身	SD-201	口径（推） 11.7 器高（残） 3.6	外)灰白 内)浅黄橙 断)灰白	密	不良	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	土師質
35	須恵器 杯身	SD-202	口径（推） 11.0 器高（残） 3.3	外)灰 内)灰 断)灰	密	堅緻	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
36	土師器 鉢	SD-204	口径（推） 13.0 器高（残） 4.4	外)橙 内)にぶい橙 断)浅黄橙	密	良好	外面：ナデ 内面：ヘラミガキ	
37	須恵器 杯身	SD-205	受部径(推)16.2 器高(残) 2.6	外)灰白 内)灰白 断)灰白	密	堅緻	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
38	土師器 高杯	SD-206	脚部径（推） 7.6 器高（残） 4.4	外)にぶい橙 内)灰白 断)灰黄褐	密	良好	外面：ナデ 内面：ナデ	
39	須恵器 杯身	SD-206	口径 13.0 器高（復） 4.4	外)灰 内)灰 断)赤灰	密	堅緻	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	内面見込みに当て具痕
40	手焙形土器	SD-207	口径（復） 16.8 底径（復） 7.1 器高（推） 18.7	外)浅黄 内)浅黄 断)浅黄	やや粗	良好	外面：ナデ 内面：ナデ	頸部外面に少量の煤付着
41	須恵器 杯身	SD-207	器高（残） 2.25	外)橙 内)橙 断)橙	密	不良	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	土師質
42	須恵器 杯身	SD-207	口径（推） 10.4 器高（残） 4.6	外)灰白 内)灰 断)灰	密	堅緻	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
43	須恵器 壺	SD-207	口径（推） 14.2 器高（残） 3.9	外)灰白 内)灰 断)灰	密	堅緻	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
44	須恵器 甕	SD-207	口径 18.5 器高（復） 33.5	外)青灰 内)暗青灰 断)	密	堅緻	外面：カキメ、タタキ 内面：同心円状の当て具痕	口縁部内外面、体部中半にかけて自然釉
45	須恵器 杯蓋	SK-202	口径（推） 11.9 器高（残） 3.1	外)灰 内)灰 断)紫灰	密	堅緻	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	外面に灰被り
46	須恵器 杯身	SK-202	口径（推） 13.4 器高（残） 4.6	外)灰 内)灰 断)灰	密	堅緻	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	底部外面にヘラ記号
47	土師器 甕	SK-202	口径（推） 15.4 器高（残） 3.3	外)にぶい褐 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	密	良好	外面：ナデ 内面：ナデ、指頭圧痕	口縁部外面に黒斑
48	土師器 甕	SX-201	口径（推） 16.0 器高（残） 2.6	外)にぶい橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい橙	密	良好	外面：ナデ 内面：ナデ	
49	土師器 高杯	SP-213	口径（推） 12.0 器高（残） 1.7	外)淡黄 内)灰白 断)灰白	密	良好	外面：ナデ 内面：ナデ	端部に沈線
50	土師器 甕	畦畔	口径（推） 17.8 器高（残） 3.7	外)にぶい黄橙 内)灰白 断)にぶい黄橙	密	良好	外面：ナデ 内面：ナデ	
51	須恵器 壺	SD-301	器高（残） 2.16	外)橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい橙	密	良好	外面：不明 内面：ナデ	土師質、外面に沈線
52	須恵器 杯蓋	SD-301	口径（推） 15.6 器高（残） 3.1	外)灰 内)淡黄 断)灰白	密	不良	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	内面土師質で外面瓦質
53	韓式系土器	SD-304	器高（残） 4.2	外)灰 内)灰 断)赤灰	密	堅緻	外面：格子状のタタキ 内面：ナデ	
54	土師器 甕	SD-305	口径（推） 18.0 器高（残） 3.3	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	密	良好	外面：ハケメ 内面：ヘラケズリ	
55	須恵器 杯身	SD-305	口径 12.6 器高 4.2	外)灰 内)灰白 断)	密	堅緻	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	内面に鉄分付着、外面に灰被り
56	石鏃	SD-306	長 7.2 幅 1.4 厚 0.7	外) 内) 断)			外面： 内面：	サヌカイト製
57	弥生土器	SD-307	口径（推） 6.4 器高（残） 3.3	外)にぶい黄橙 内)灰黄橙 断)灰黄褐	密	良好	外面：ナデ 内面：ナデ、指頭圧痕	底部穿孔
58	弥生土器 甕	SD-309	口径（復） 25.0 器高 24.3	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	密	良好	外面：ハケメ、タタキ 内面：丁寧な板ナデ、指頭圧痕	口縁部外面、体部外面全面に煤付着
59	弥生土器 甕	SD-309	口径（推） 14.0 器高（残） 3.5	外)灰褐 内)にぶい黄橙 断)褐灰	密	良好	外面：タタキ 内面：ハケメ、ヘラケズリ	
60	弥生土器 台付鉢	SD-309	口径13.6 底径9.8 器高8.2	外) 内) 断)	密	良好	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	杯部底部に穿孔、口縁部2ヶづつ計4ヶ紐孔、脚部に径3㎝の円孔を6ヶ穿つ
61	土師器 高杯	SD-309	口径9.4 器高（残） 5.7	外)にぶい褐 内)にぶい黄橙 断)褐灰	密	良好	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ	上方から下方に向けて透孔4ヶ所
62	弥生土器 高杯	SD-309	底径（推） 13.4 器高（残） 3.7	外)にぶい褐 内)にぶい褐 断)灰白	密	良好	外面：ヘラミガキ 内面：ハケメ	透孔
63	製塩土器	SD-310	器高（残） 6.9	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)黒	密	良好	外面：タタキ 内面：ナデ	二次被熱
64	須恵器 杯身	SK-303	口径（推） 13.0 器高（残） 3.1	外)灰白 内)灰白 断)灰白	密	堅緻	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	
65	弥生土器 壺	落ち込み301	口径（復） 16.8 器高（残） 19.3	外)灰褐 内)灰褐 断)灰褐	密	良好	外面：板ナデ 内面：板ナデ、指頭圧痕	
66	弥生土器	SD-401	底径 3.6 器高（残） 8.7	外)明褐灰 内)明褐灰 断)明褐灰	密	良好	外面：板ナデ 内面：板ナデ	底部穿孔、内面に鉄分付着、底部外面に黒斑
67	弥生土器 壺	SD-403	口径14.9 器高（残） 14.0	外)灰褐 内)灰褐 断)灰褐	密	良好	外面：ナデ、ヘラ描沈線文 内面：ナデ	口縁外面、体部外面に黒斑

挿図番号	器種	出土地点	法量（cm）	色調	胎土	焼成	技法の特徴	備考
68	弥生土器	SD-403	器高（残） 4.1	外)灰黄褐 内)灰 断)にぶい黄褐	密	良好	外面：ナデ、流水文 内面：ヘラナデ	
69	弥生土器 甕	SD-403	底径（推） 17.6 器高（残） 8.0	外)にぶい黄褐 内)灰黄褐 断)にぶい黄橙	密	良好	外面：ヘラミガキ、ヘラ描沈線文 内面：ヘラミガキ	
70	弥生土器 甕	SD-403	底径（推） 13.0 器高（残） 8.3	外)灰黄褐 内)にぶい黄褐 断)にぶい黄褐	密	良好	外面：タタキ 内面：ナデ	口縁から体部内外面にかけて煤付着
71	弥生土器 高杯	SD-403	口径（復）21.0 底径（復）13.5 器高（復）18.0	外)灰白 内)淡赤橙 断)	密	良好	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ	口縁部内面に少量の煤付着
72	弥生土器	SD-403	底径（推） 5.2 器高（残） 1.6	外)にぶい褐 内)黄灰 断)灰黄褐	密	良好	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ	
73	弥生土器	SD-403	底径 7.1 器高（残） 4.6	外)灰黄 内)灰白 断)にぶい黄橙	密	良好	外面：ヘラミガキ 内面：ハケメ	外面に黒斑
74	弥生土器	SD-403	底径 7.2 器高（残） 3.6	外)にぶい黄橙 内)にぶい褐 断)にぶい褐	密	良好	外面：ハケメ 内面：ナデ	外面に黒斑
75	弥生土器	SD-403	底径（推） 6.0 器高（残） 5.2	外)浅黄 内)浅黄 断)浅黄	密	良好	外面：ヘラナデ 内面：板ナデ	
76	弥生土器	SD-403	底径（推） 7.0 器高（残） 1.7	外)灰白 内)淡黄 断)灰白	密	良好	外面：ナデ 内面：ナデ	
77	弥生土器	SD-403	底径（推） 7.3 器高（残） 3.6	外)浅黄 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	密	良好	外面：ナデ 内面：ナデ	外面に黒斑
78	弥生土器 壺	SD-404	口径 19.2 器高（残） 15.0	外)灰褐 内)灰褐 断)灰褐	密	良好	外面：簾状文 内面：ハケメ	
79	弥生土器 壺	SD-404	口径（復）22.2 器高（残） 16.0	外)灰褐 内)灰褐 断)灰褐	密	良好	外面：簾状文 内面：ナデ	
80	弥生土器 壺	SD-404	口径（復）20.8 器高（復）35.8	外)にぶい褐 内)にぶい褐 断)にぶい褐	密	良好	外面：ヘラミガキ、簾状文 内面：ナデ	体部中半～下半部にかけて煤付着
81	弥生土器 壺	SD-404	口径17.8 胴部最大径 33.4	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)褐灰	密	良好	外面：ハケメ、ヘラミガキ 内面：ハケメ	体部下半に黒斑
82	木製品 人形？	SD-404	高 61.8 幅 8.2 厚 3.6	外) 内) 断)			外面： 内面：	コウヤマキ製
83	弥生土器 壺	SD-405	底径（復）6.6 胴部径(復)18.8 器高（残） 16.8	外)灰褐 内)褐灰 断)にぶい褐	密	良好	外面：ヘラミガキ、ヘラ描沈線文 内面：板ナデ、指頭圧痕	体部外面、中半部に黒斑
84	弥生土器 壺	SD-407	口径24.7 器高（復）38.3	外)褐灰 内)灰褐 断)	密	良好	外面：ヘラミガキ、簾状文 内面：板ナデ、指頭圧痕	体部外面中～下半にかけて煤付着
85	弥生土器 甕	SD-407	口径22.5 器高35.5	外)褐灰 内)灰褐 断)褐灰	密	良好	外面：ヘラミガキ 内面：ハケメ	
86	弥生土器	SK-402	上底径 8.2 器高（残） 8.2	外)暗褐 内)褐 断)褐	密	良好	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	壺底部を壺棺の蓋に転用 外面に黒斑
87	弥生土器 壺	SK-402	口径17.8 器高（復）64.0	外) 内) 断)	密	良好	外面：ハケメ、ヘラミガキ 内面：ハケメ、ヘラミガキ	壺棺 体部中～下半部にかけて黒斑
88	弥生土器 壺	SD-403	口径（復）16.3 器高（残） 30.4	外)灰黄褐 内)灰黄褐 断)	密	良好	外面：ハケメ、ヘラ描沈線文 内面：ハケメ	
89	弥生土器 壺	SD-403	口径15.6 底径（復）6.35 器高（残） 21.0	外)灰黄褐 内)灰黄褐 断)	密	良好	外面：ヘラミガキ、貼付突帯 内面：ヘラミガキ	外面に黒斑
90	弥生土器 鉢	SK-403	口径（推） 25.8 器高（残） 7.5	外)灰白 内)灰白 断)灰白	密	良好	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	
91	土製円盤	SK-403	厚 1.05 幅 4.6	外)にぶい橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい橙	密	良好	外面： 内面：	周囲打ち欠き
92	弥生土器 壺	落ち込み 401	口径（推） 18.0 器高（残） 18.4	外)にぶい黄褐 内)にぶい黄褐 断)灰黄褐	密	良好	外面：ヘラミガキ、櫛描直線文 内面：ヘラミガキ	
93	弥生土器	落ち込み 401	底径 7.1 器高（残） 10.6	外)灰黄褐 内)灰黄褐 断)にぶい黄褐	密	良好	外面：ヘラミガキ 内面：ハケメ	体部底部付近に黒斑
94	弥生土器 甕	落ち込み 402	口径（推） 40.0 器高（残） 4.8	外)灰黄褐 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	密	良好	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	口縁外面に煤付着
95	弥生土器	SD-501	底径（推） 7.2 器高（残） 2.2	外)にぶい黄橙 内) 断)にぶい黄橙	密	良好	外面：ナデ 内面：不明	
96	弥生土器 壺	NR-501	頸径（推） 12.4 器高（残） 8.4	外)にぶい黄橙 内)浅黄 断)浅黄	密	良好	外面：ハケメ、ヘラミガキ ヘラ描沈線文、刺突文 内面：ヘラミガキ	
97	弥生土器 壺	NR-501	口径 12.5 底径（復）7.2 器高 25.2	外)明褐灰 内)明褐灰 断)にぶい黄橙	密	やや不良	外面：板ナデ 内面：板ナデ	体部中半部に黒斑
98	弥生土器 鉢	NR-501	口径（推） 25.0 器高（残） 6.4	外)浅黄橙 内)浅黄橙 断)灰白	密	良好	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	
99	弥生土器	NR-501	底径（推） 7.4 器高（残） 6.3	外)灰黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	密	良好	外面：ナデ 内面：ナデ、指頭圧痕	体部外面に黒斑、底部内面に煤付着
100	縄文土器	NR-603	器高（残） 4.0	外)にぶい黄褐 内)にぶい黄褐 断)にぶい黄褐	祖	良好	外面：ナデ、爪形文 内面：ナデ	
101	縄文土器	NR-601	器高（残） 1.85	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)灰	密	良好	外面：押捺縄文、沈線文、刻み目 内面：ナデ	

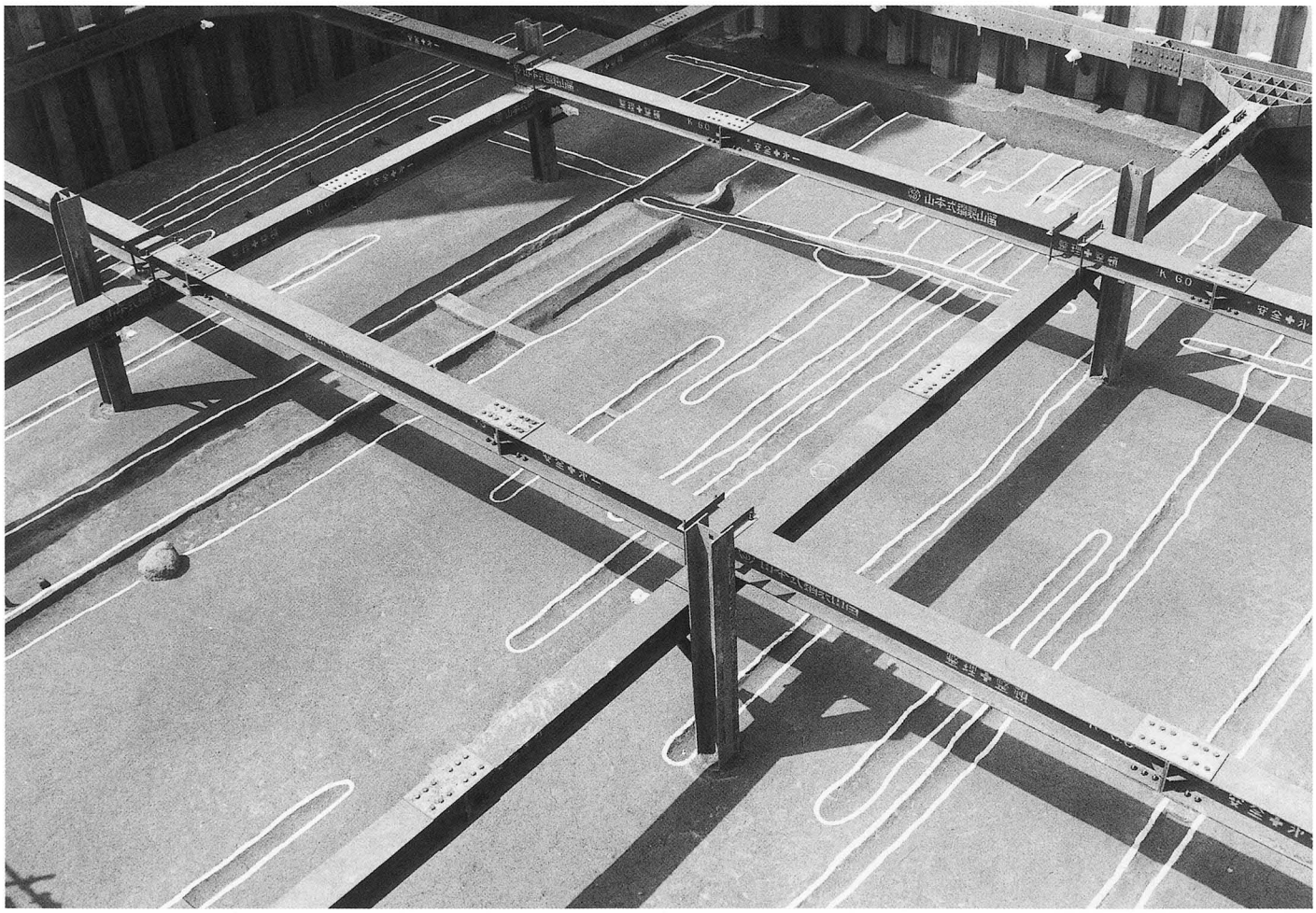
挿図番号	器　種	出土地点	法量（cm）	色　調	胎　土	焼成	技　法　の　特　徴	備　　考
102	縄文土器	NR-601	器高（残）　7.2	外)にぶい黄橙 内)黄灰 断)黄灰	祖	良好	外面：ナデ、沈線文 内面：ナデ	
103	縄文土器	NR-601	器高（残）　3.0	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)褐灰	密	良好	外面：ナデ、沈線文 内面：ナデ	
104	縄文土器	NR-601	器高（残）　4.1	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)黄灰	祖	良好	外面：ナデ、縄文、沈線文 内面：ナデ	
105	縄文土器	NR-601	器高（残）　4.7	外)にぶい黄 内)にぶい黄 断)黄灰	祖	良好	外面：沈線を伴う隆起線文(刻み目) 内面：ナデ	
106	縄文土器	NR-601	器高（残）　5.6	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)褐灰	祖	良好	外面：隆起線文 内面：ナデ	外面に隆起線文施す
107	縄文土器	NR-601	器高（残）　3.3	外)にぶい黄橙 内)にぶい黄橙 断)にぶい黄橙	祖	良好	外面：不明 内面：ナデ	波状口縁
108	縄文土器	NR-601	器高（残）　3.3	外)灰黄 内)灰黄 断)灰	祖	良好	外面：ナデ 内面：ナデ	
109	縄文土器（？）	NR-601	底径（推）　4.2 器高（残）　2.5	外)灰白 内)灰白 断)灰白	粗雑	良好	外面：不明 内面：ナデ	
110	土製円盤	NR-601	厚　8.5 幅　4.2	外)灰白 内)灰白 断)灰白	粗雑	良好	外面： 内面：	周囲打ち欠き

写　真　図　版

図版1　遺構(1)

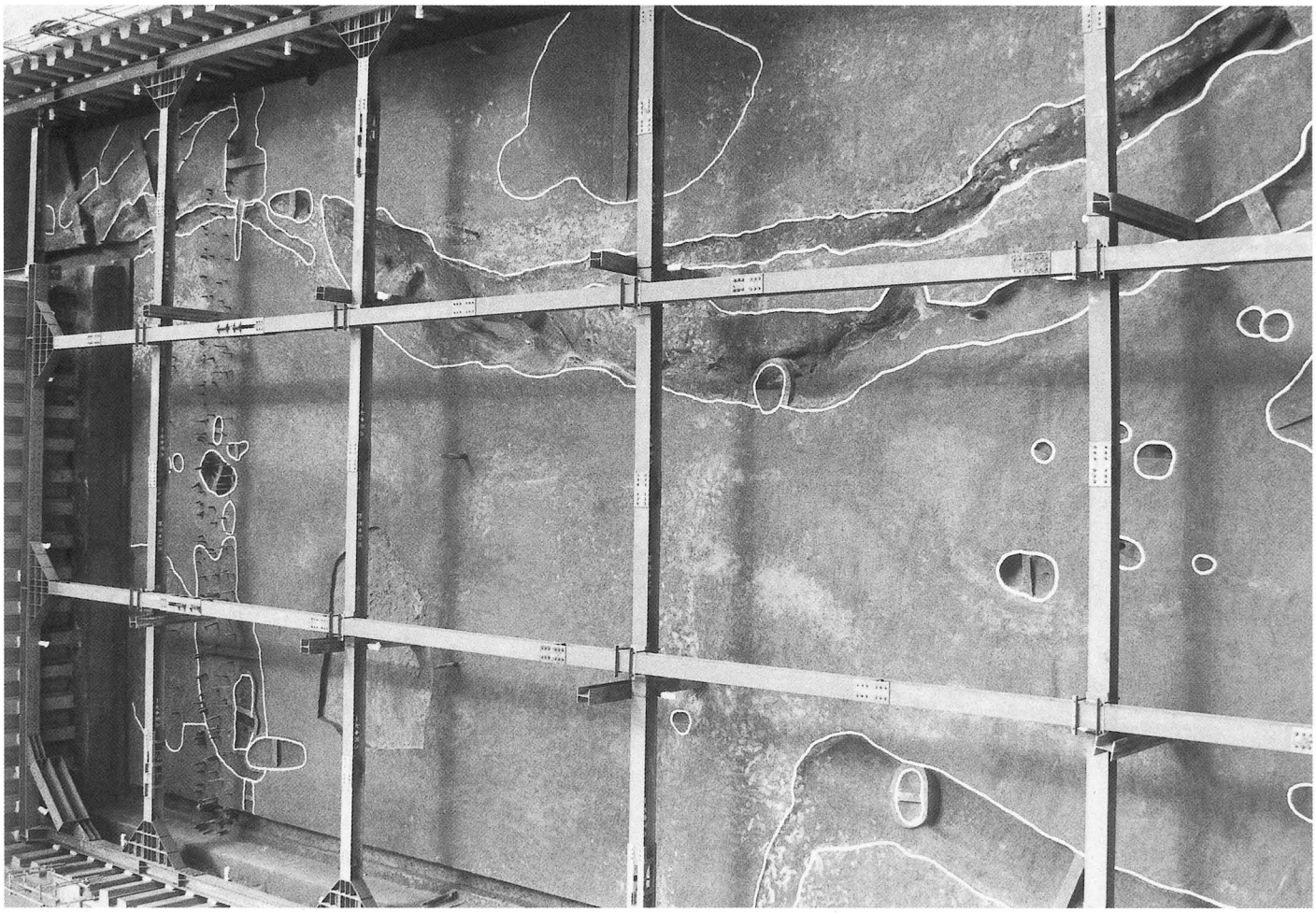


1．第1遺構面全景（西より）



2．第1遺構面西半部（南東より）

図版2　遺構(2)



1．第２遺構面全景（西より）

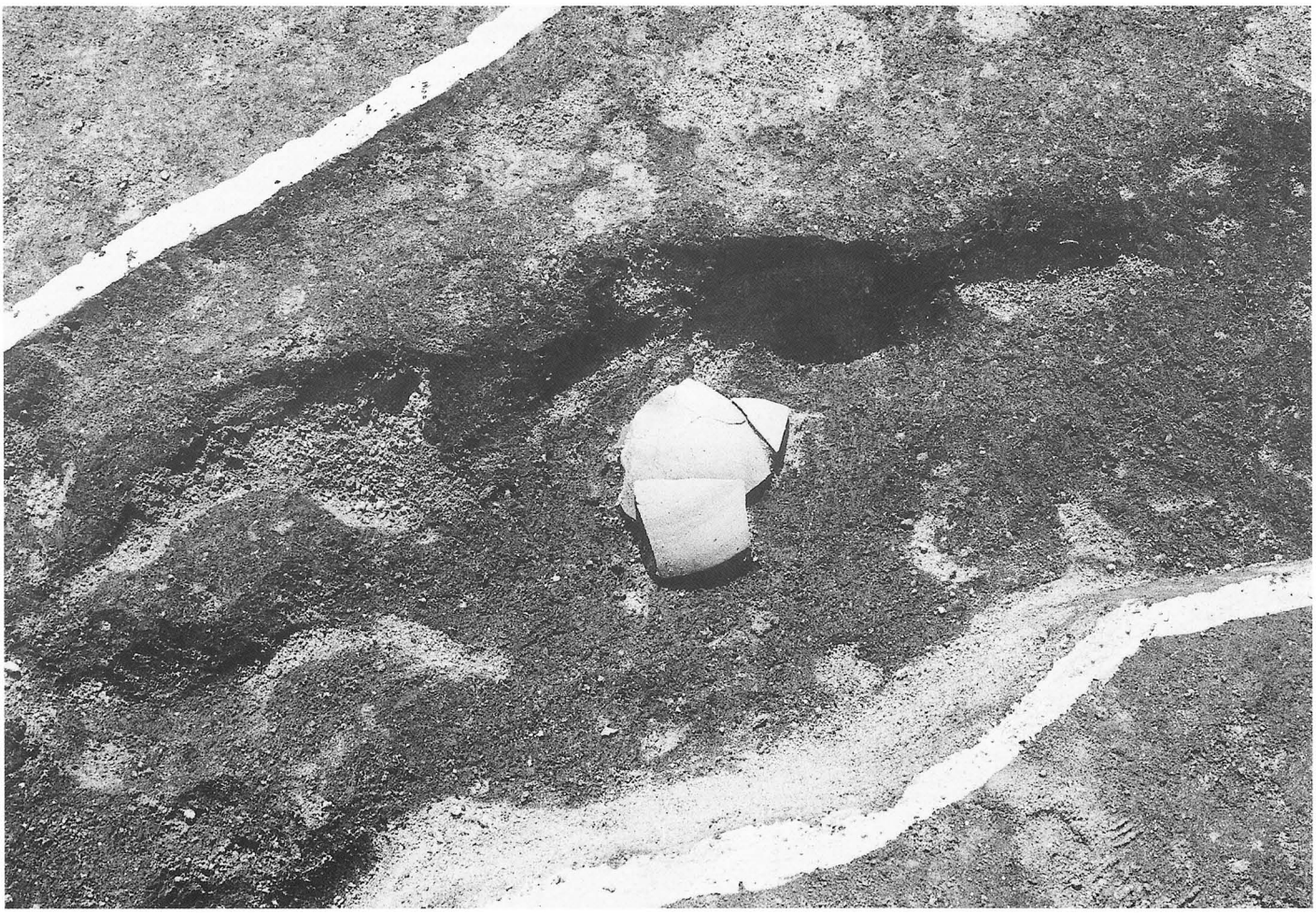
2．第２遺構面全景（東より）

図版3　遺構(3)

1．ＳＤ−201・202（西より）

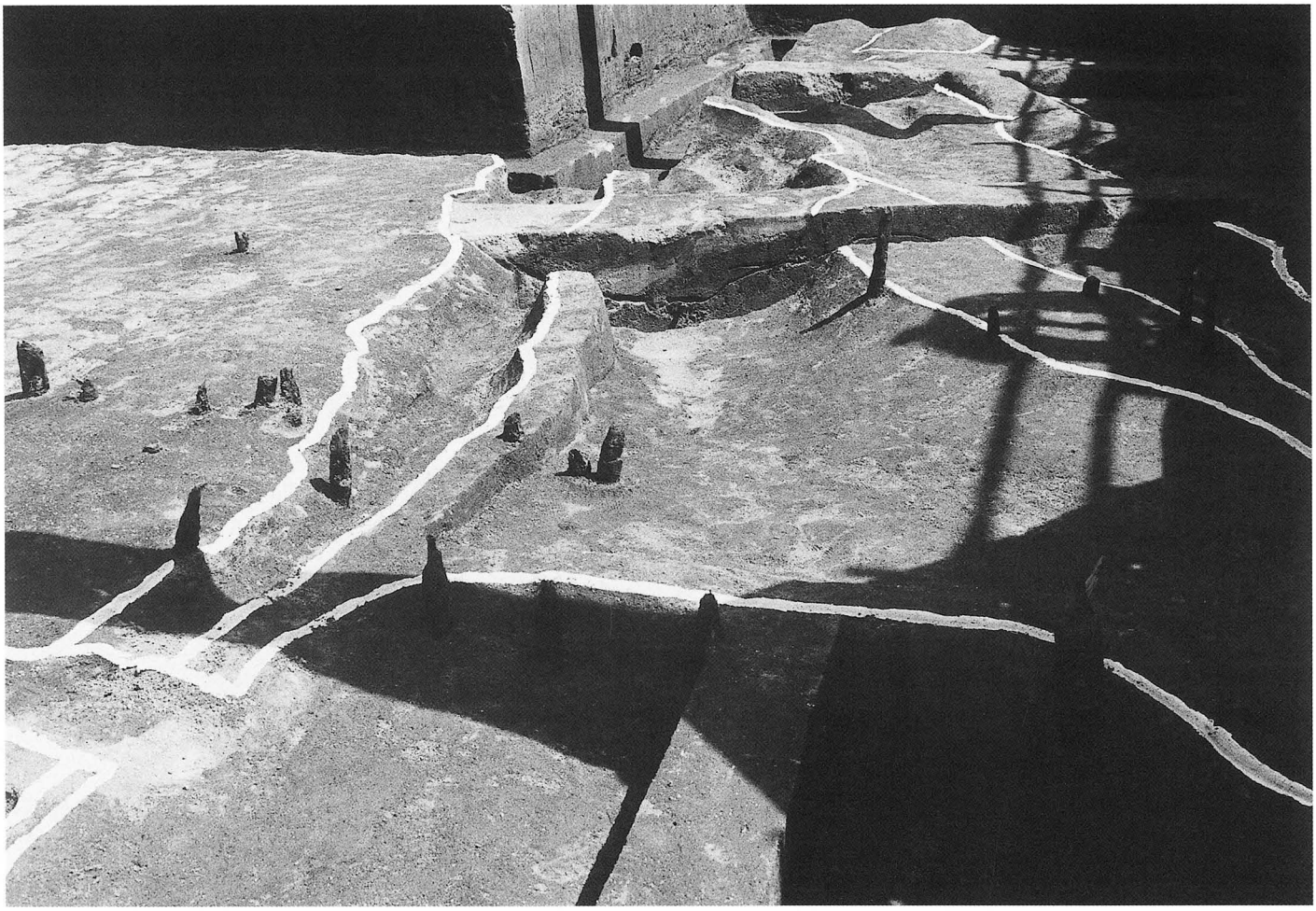
2．ＳＤ−201遺物出土状況①

図版4　遺構(4)

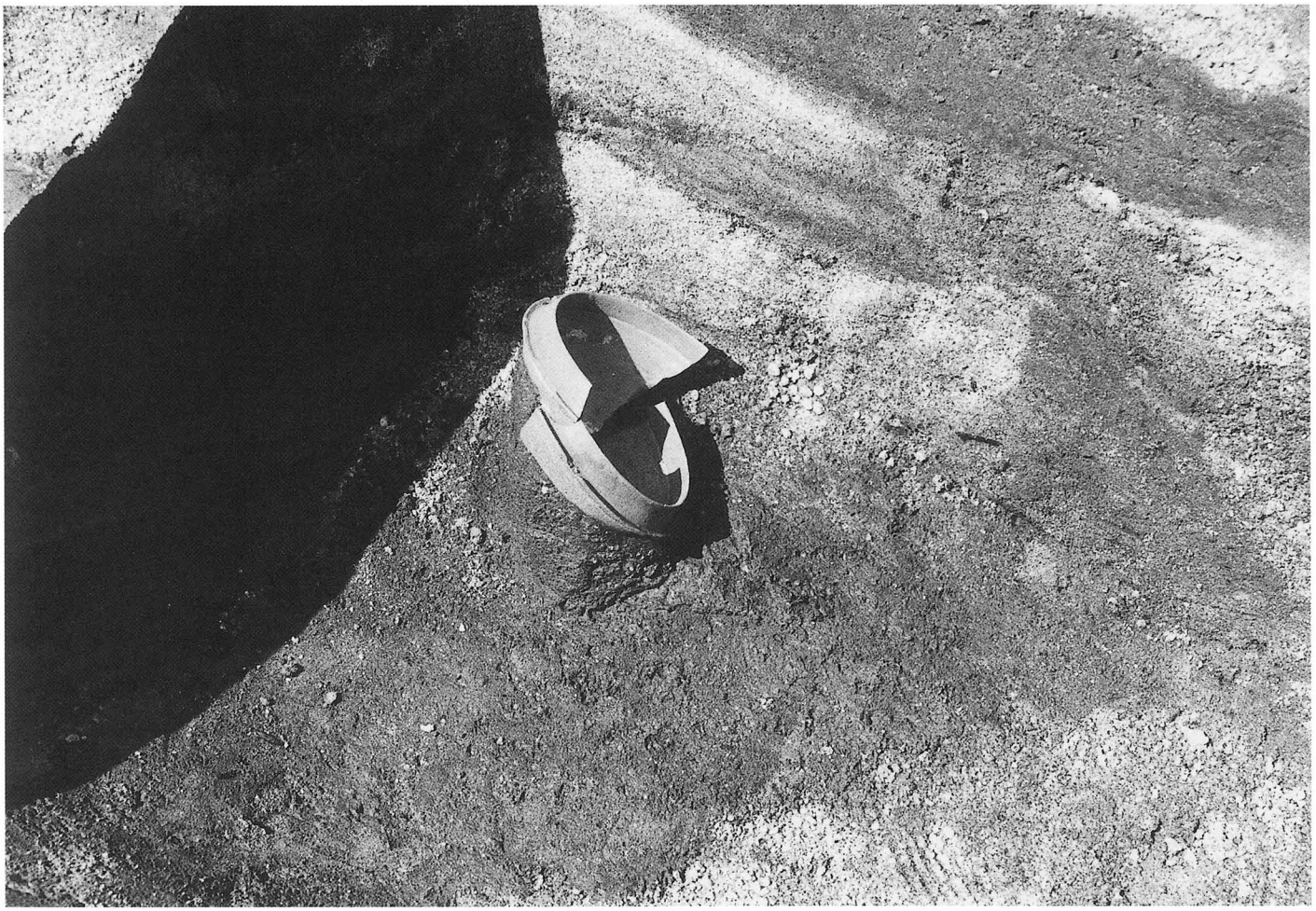


1．ＳＤ−201遺物出土状況②

2．ＳＤ−202遺物出土状況



1．ＳＤ−205・206（西より）



2．ＳＤ−206遺物出土状況

図版6　遺構(6)

1．ＳＤ−207（北西より）

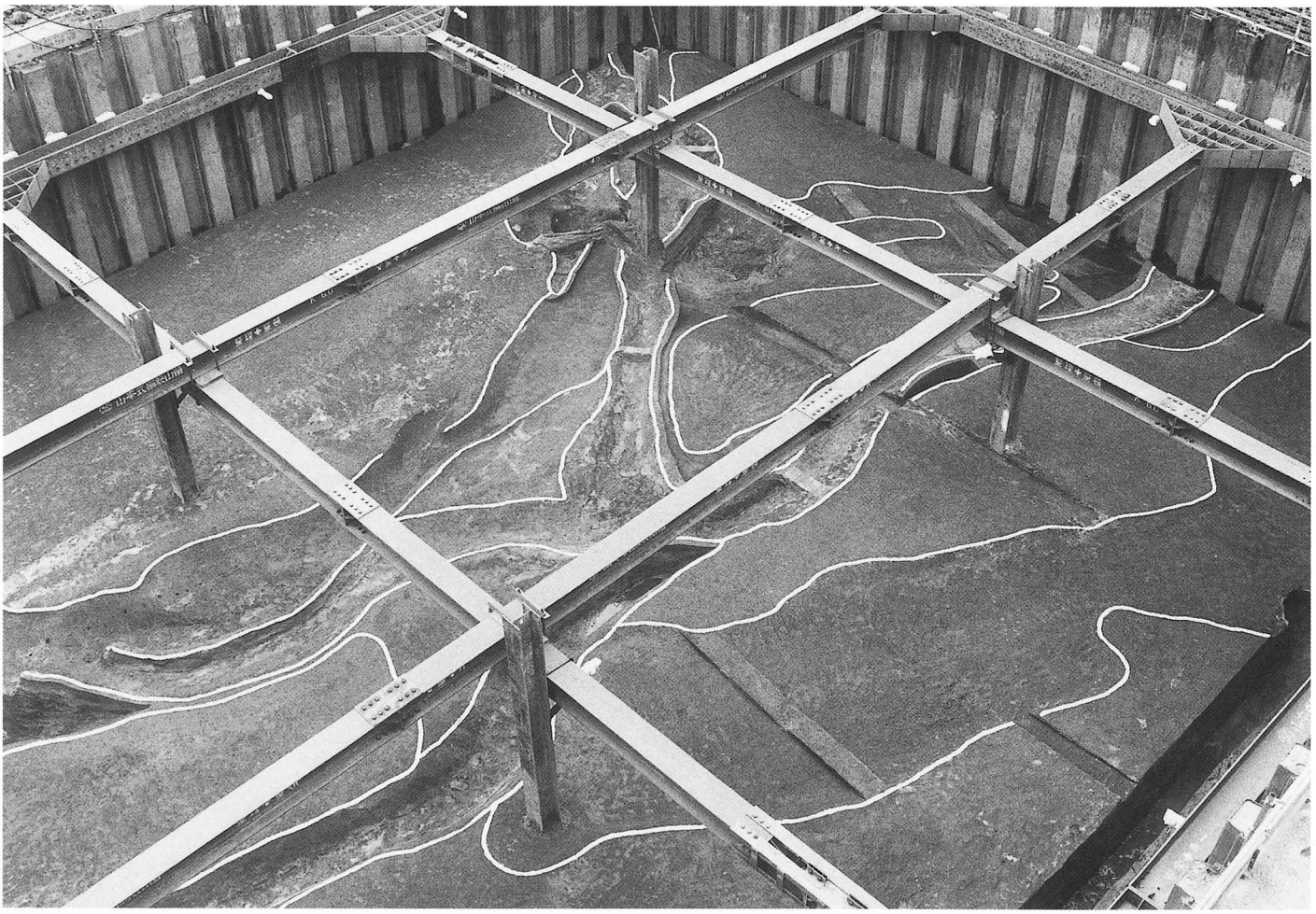
2．ＳＤ−207遺物出土状況

図版7　遺構(7)

1．第2遺構面水田

2．第2遺構面畦畔

1．第３遺構面全景（西より）



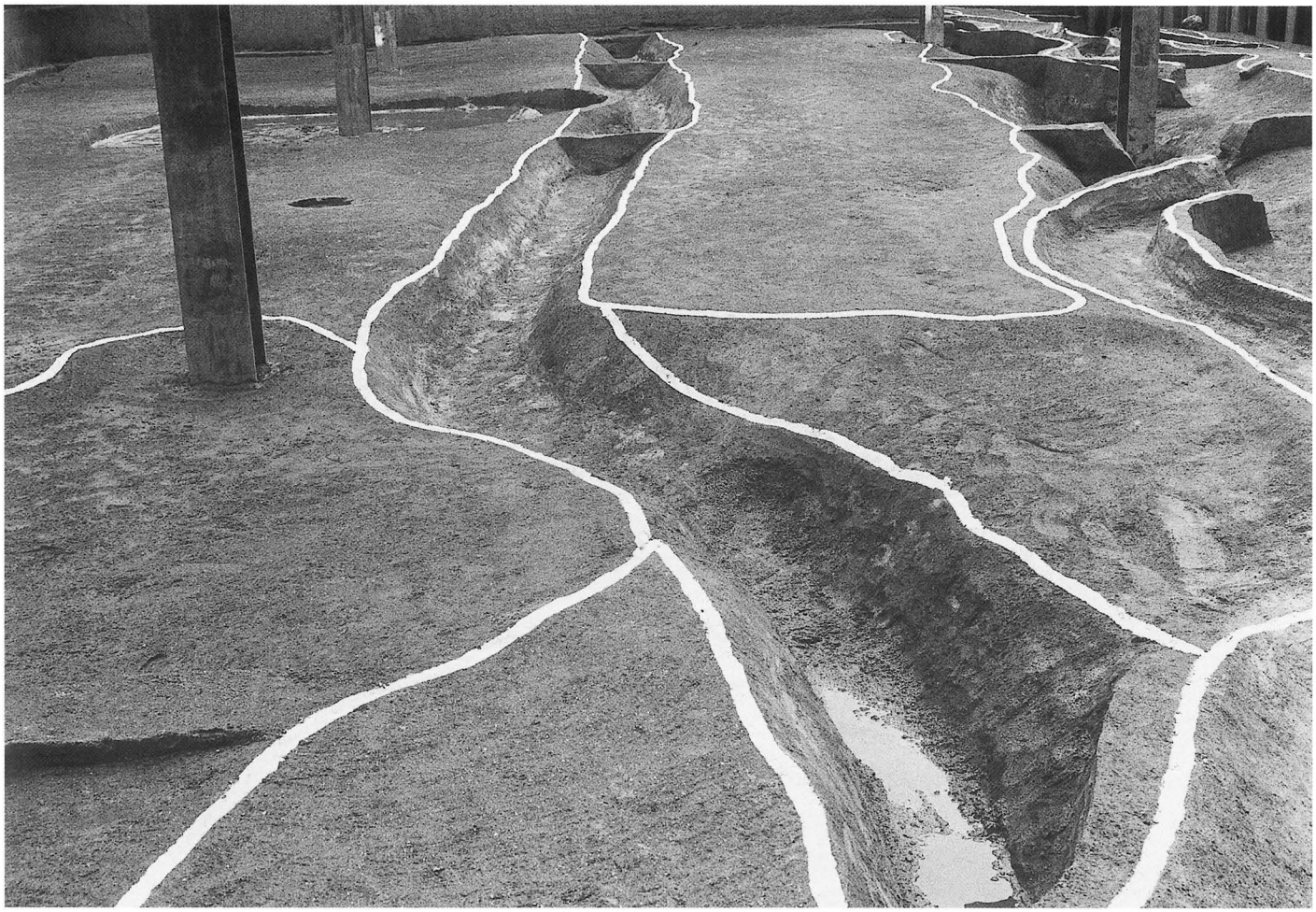
2．第３遺構面西半部（北東より）

図版9　遺構(9)

1．ＳＤ−306（南東より）

2．ＳＤ−306石鏃出土状況

図版10　遺構(10)

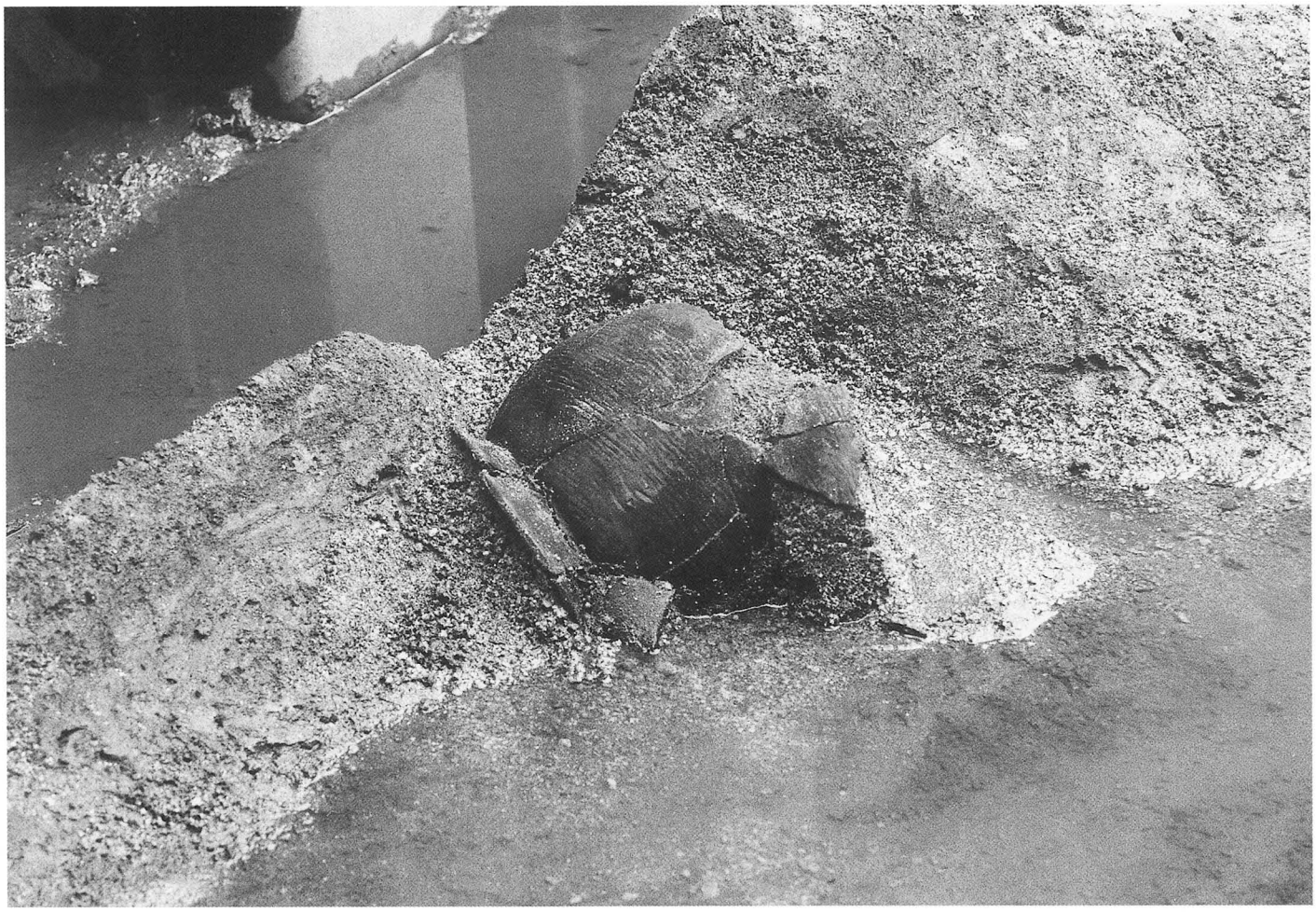


1．ＳＤ−308（西より）

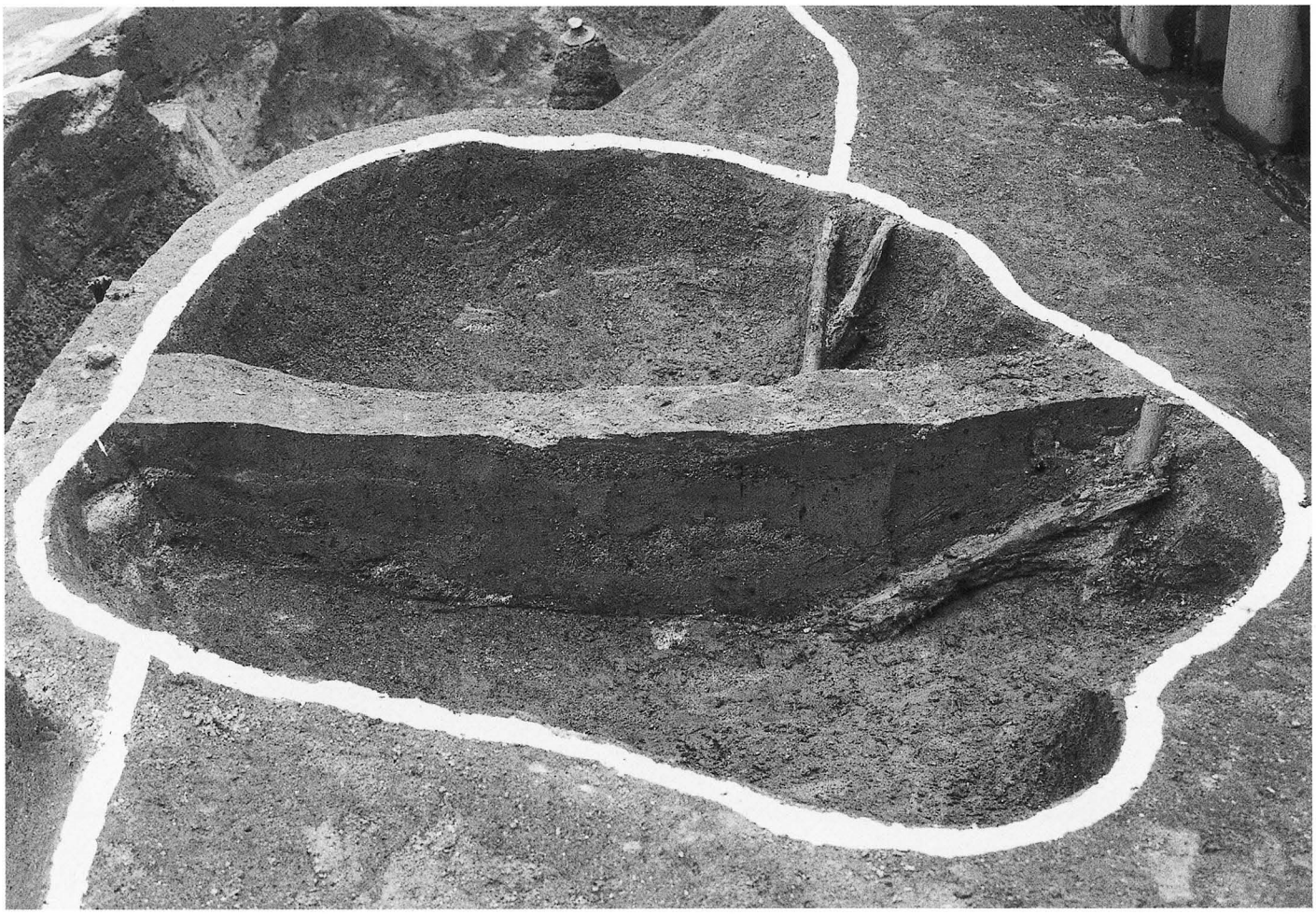
2．ＳＤ−309遺物出土状況①

1．ＳＤ−309遺物出土状況②

2．ＳＤ−309遺物出土状況③



1．ＳＤ−309遺物出土状況④

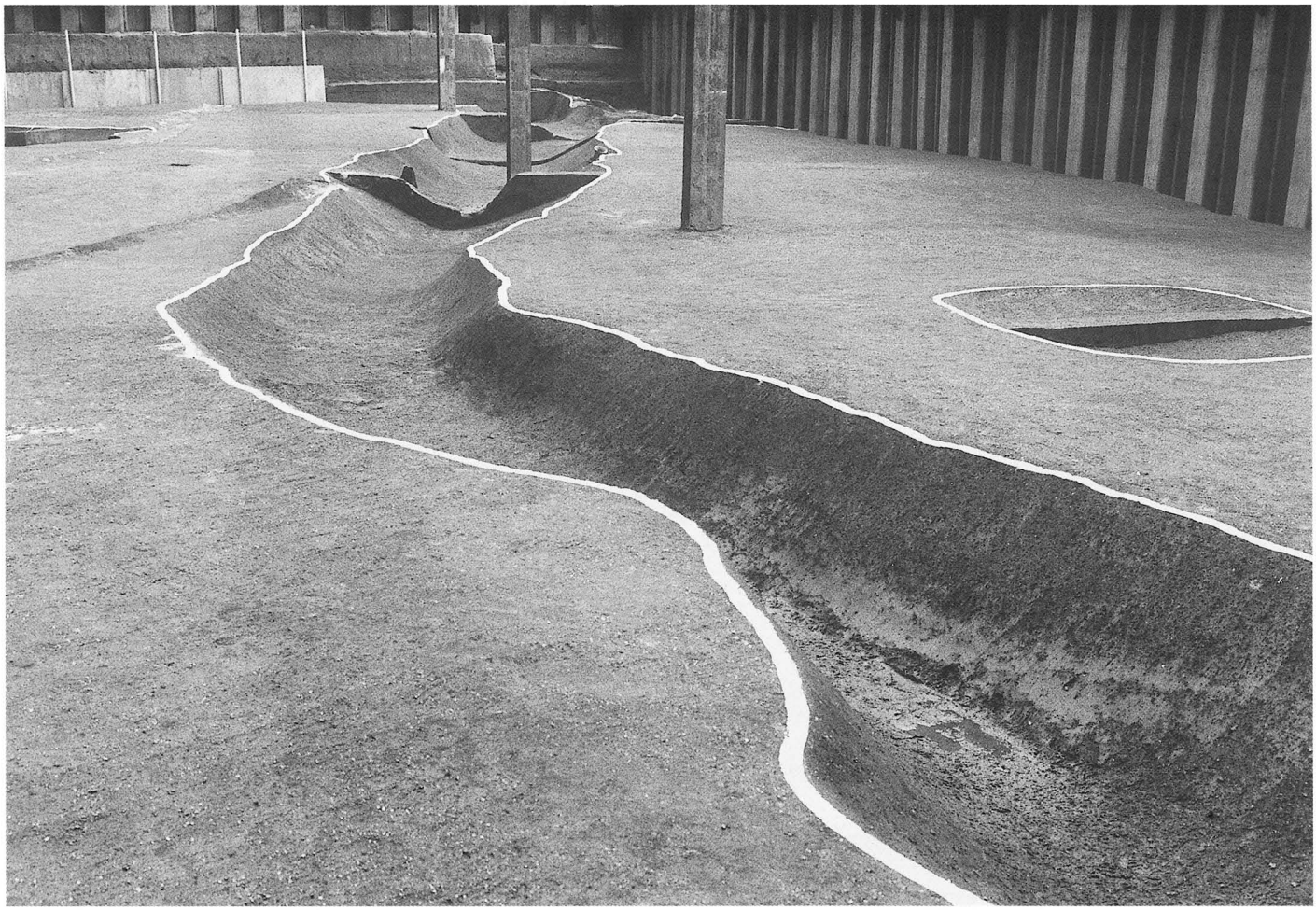


2．ＳＫ−303（西より）

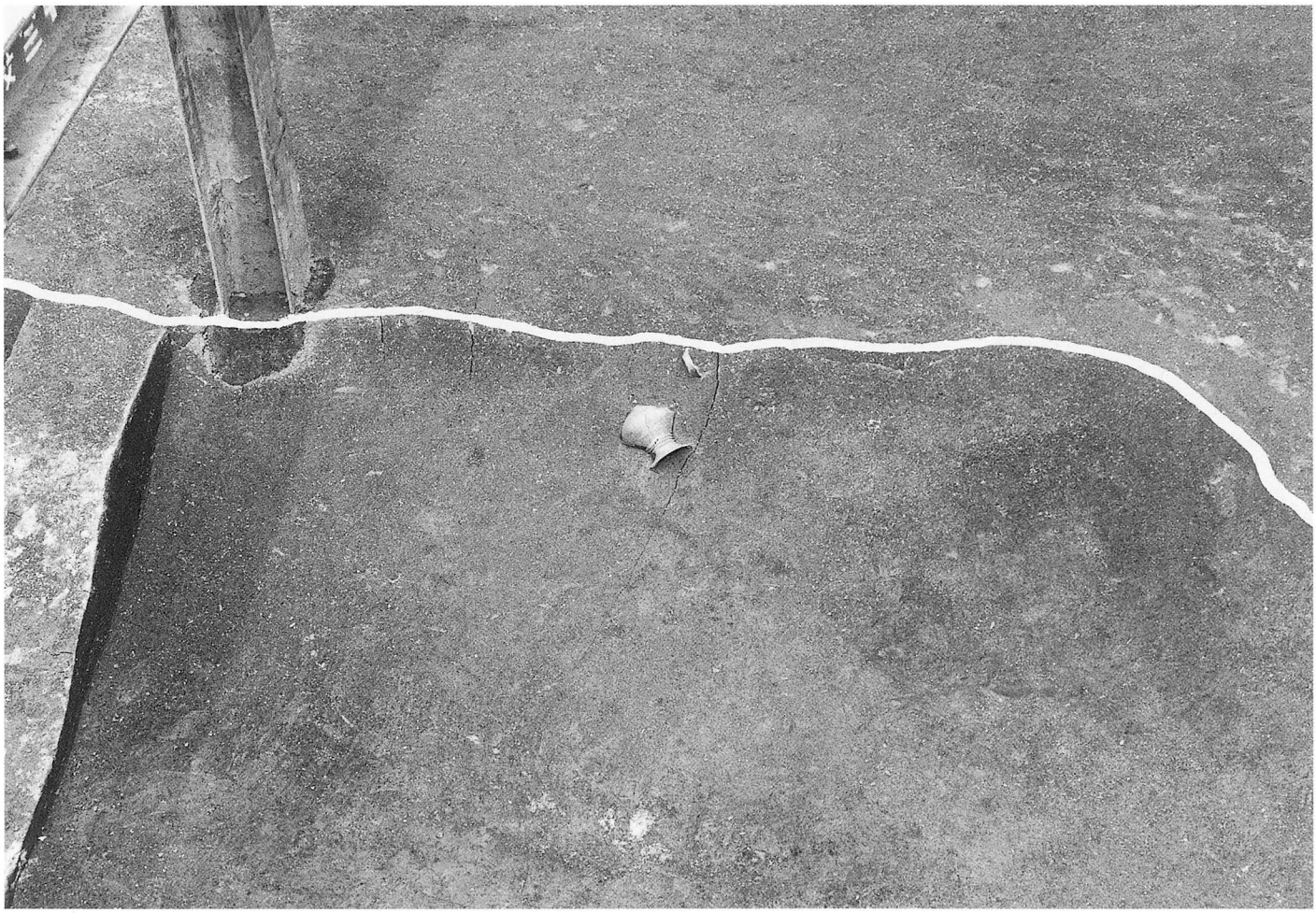
1．第４遺構面全景（西より）

2．第４遺構面東半部（北西より）

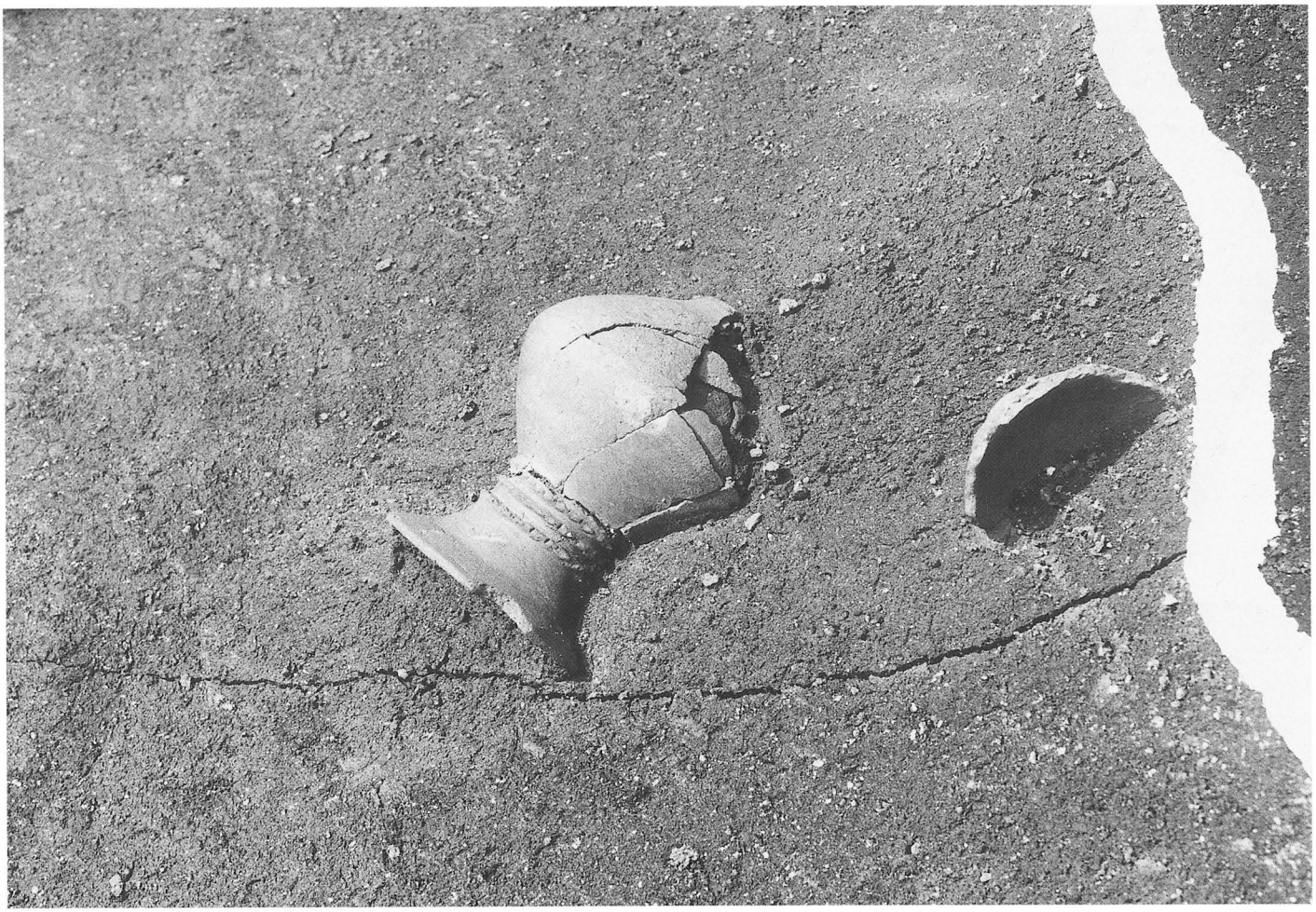
図版14　遺構(14)



1．ＳＤ−403（西より）



2．ＳＤ−403遺物出土状況



1．ＳＤ−403遺物出土状況（拡大）

2．ＳＤ−404・405（西より）

1．ＳＤ−404遺物出土状況①（北西より）

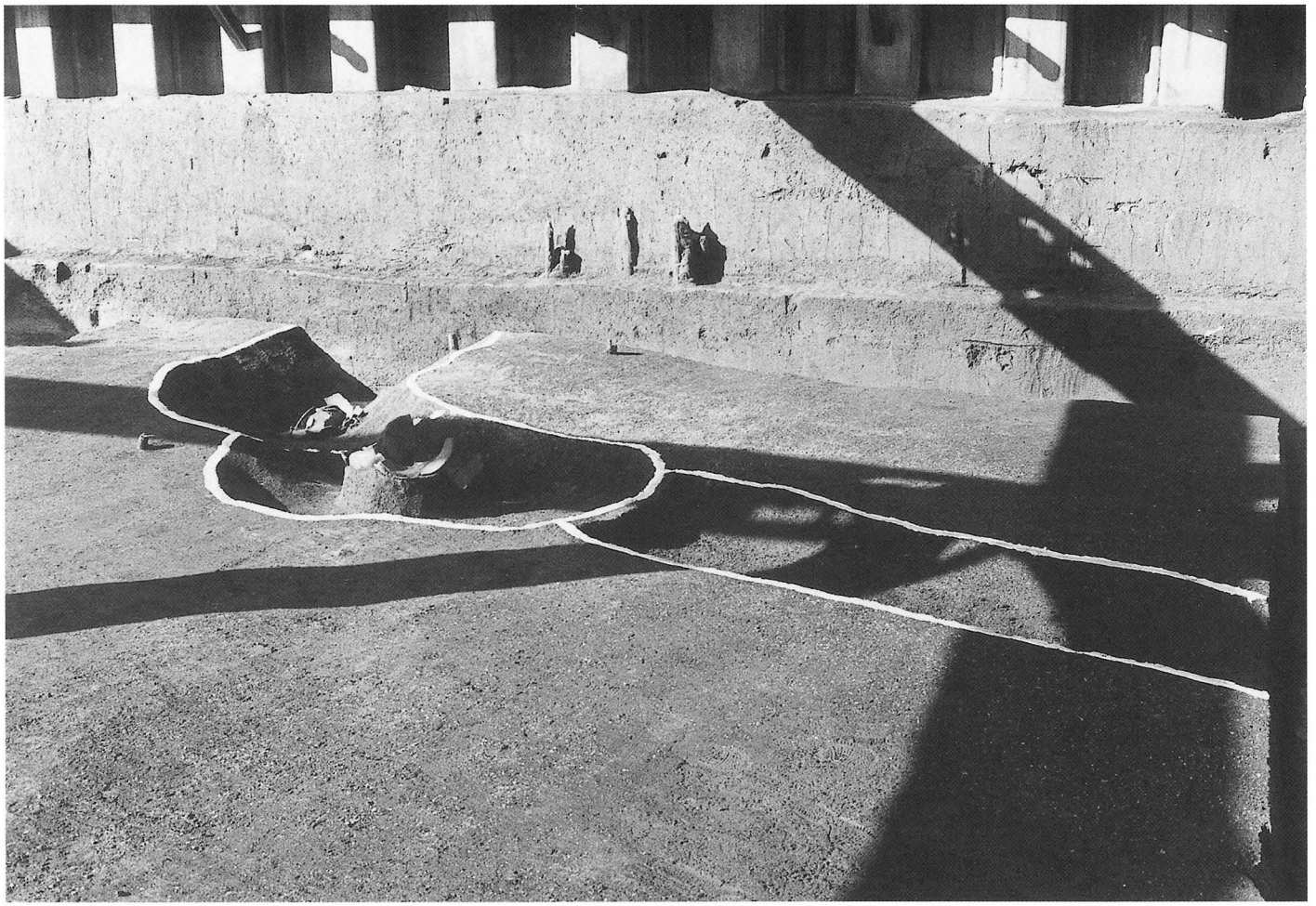
2．ＳＤ−404遺物出土状況②（北西より）

1．ＳＤ−404遺物出土状況③（南より）

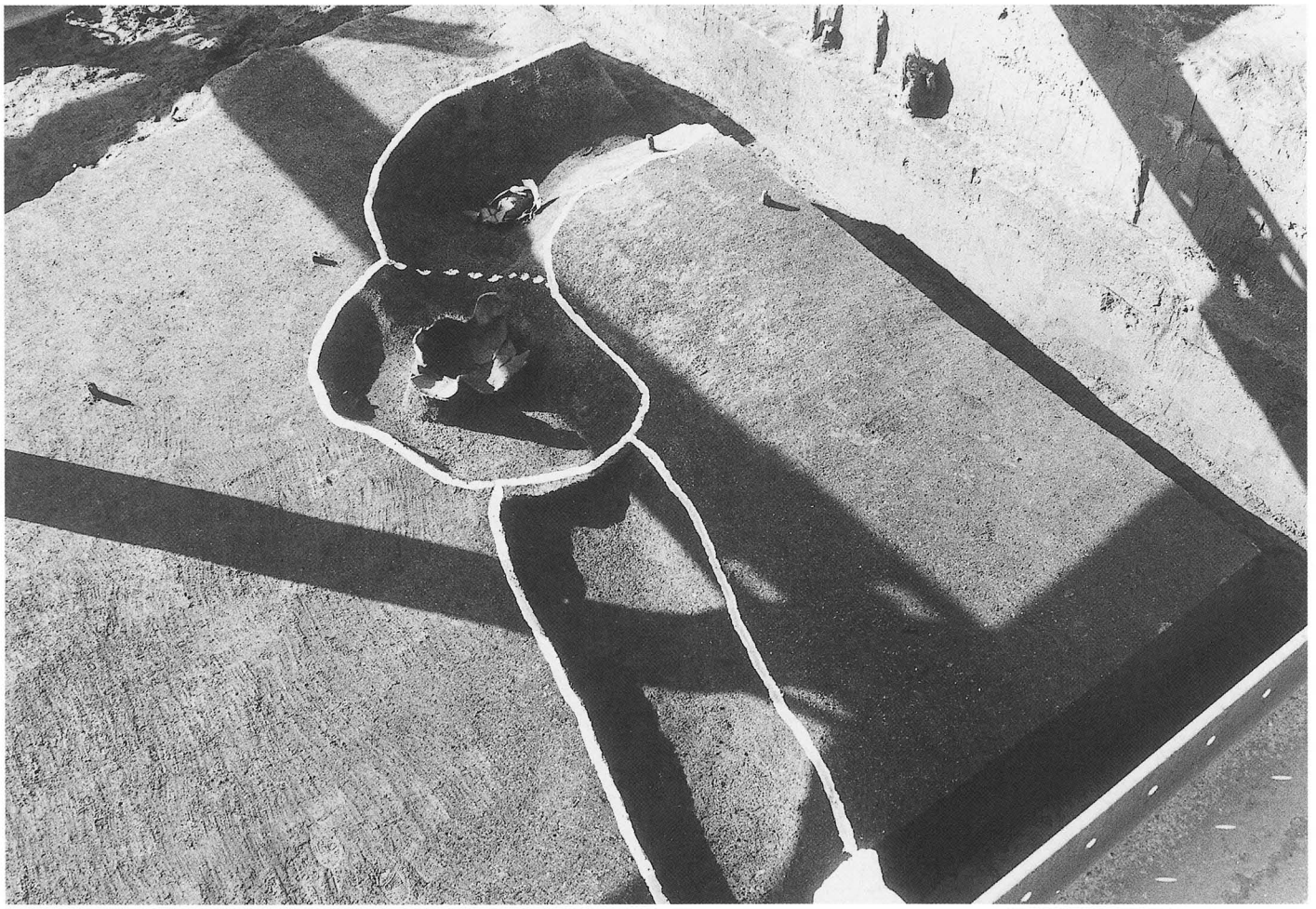
2．ＳＤ−404遺物出土状況④（北より）

1．ＳＤ−404遺物出土状況⑤（南より）

2．ＳＤ−407・ＳＫ−402（西より）



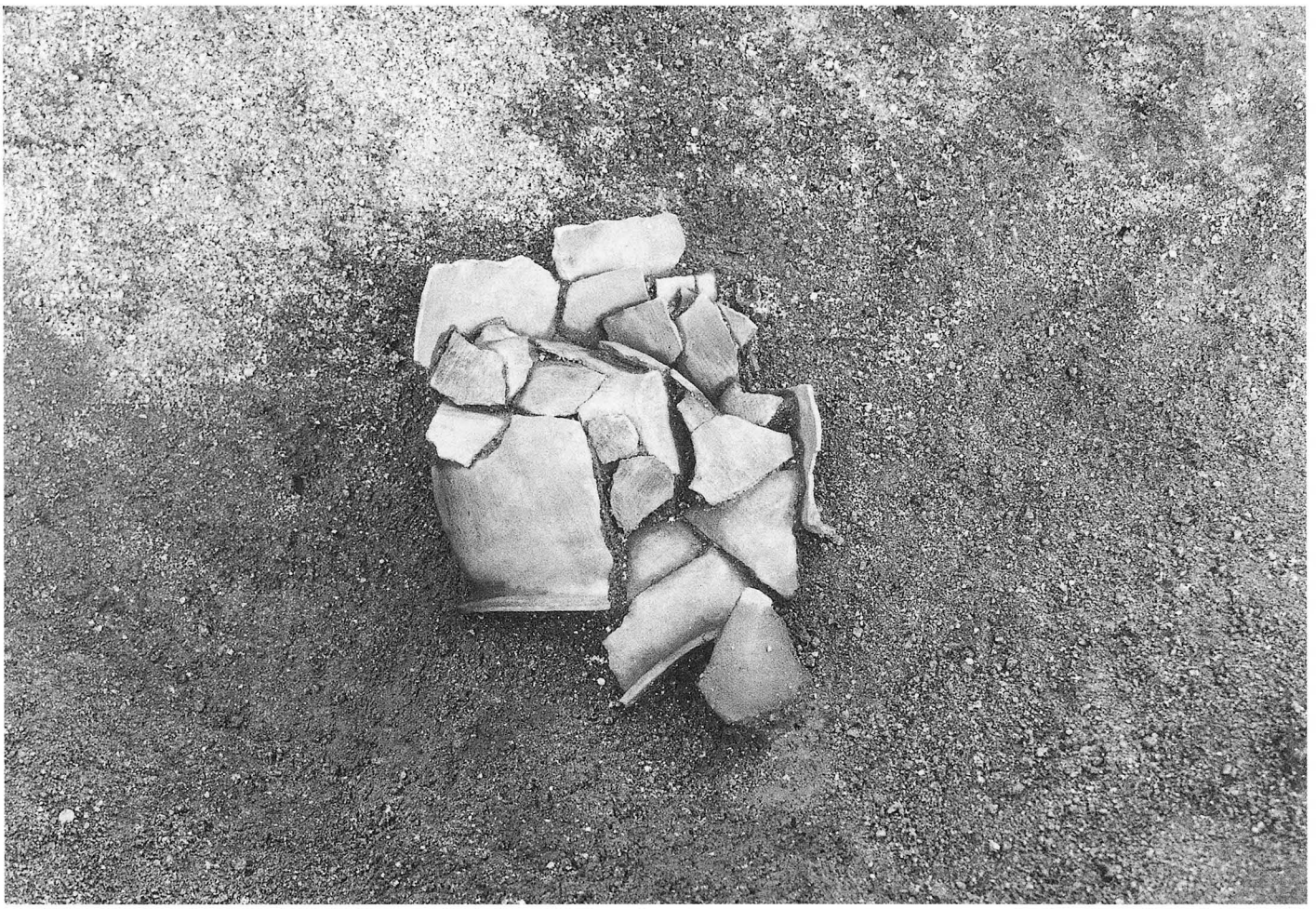
1．ＳＤ−407・ＳＫ−402（南より）



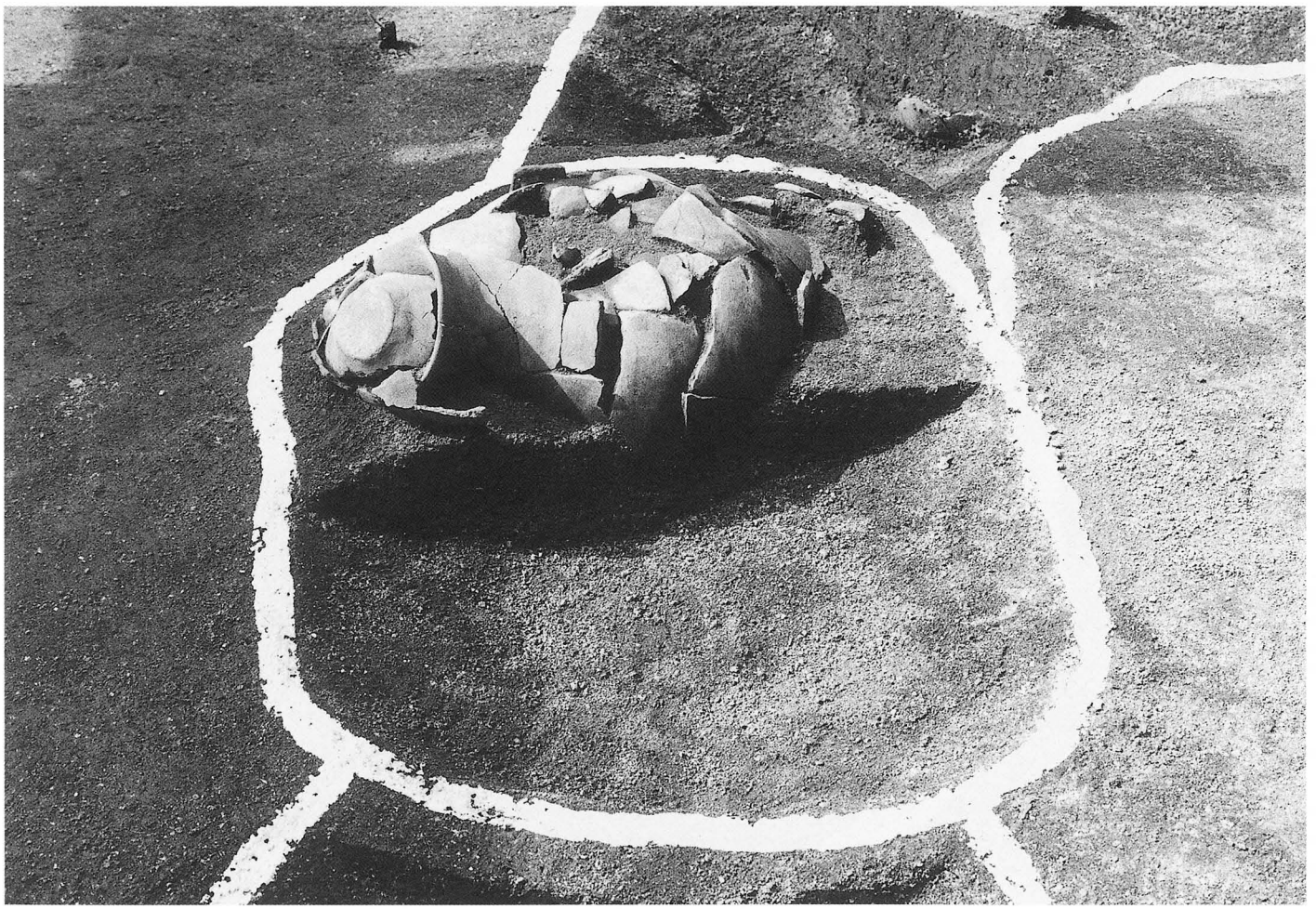
2．ＳＤ−407・ＳＫ−402（南東より）

1．ＳＤ−407・ＳＫ−402遺物出土状況

2．ＳＤ−407遺物出土状況①（北西より）



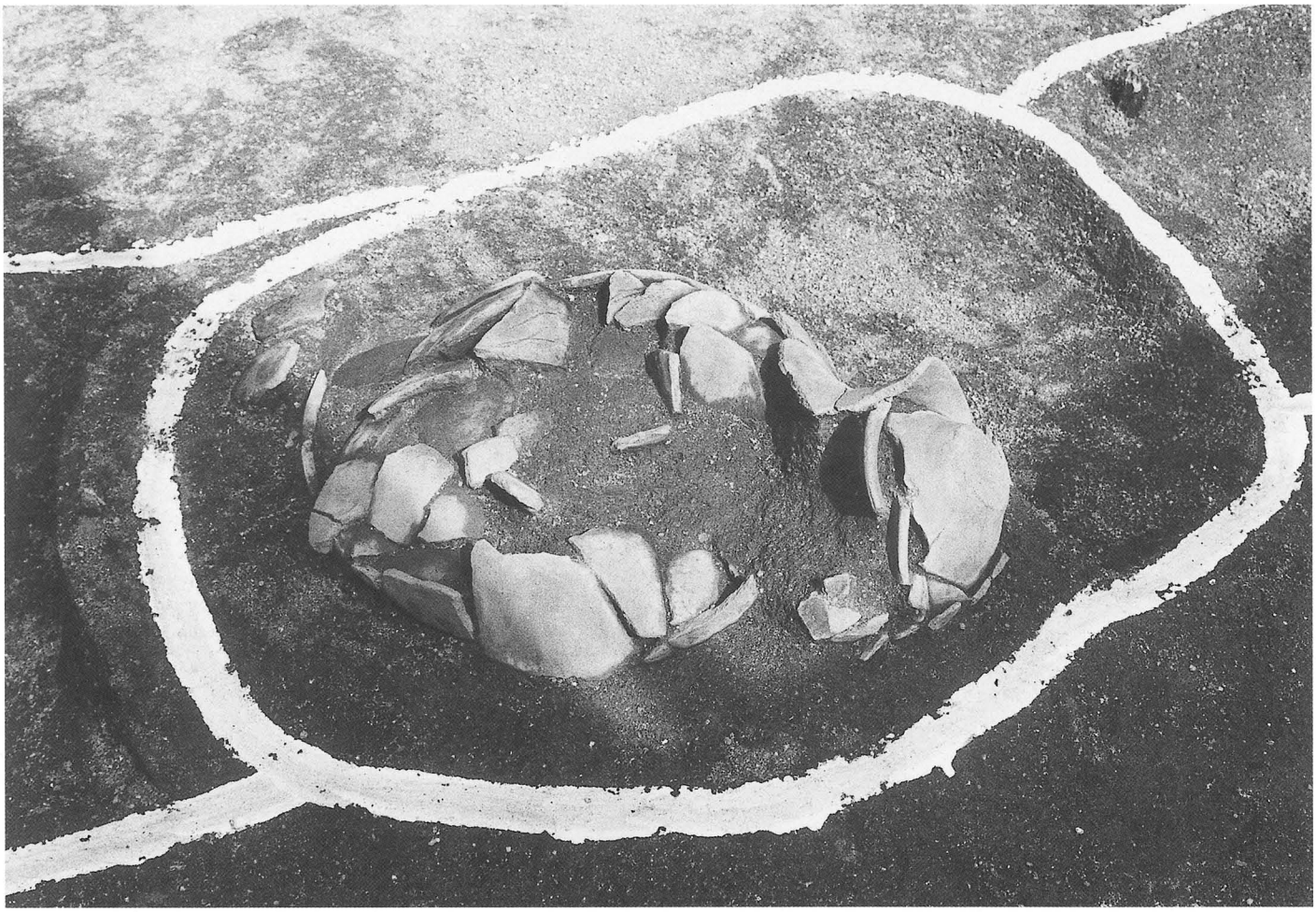
1．ＳＤ−407遺物出土状況②（西より）



2．ＳＫ−402（東より）

1．ＳＫ-402遺物出土状況①

2．ＳＫ-402遺物出土状況②

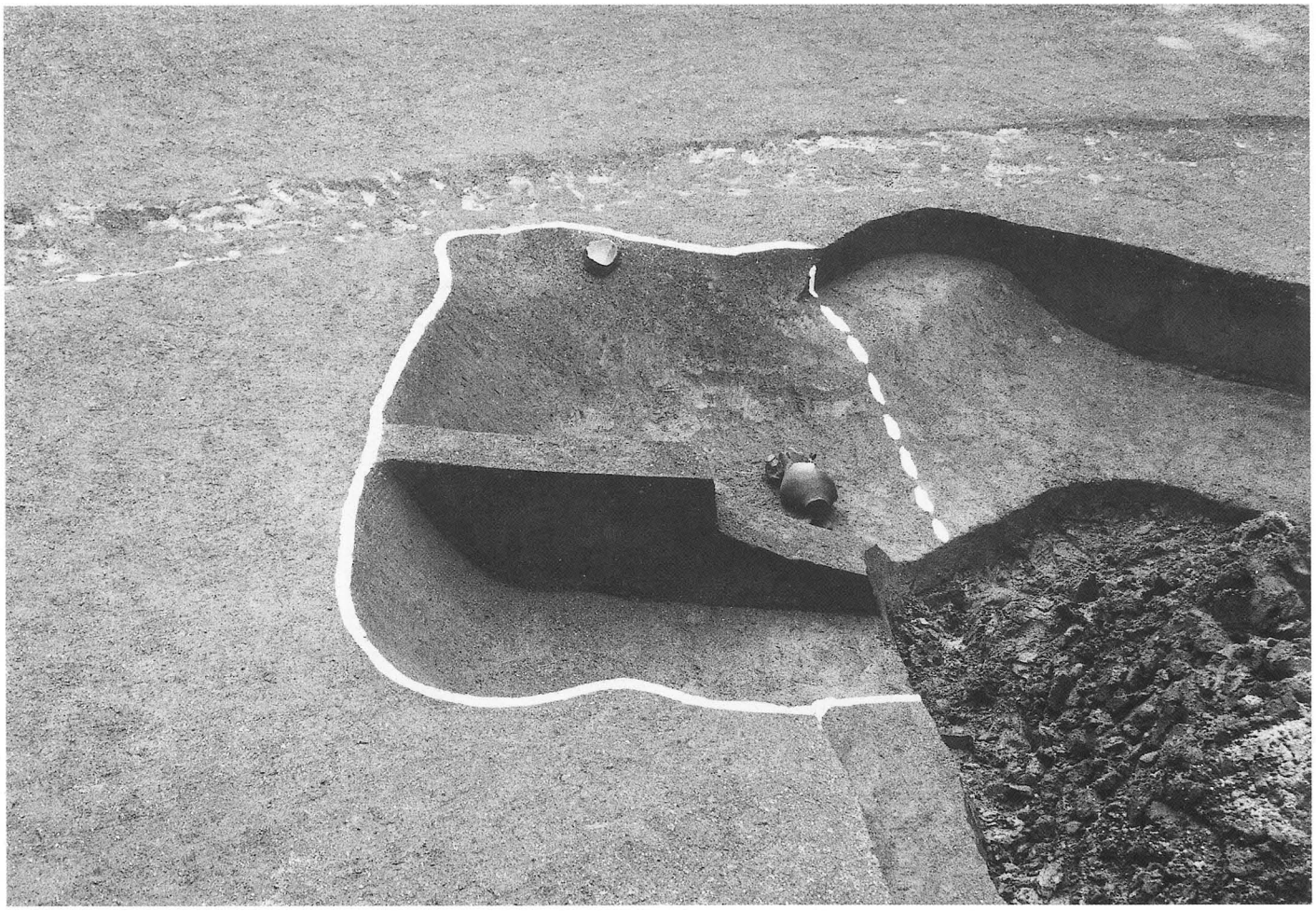


1．ＳＫ−402遺物出土状況③（北より）

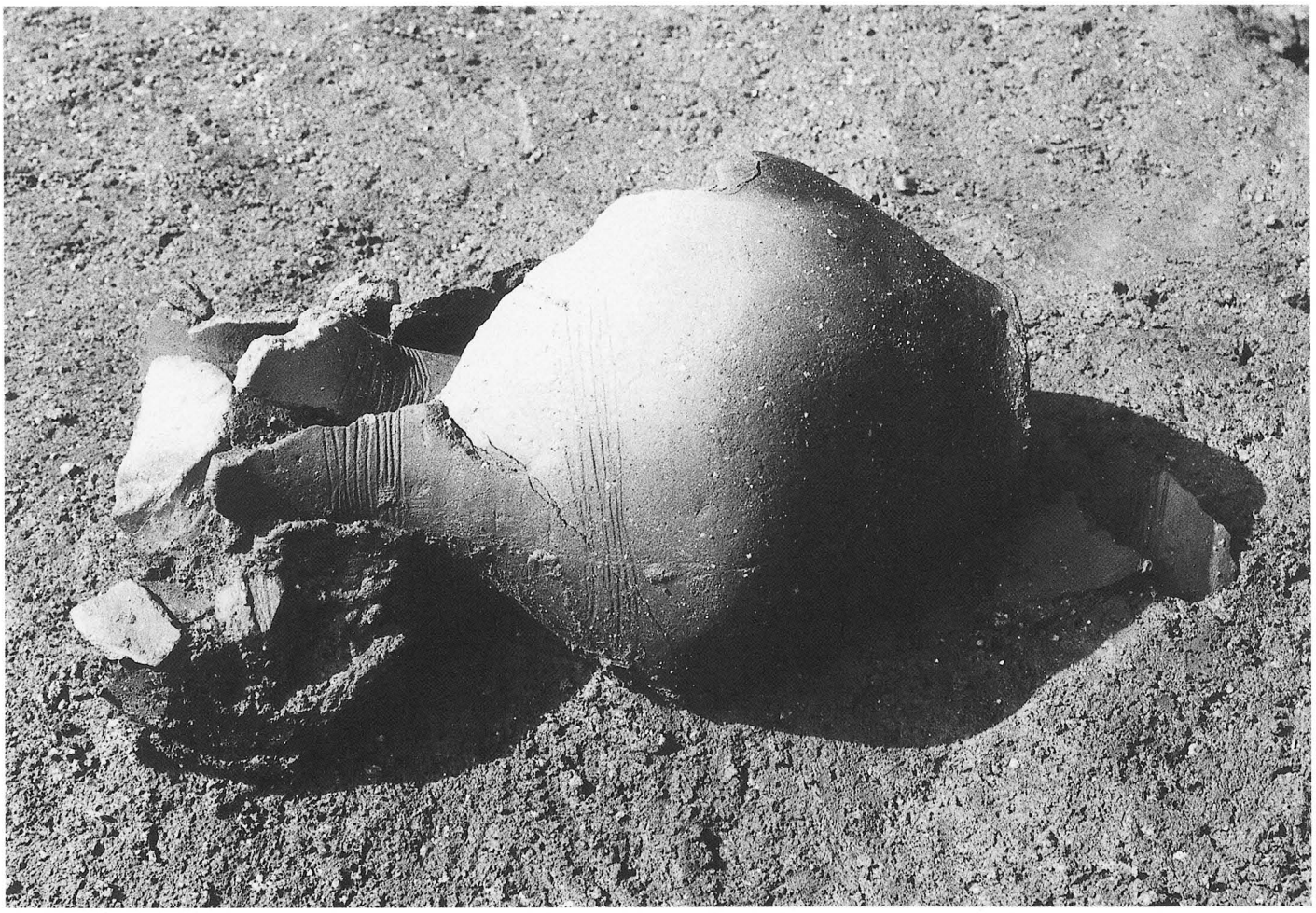
2．ＳＫ−402遺物出土状況④（東より）

1．落ち込み401（北西より）

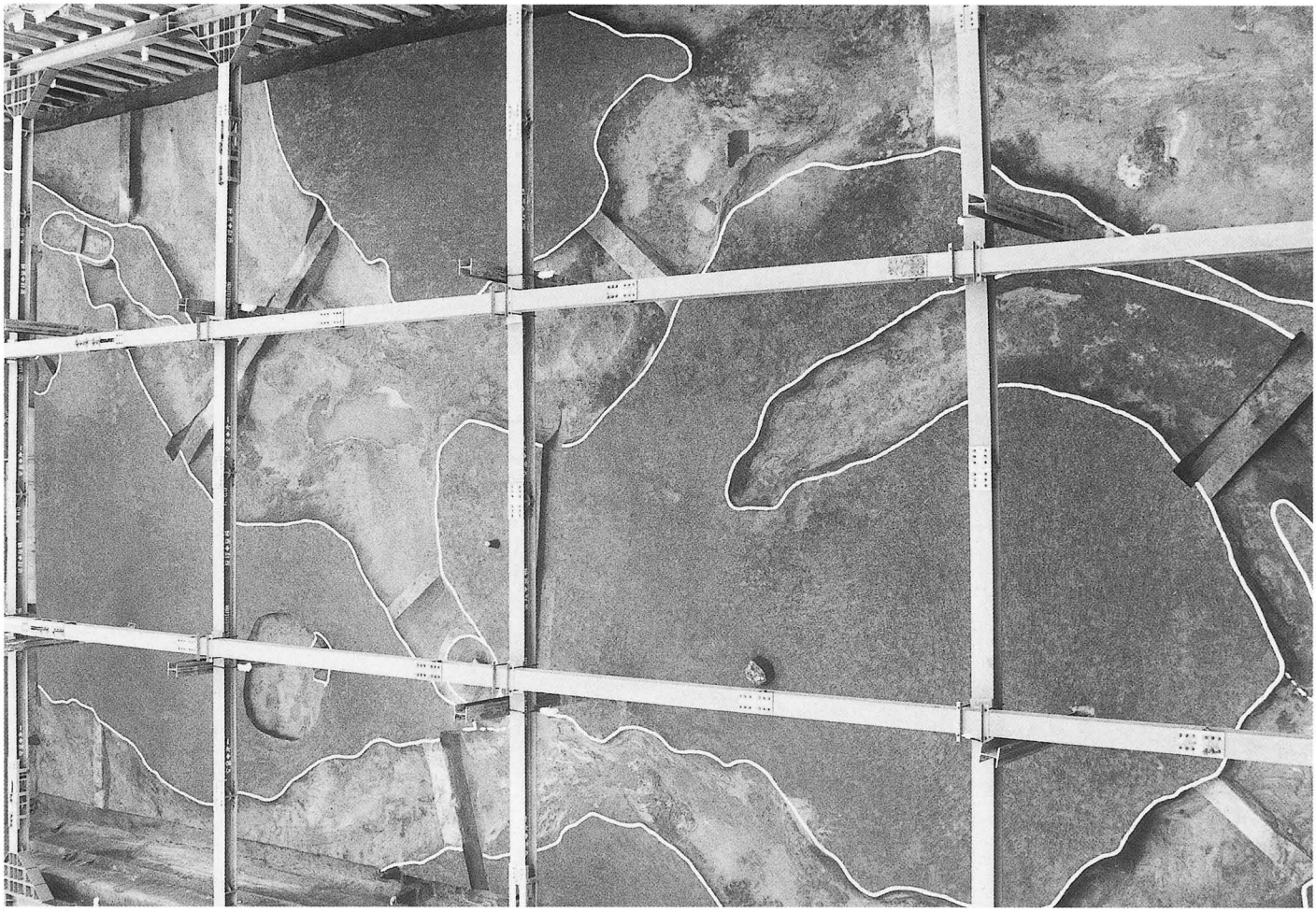
2．落ち込み401遺物出土状況（東より）



1．ＳＫ-403（北より）



2．ＳＫ-403遺物出土状況（北より）

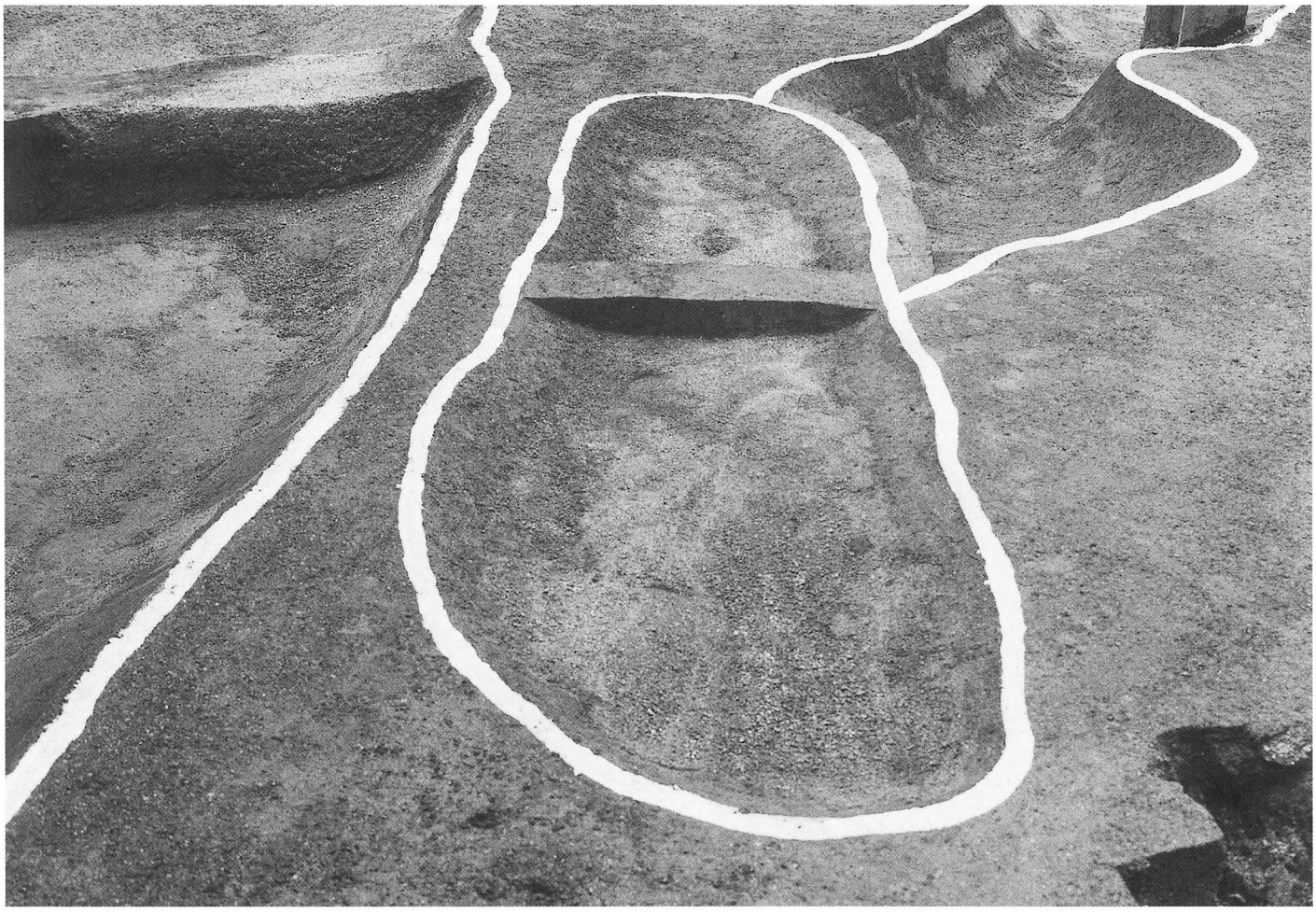


1．第５遺構面全景（西より）

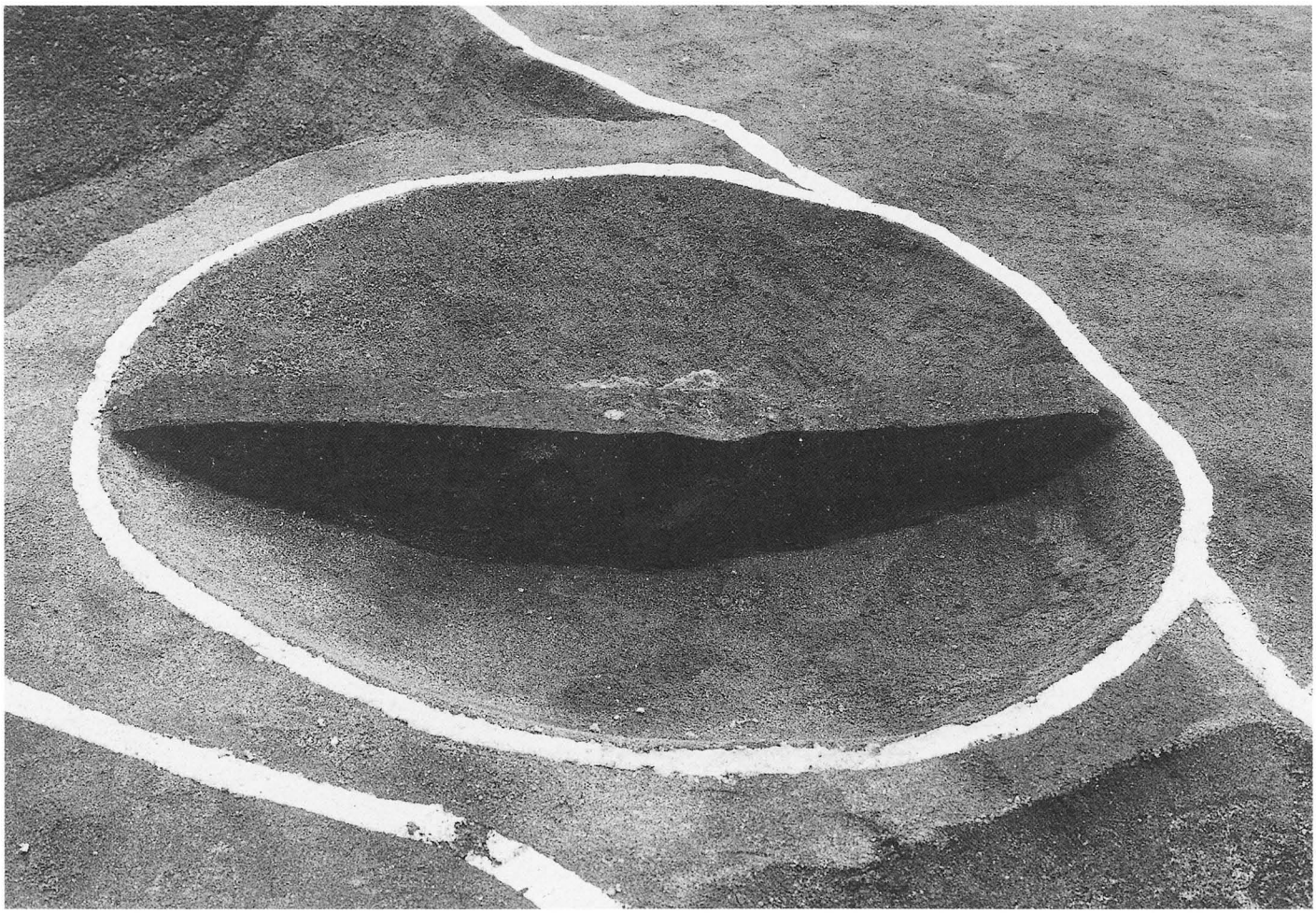
2．第５遺構面全景（東より）

1．ＳＤ−501（西より）

2．ＳＤ−501遺物出土状況（南より）



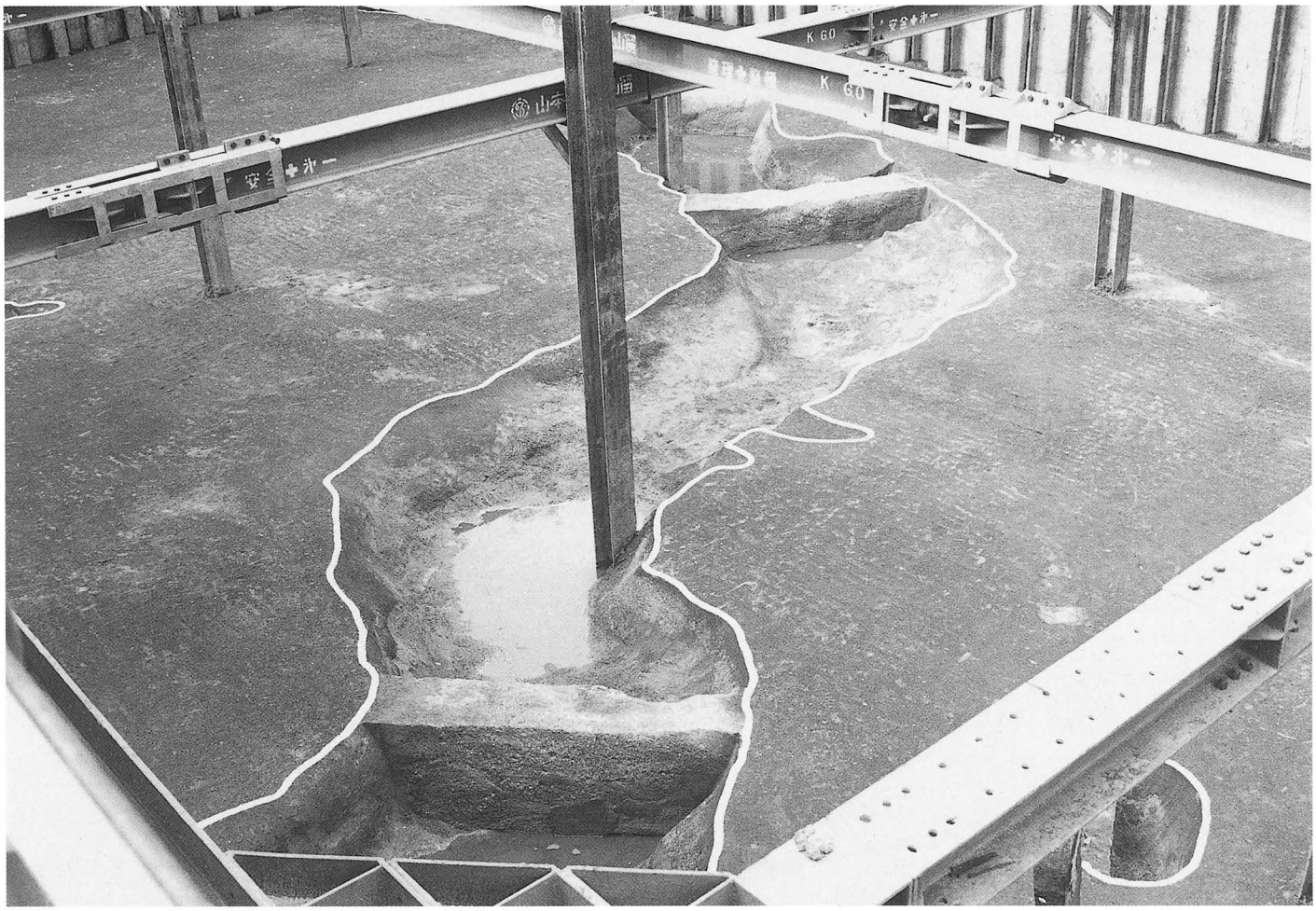
1．ＳＫ−504（東より）



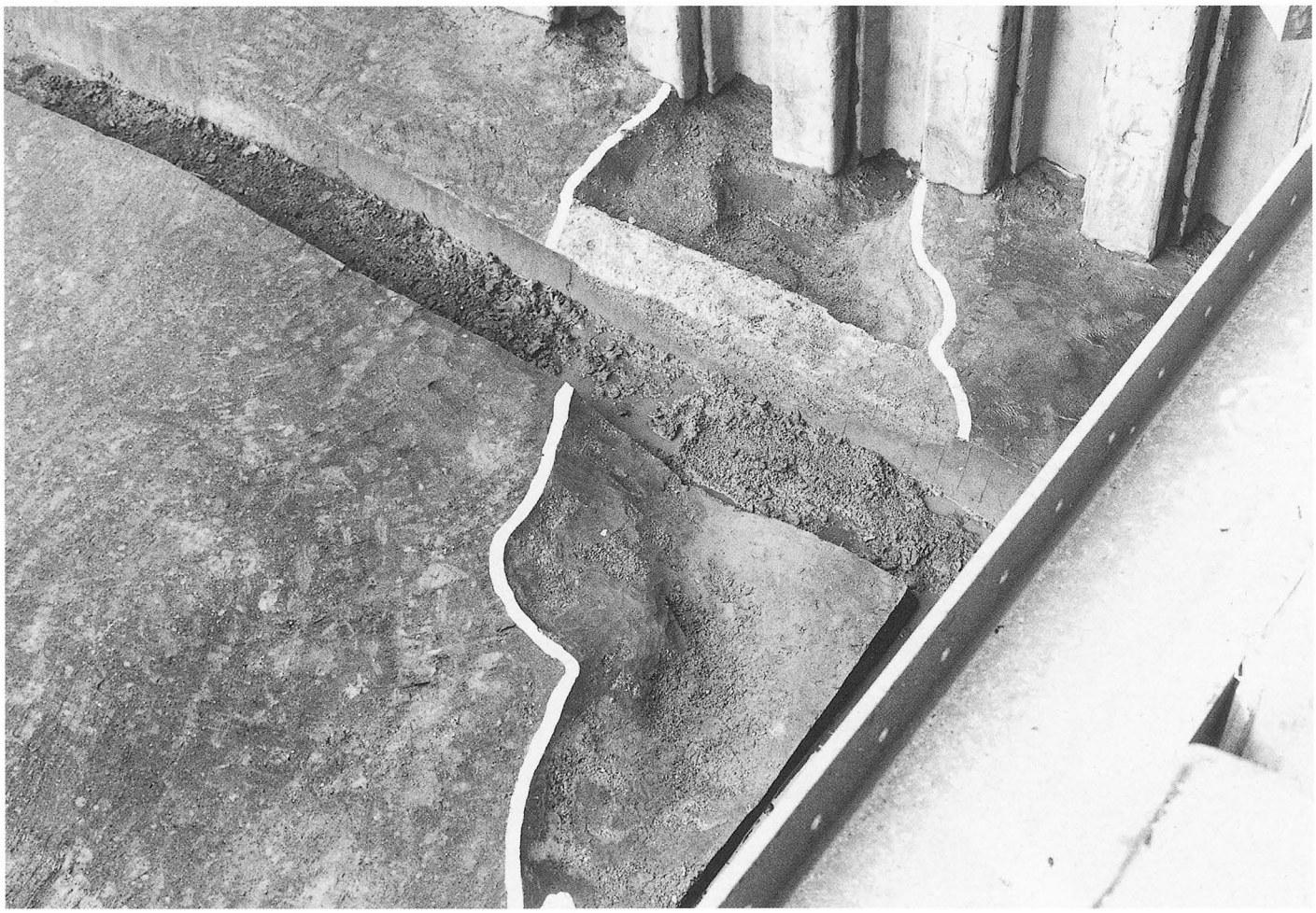
2．ＳＫ−507（北より）

1．第６遺構面全景（西より）

2．ＮＲ-601（北東より）



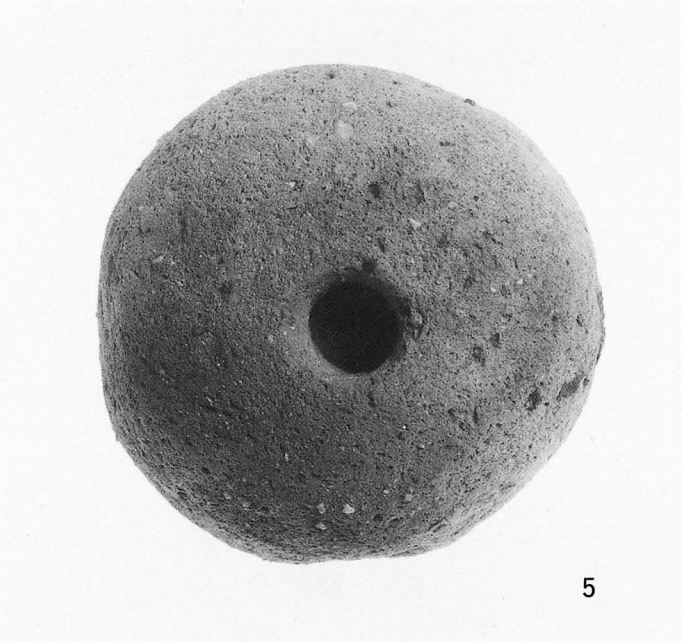
1．ＮＲ-601（南東より）

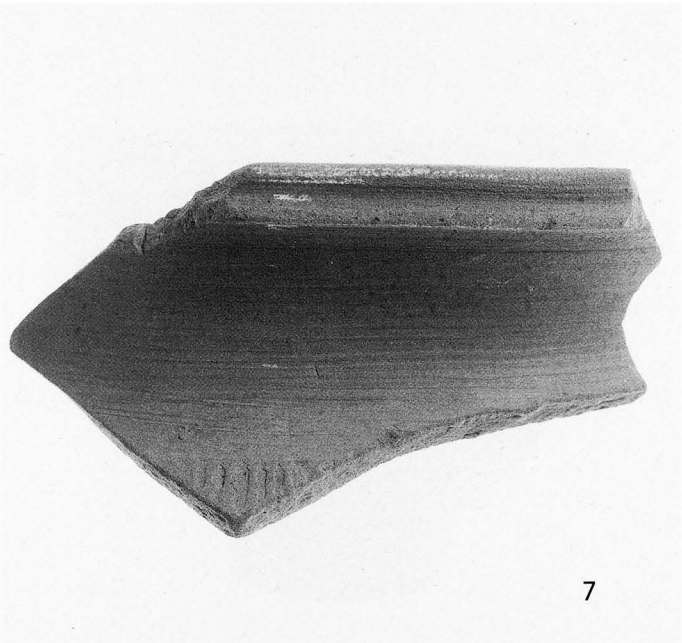


2．ＮＲ-603（南東より）

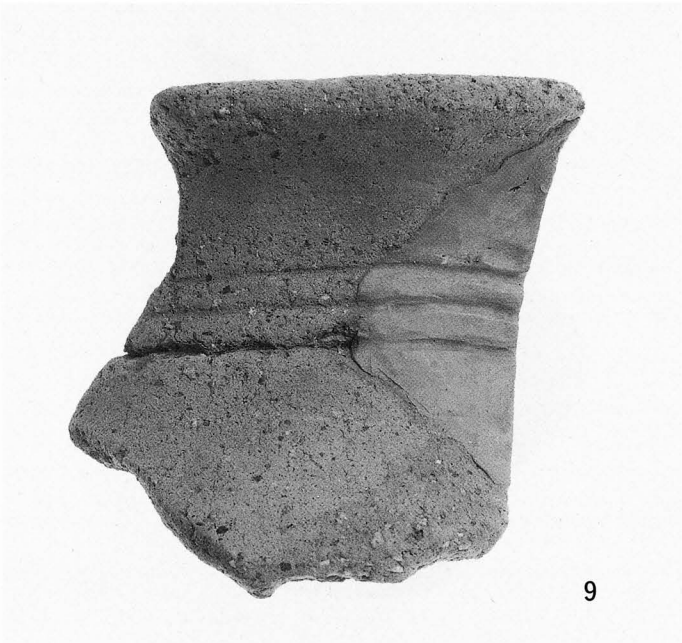
図版31　出土遺物(1)

1


5


7

8


9

10

図版32　出土遺物(2)

11

12

15

16

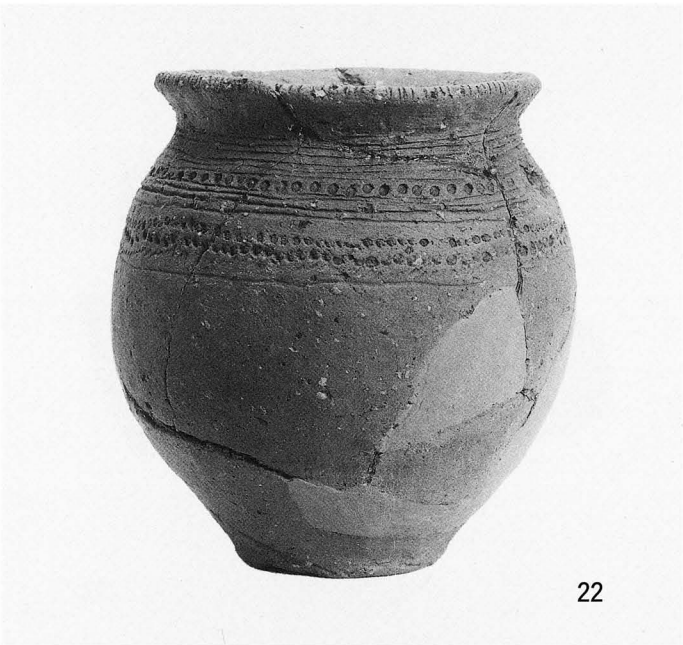
17

18

図版33　出土遺物(3)

19

20


22

23

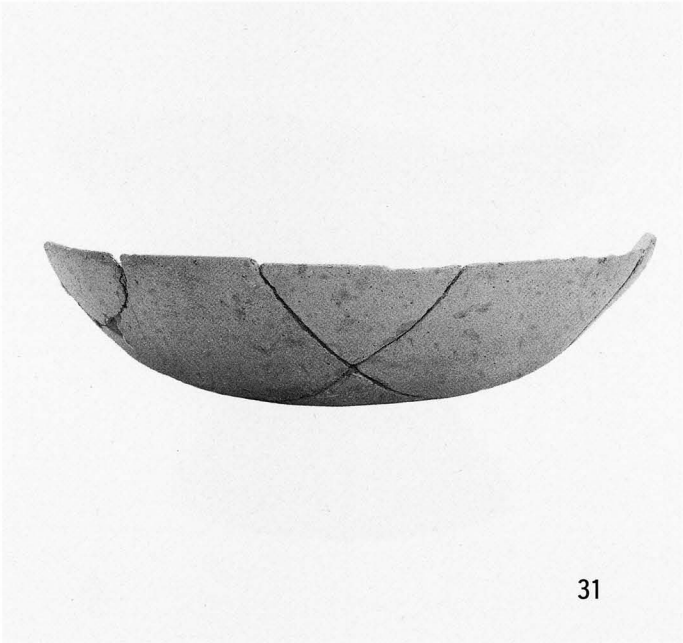
24

27

図版34　出土遺物(4)

27'

30



31

33

34

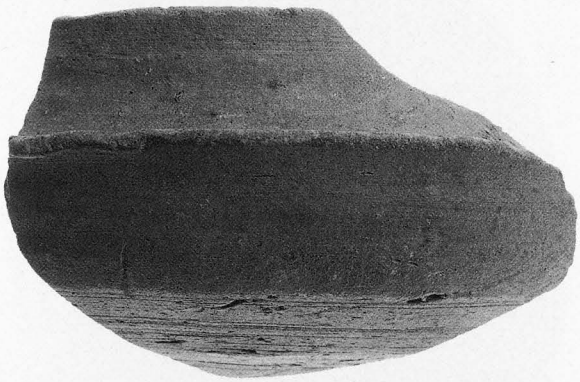
35

図版35　出土遺物(5)

37

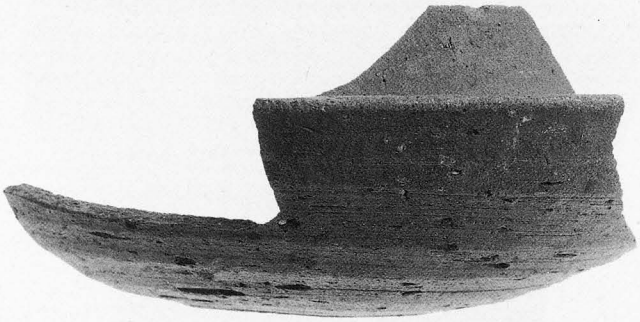
40

40'



42

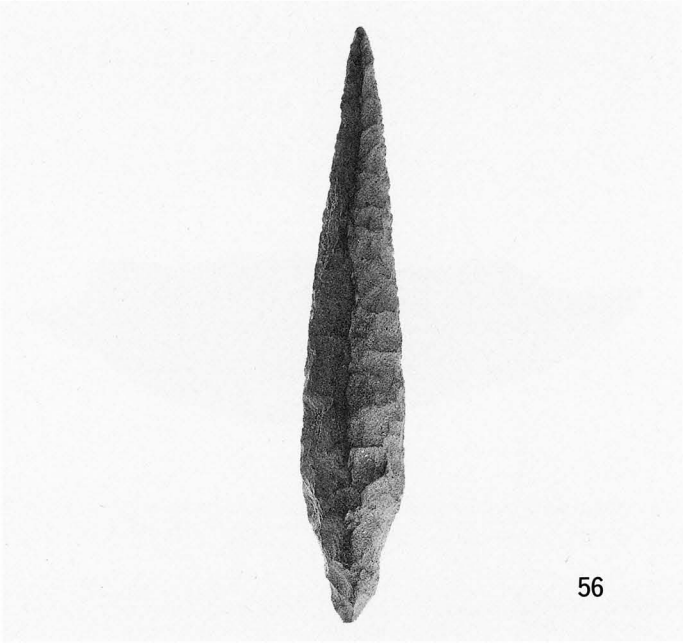
44



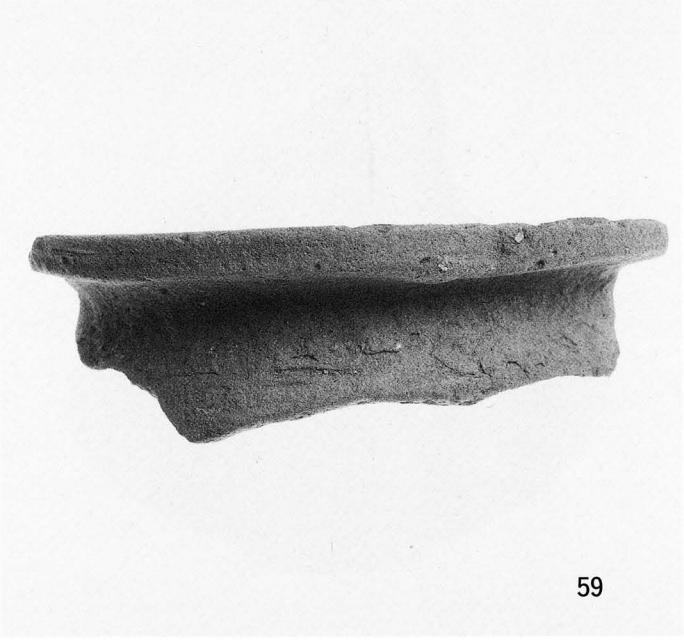
46

図版36　出土遺物(6)

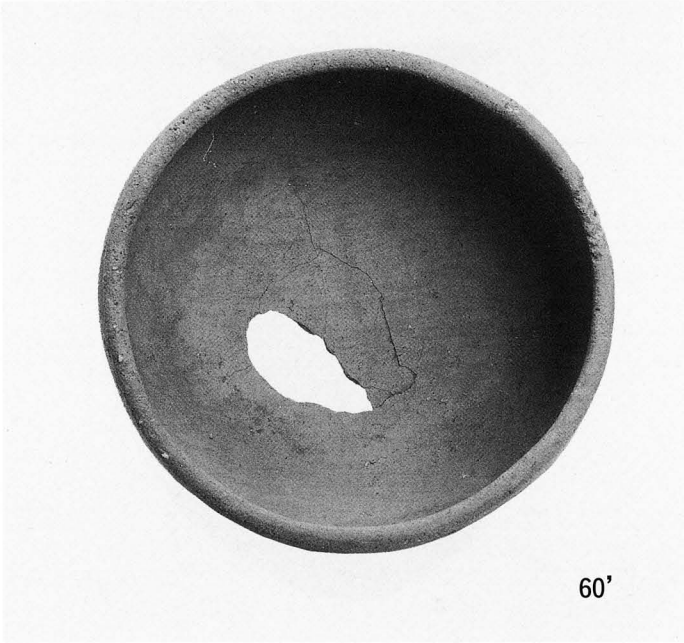
55


56

58

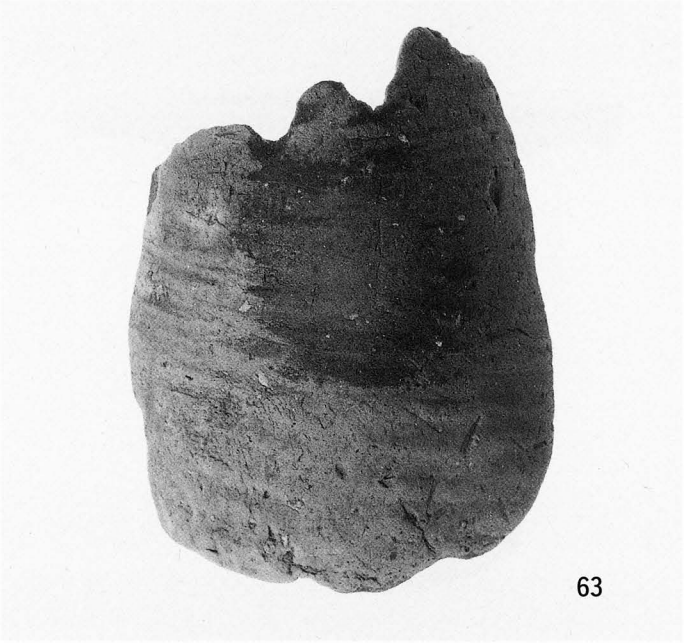

59

60


60'

図版37　出土遺物(7)

61


63

64

66

66'

67

図版38　出土遺物(8)

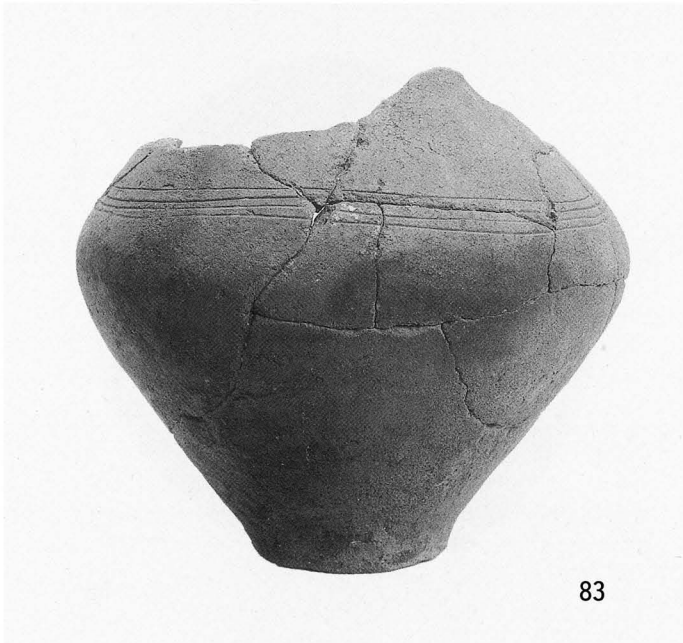
71

78

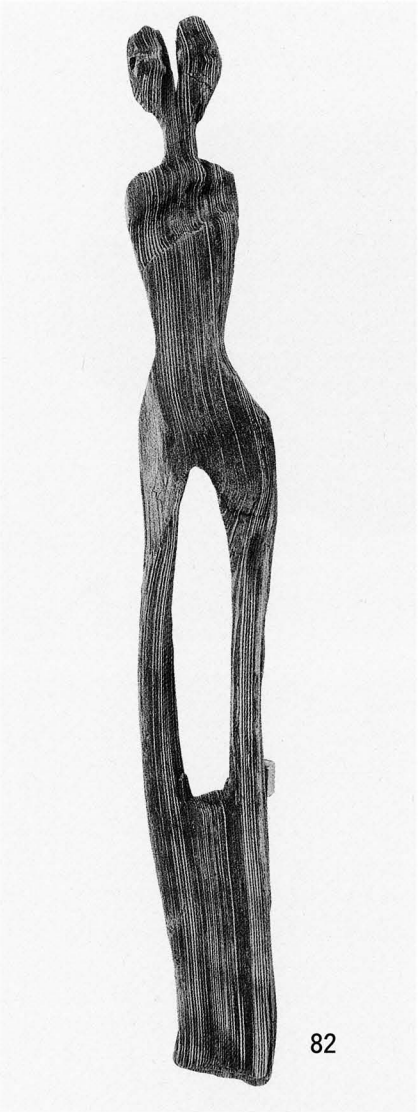
79

80

81


83

図版39　出土遺物(9)


82

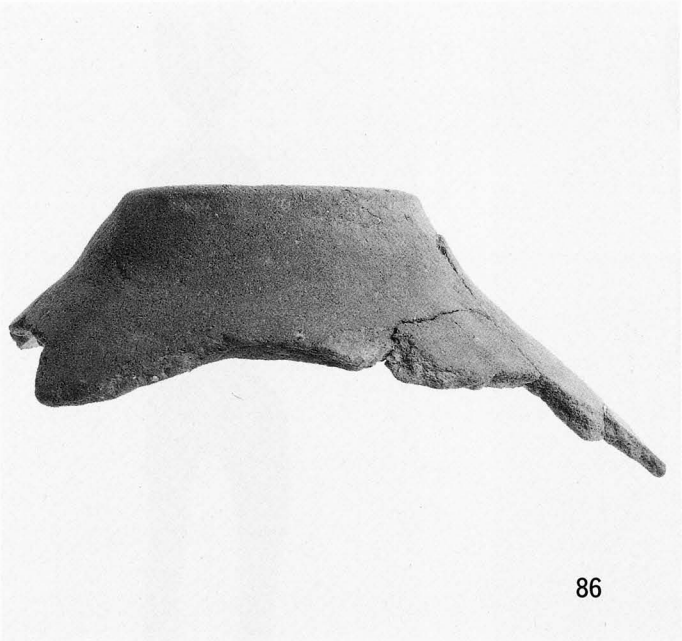
82'

82''

84

85

図版40　出土遺物(10)



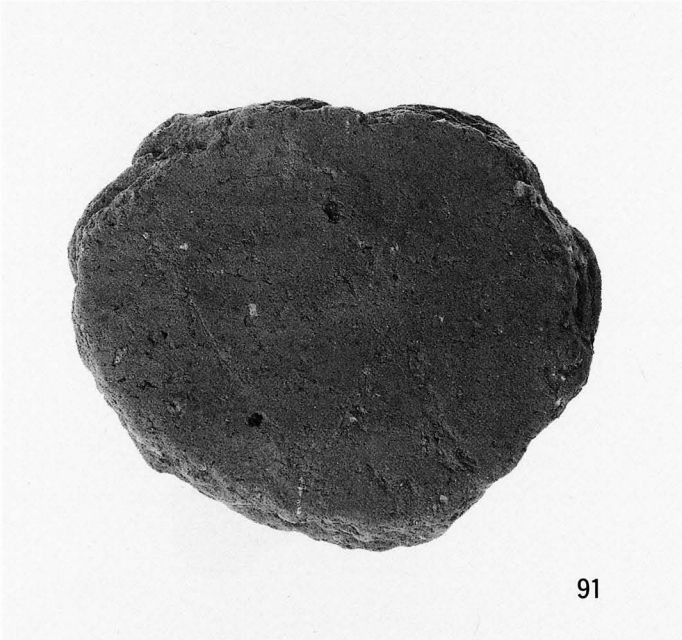
86

86'

87

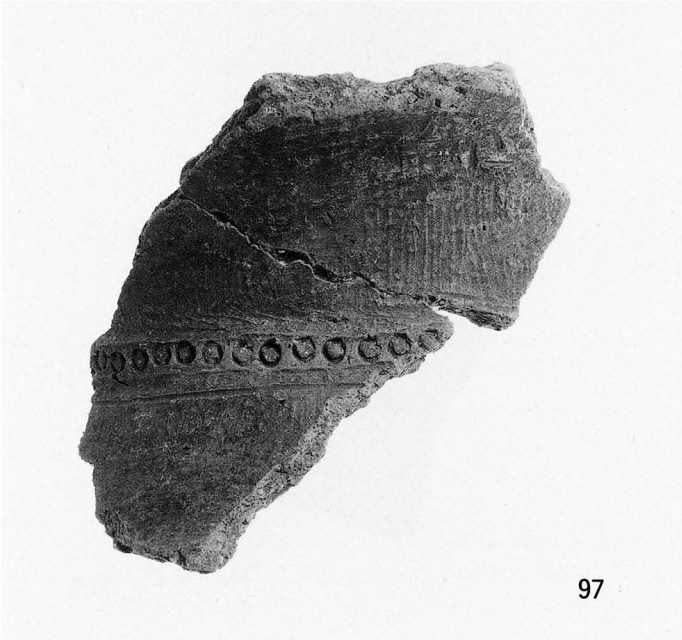
88

89


91

92

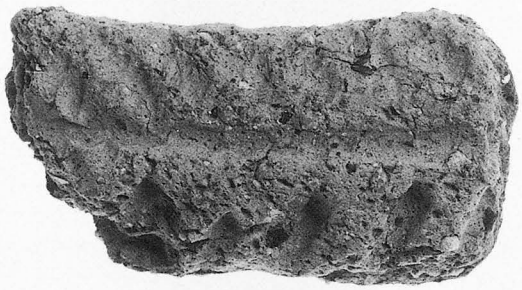
96


97

図版42　出土遺物(12)

98

100



101

102

103

104

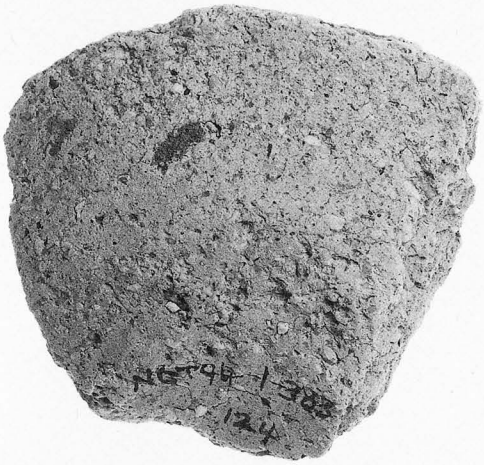
図版43　出土遺物(13)

105

106

107

108



109

110

報告書抄録

ふりがな	なかがいといせき
書名	中垣内遺跡
副書名	大阪産業大学教員研究棟（14号館）新築工事に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	大東市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第24集
編著者名	中逵健一
編集機関	大東市教育委員会
所在地	〒574－8555　大阪府大東市谷川1－1－1　　TEL　072－872－2181
発行年月日	平成18年（2006）3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中垣内遺跡（なかがいといせき）	大阪府大東市（おおさかふだいとうし）中垣内（なかがいと）	27218	4	34°42′10″	135°38′42″	1994年7月26日～1994年11月22日	575.12㎡	大阪産業大学教員研究棟（14号館）建設

所収遺跡名（ふりがな）	種別	主な時期	主な遺構	主な遺物	特記事項
中垣内遺跡（なかがいといせき）	集落	縄文時代	自然流路	土器	
		弥生時代	溝、土坑、方形周溝墓、壺棺	土器、石製品、木製品	人形状木製品
		古墳時代	溝、土坑、ピット、水田跡	土師器、須恵器	
		中世以降	鋤溝、溝	磁器、土師器	

印刷物番号
１７－６６

大東市埋蔵文化財調査報告第24集

中　垣　内　遺　跡

－大阪産業大学教員研究棟(14号館)建設に伴う発掘調査報告書－

2006年３月31日発行

編集・発行　大東市教育委員会
〒574-8555　大東市谷川１丁目１番１号
TEL．072-872-2181

印刷・製本　株式会社ミラテック
〒534-0025　大阪市都島区片町２丁目９番９号
TEL．06-6354-3081